

2021 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP <a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a> にて公表
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP [www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html](http://www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html) にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
新門 正広 (非常勤)	新門歯科医院 院長 (H10. 4. 1~)	R2. 2. 1~ R3. 7. 14	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
林 康樹 (非常勤)	社会福祉法人長命荘 事務長 (H15. 9. 1~)	同 上	同 上
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p>	
<p>1. 教員授業担当科目            新年度のシラバスデータに各授業担当教員が直接アクセスし、新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項確認および加筆・訂正を直接行う。</p> <p>2. 外来講師担当科目            郵送またはメールによって新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項内容の確認を行う。</p> <p>3. 学内にて最終確認を行う。</p> <p>4. 新年度開始時期に、印刷した新年度のシラバスを学生に配布する。            また、学校ホームページにて公開を行う。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の学習成果の評価及び単位の認定は次の学則第 23 条に基づき、筆記試験、実技試験、レポートを主軸に置き科目ごとに客観的な基準を設け判定している。</p>	
<p>1. 授業科目の評価は、試験・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。</p> <p>2. 授業科目については、随時試験を行い履修の認定を行う。</p> <p>3. 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかつた者又は不合格の者については、追試験又は再試験及び再実習を行うことができる。</p> <p>4. 出席時間数が授業時間数の 3 分の 2 に達しない者は、科目についての評価を受ける資格を失う。ただし、臨床実習については、規定時間の履修を原則とする。</p> <p>5. 臨床実習の評価は、実習内容・実習記録等によって行う。</p> <p>6. 臨床実習の履修の認定は、実習終了後に行う。</p> <p>7. 評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。合格した者には単位の認定を行う。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。

さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にG P A (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のG P (Grade Point) を付与し、次のとおり平均点 (G P A) を算出している。

1. G P A成績評価について

標語	G P	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70点未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. G P Aの算出方法

$$\frac{〔秀〕 修得単位数 \times 4 + 〔優〕 修得単位数 \times 3 + 〔良〕 修得単位数 \times 2 + 〔可〕 修得単位数 \times 1}{総履修単位数}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

【単位の計算方法】学則第21条による

1 単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30時間（講義・演習）、30～45時間（実験・実習・実技）  
45時間（臨床実習）

客観的な指標の算出方法の公表方法	学校 HP <a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a> にて公開
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③学科長は、卒業を認定したものに對し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1) 理学療法学科

2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 / 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

・学校 HP [www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html) にて公表

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

※2019年以前入学者

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3120 単位時間	1485 単位時間	765 単位時間	870 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		28人	2人	6人	92人	98人	

※2020年以降入学者

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3175 単位時間	1635 単位時間 /単位	880 単位時間 /単位	660 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2019年以前入学者と同じ		73人	0人	2019年以前入学者と同じ			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ・ 教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等 記入の確認を行う。 ・ 外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内にて最終確認を行う。</li> <li>・新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。</li> <li>・学校 HP <a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a> にて公表</li> </ul>
<b>成績評価の基準・方法</b> (概要) 成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」と判定している。 各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のGP (Grade Point) を付与し、平均点 (GPA) を算出している。
<b>卒業・進級の認定基準</b> (概要) 理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。
<b>学修支援等</b> (概要) 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後4年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (100%)
(主な就職、業界等) 医療施設（病院等）			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格、文章検定4級・3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81人	5人	6.2%

(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、経済的理由など
(中退防止・中退者支援のための取組) ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など

## ①学科等の情報

※2019年以前入学者

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3105 単位時間	1665 単位時間	405 単位時間	1035 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		19人	0人	6人	42人	48人	

※2020年以降入学者

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3160 単位時間	1740 単位時間 /単位	390 単位時間 /単位	1030 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2019年以前入学者と同じ		40人	0人	2019年以前入学者と同じ			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ・教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等 記入の確認を行う。 ・外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・学内にて最終確認を行う。 ・新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・学校 HP <a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a> にて公表。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」と判定している。</p> <p>各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP (Grade Point) を付与し、平均点 (GPA) を算出している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後4年目の年間納付金の半額 (後期納付金相当分) を免除する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (%)	4人 (36.4%)	7人 (63.6%)
(主な就職、業界等) 医療施設 (病院等)			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 作業療法士国家試験受験資格、文章検定4級・3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61人	9人	14.8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気、経済的理由など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科 作業療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 <a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院 院長 米澤 泰司	令和3年1月1日～ 令和3年12月31日	企業関係者
奈良県専修学校各種学校連合会 会長 大原 敏敬	令和2年1月1日～ 令和3年12月31日	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校 副校長 宮野 博	同 上	高校関係者
医療法人和幸会パークヒルズ田原苑 看護部長 前原 園代	同 上	地域住民
医療法人和幸会阪奈中央病院リハビリ部 部長 川原 勲	同 上	企業関係者
医療法人和幸会阪奈サナトリウム 師長 酒井 真紀	同 上	卒業生
医療法人和幸会阪奈中央病院 谷川 優香	同 上	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 <a href="http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html</a>		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

ホームページにて公開 [www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		18人	一人	20人
内 訳	第Ⅰ区分	11人	一人	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
家計急変による支援対象者（年間）				一人
合計（年間）				20人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考) ※処分を受けた者はいないが、自主退学者はあり。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの 限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の6割以下)	人	人	人
G P A等が下位4分の1	一人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

理学療法学科 教育課程

2019年度以前入学者対象

科 目	実務教員 科目	実施時間		単 位		1年次				2年次				3年次				卒業必要 単位数			
		講義	演習 実習	講義	演習 実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期					
						時間	単位	時間	単位												
基礎分野 科学的思考の 基盤 人間と生活 (14単位)	教育学	15		1		15	1														
	心理学	30		2		30	2														
	物理学	15		1		15	1														
	情報処理学	15		1		15	1														
	統計学	15		1		15	1														
	人間工学	30		2		30	2														
	医学英語	30		2		30	2														
	保健体育		30		1	30	1														
	公衆衛生学	15		1		15	1														
	コミュニケーション学	30		2		30	2														
	小 計		195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野 人体の 構造と機能 及び 心身の発達 (12単位)	解剖学Ⅰ	45		1		45	1														
	解剖学Ⅱ	45		1				45	1												
	解剖学Ⅲ	30		1		30	1														
	解剖学Ⅳ	30		1				30	1												
	生理学Ⅰ	30		1		30	1														
	生理学Ⅱ	30		1		30	1														
	生理学Ⅲ	30		1				30	1												
	生理学Ⅳ	30		1				30	1												
	基礎運動学Ⅰ	45		1		45	1														
	基礎運動学Ⅱ	60		2				60	2												
	人間発達学	30		1						30	1										
	小 計		405	0	12	0	180	5	195	6	30	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の 成り立ち 及び 回復過程の 促進 (12単位)	病理学	30		1				30	1											
		内科学Ⅰ	30		1						30	1									
		内科学Ⅱ	30		1							30	1								
		神経内科学Ⅰ	30		1						30	1									
		神経内科学Ⅱ	30		1							30	1								
外科学		15		1								15	1								
脳神経外科学		15		1								15	1								
整形外科Ⅰ		30		1						30	1										
整形外科Ⅱ		30		1							30	1									
精神医学		30		1						30	1										
小児科学		15		1							15	1									
臨床心理学		15		1							15	1									
小 計			300	0	12	0	0	0	30	1	150	6	120	5	0	0	0	0	0	0	
保健医療福祉と リハビリテーション理念 (4単位)		リハビリテーションⅠ	30		1		30	1													
	リハビリテーションⅡ	15		1				15	1												
	リハビリテーションⅢ	15		1						15	1										
	社会福祉概論	15		1																	
小 計		75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
基礎理学 療法学 (10単位)	理学療法概論	30		1		30	1														
	臨床運動学Ⅰ		30		1					30	1										
	臨床運動学Ⅱ		30		1					30	1										
	動作分析学		30		1						30	1									
	理学療法障害学		30		1					30	1										
	理学療法研究概論		15		1									15	1						
	実習演習		60		2									30	1	30	1				
	基礎理学療法学		90		2									45	1	45	1				
	小 計		75	240	3	7	30	1	30	1	60	2	30	1	90	3	75	2			
	理学療法 評価学 (9単位)	理学療法評価学Ⅰ	30	45	1	1	75	2													
理学療法評価学Ⅱ		30	45	1	1			75	2												
理学療法評価学Ⅲ		30	45	1	1					75	2										
理学療法評価演習Ⅰ			30		1					30	1										
理学療法評価演習ⅡA			45		1						45	1									
理学療法評価演習ⅡB			45		1							45	1								
小 計			90	255	3	6	75	2	105	3	120	3	45	1	0	0	0	0	0	0	
理学療法 治療学 (20単位)		運動療法学	15	30	1	1			45	2											
		物理療法学Ⅰ	30		1		30	1													
	物理療法学Ⅱ	30	30	1	1			60	2												
	義肢装具学Ⅰ	45		2						45	2										
	義肢装具学Ⅱ	15		1								15	1								
	日常生活動作学Ⅰ	30		1				30	1												
	日常生活動作学Ⅱ	30		1								30	1								
	理学療法治療各論ⅠA	30		1						30	1										
	理学療法治療各論ⅠB		30		1							30	1								
	理学療法治療各論Ⅱ	15	30	1	1							45	2								
	理学療法治療各論Ⅲ		30		1							30	1								
	理学療法治療各論Ⅳ		30		1							30	1								
	理学療法治療各論Ⅴ		30		1						30	1									
	理学療法治療各論ⅥA		30		1							30	1								
理学療法治療各論ⅥB	30		1								30	1									
理学療法治療各論Ⅶ	15		1								15	1									
小 計		285	240	12	8	30	1	135	5	105	4	255	10	0	0	0	0	0	0		
地域理学 療法学 (4単位)	生活環境論	15		1								15	1								
	リハビリテーション機器	15		1										15	1						
	地域理学療法学	15		1										15	1						
	地域サービス技術論	15		1										15	1						
小 計		60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	15	1	45	3	0	0	0	0		
臨床実習 (18単位)	観察実習		45		1			45	1												
	検査測定実習		45		1					45	1										
	評価実習		180		4							180	4								
	治療実習Ⅰ		300		6									300	6						
	治療実習Ⅱ		300		6										300	6					
小 計		0	870	0	18	0	0	45	1	45	1	180	4	300	6	300	6				
合 計	計73単位	1485	1635	63	40	570	24	570	19	525	18	645	22	435	12	375	8		103単位		



作業療法学科 教育課程

2019年度以前入学者対象

授業科目	実務教員科目に○	授業時間数		単位数		1年				2年				3年				卒業必要単位数		
		講義	演習実習	講義	演習実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期				
						時間	単位													
基礎分野 科学的思考の 基盤 人間と生活 (14単位)	物理学	○	15		1	15	1													
	統計学	○	15		1	15	1													
	情報処理学	○	15		1	15	1													
	保健体育	○	30	30		1	30	1												
	英語	○	30		2	30	2													
	教育学	○	15		1	15	1													
	心理学	○	30		2	30	2													
	文学	○	30		2	30	2													
	公衆衛生学	○	15		1	15	1													
	人間工学	○	30		2	30	2													
小計		195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野 人体の構造と 機能と心身の 発達 (17単位)	解剖学Ⅰ	○	45		2	45	2													
	解剖学Ⅱ	○	45		2			45	2											
	解剖学Ⅲ	○	30		1	30	1													
	解剖学Ⅳ	○	30		1			30	1											
	生理学Ⅰ	○	30		1	30	1													
	生理学Ⅱ	○	30		1			30	1											
	生理学Ⅲ	○	30		1	30	1													
	生理学Ⅳ	○	30		1			30	1											
	運動学Ⅰ(上肢)	○	30		1	30	1													
	運動学Ⅱ(上肢)	○	30		1			30	1											
	運動学Ⅲ(体幹・下肢)	○	30		1	30	1													
	運動学Ⅳ(体幹・下肢)	○	30		1			30	1											
	運動学実習	○		60		2					60	2								
	人間発達学	○	30		1			30	1											
	小計		420	60	15	2	195	7	225	8	60	2	0	0	0	0	0	0	0	
	専門基礎分野 疾病と傷害の 成り立ち及び 回復過程の促進 (12単位)	病理学	○	30		1			30	1										
		内科学Ⅰ	○	30		1					30	1								
内科学Ⅱ		○	30		1						30	1								
神経内科学Ⅰ		○	30		1			30	1											
神経内科学Ⅱ		○	30		1					30	1									
精神医学Ⅰ		○	30		1			30	1											
精神医学Ⅱ		○	30		1					30	1									
臨床心理学		○	30		1			30	1											
リハビリテーション医学		○	30		1					30	1									
整形外科Ⅰ		○	30		1					30	1									
整形外科Ⅱ		○	30		1						30	1								
小児科学		○	15		1						15	1		30	1					
小計		345	0	12	0	0	0	120	4	165	6	60	2	0	0	0	0	0		
専門基礎分野 保健医療福祉と リハビリテーション理念 (4単位)	リハビリテーション概論	○	30		1	30	1													
	社会学	○	15		1			15	1											
	理学療法概論	○	15		1			15	1											
	言語聴覚療法概論	○	15		1					15	1									
小計		75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	0		
専門分野 基礎作業 療法学 (7単位)	作業療法概論	○	30		1	30	1													
	作業療法管理運営	○	15		1									15	1					
	作業分析学Ⅰ	○	15		1			15	1											
	作業分析学Ⅱ	○	15		1					15	1									
	基礎作業実習Ⅰ	○		30		1	30	1												
	基礎作業実習Ⅱ	○		30		1			30	1										
	作業療法研究法	○	15		1									15	1					
	小計		90	60	5	2	60	2	45	2	15	1	0	0	30	2	0	0	0	
	専門分野 作業療法 評価学 (7単位)	作業療法評価法総論	○	15		1	15	1												
		作業療法評価法総論演習	○		30		1							30	1					
		作業療法評価技法Ⅰ	○		30		1	30	1											
		作業療法評価技法Ⅱ	○		30		1			30	1									
		作業療法評価技法Ⅲ	○		60		2					60	2							
		作業療法評価技法Ⅳ	○		30		1							30	1					
		小計		15	180	1	6	45	2	30	1	60	2	60	2	0	0	0	0	0
専門分野 作業治療学 (20単位)	身体障害作業療法総論	○	30		1			30	1											
	精神障害作業療法総論	○	30		1					30	1									
	老年障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
	発達障害作業療法総論	○	30		1						30	1								
	日常生活活動学	○	30		1						30	1								
	義肢学	○		30		1						30	1							
	装具学	○		45		1						45	1							
	福祉用具支援論Ⅰ	○	30		1					30	1									
	福祉用具支援論Ⅱ	○	30		1							30	1							
	疾患別作業療法Ⅰ(発達疾患Ⅰ)	○	15		1							15	1							
	疾患別作業療法Ⅱ(発達疾患Ⅱ)	○	15		1							15	1							
	疾患別作業療法Ⅲ(精神疾患)	○	30		1							30	1							
	疾患別作業療法Ⅳ(老年期疾患)	○	30		1							30	1							
疾患別作業療法Ⅴ(脳血管疾患)	○	45		2					45	2										
疾患別作業療法Ⅵ(整形外科)	○	45		2							45	2								
疾患別作業療法Ⅶ(難病)	○	15		1							15	1								
疾患別作業療法Ⅷ(高次脳機能障害)	○	30		1					30	1										
疾患別作業療法Ⅸ(脊髄損傷)	○	30		1							30	1								
小計		465	75	18	2	0	0	30	1	255	9	255	10	0	0	0	0	0		
専門分野 地域作業 療法学 (4単位)	地域作業療法Ⅰ	○	15		1									15	1					
	地域作業療法Ⅱ	○	15		1									15	1					
	居住環境整備論	○	15		1									15	1					
	社会生活適応論	○	15		1									15	1					
小計		60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0	0		
専門分野 臨床実習 (23単位)	臨床実習Ⅰ	○		45		1				45	1									
	臨床実習Ⅱ	○		45		1				45	1									
	臨床実習Ⅲ	○		135		3						135	3							
	総合臨床実習Ⅰ	○		405		9								405	9					
	総合臨床実習Ⅱ	○		405		9								405	9					
小計		0	1035	0	23	0	0	0	0	90	2	135	3	405	9	405	9			
合計		計73単位	1665	1440	72	36	555	26	480	18	660	23	510	17	495	15	405	9	108単位	





## 客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

本校では、公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、GPA (Grade Point Average) 制度を用いた成績評価を行い、修学指導や優秀な学生の表彰等に利用する。

成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP (Grade Point) を付与し、次のとおり平均点 (GPA) を算出している。

### 1. GPA成績評価について

標語	GP	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

### 2. GPAの算出方法

$$\frac{〔秀〕 修得単位数 \times 4 + 〔優〕 修得単位数 \times 3 + 〔良〕 修得単位数 \times 2 + 〔可〕 修得単位数 \times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

以上

### 卒業の認定に関する方針について

理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

#### 卒業の認定について

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③ 学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④ 本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

#### 1) 理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

#### 2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 / 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

以上

# 講義概要

2021年度

阪奈中央リハビリテーション専門学校

理学療法学科

《基礎分野》 =科学的思考の基盤・人間と生活=

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	曾我部 和馬	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>教育学とは、「教育」：他者と関わることについて、「学」：考え直す学問である。本講義では、この教育学の知見に、さまざまな具体的事象を関連させつつ触れることを通じて、医療従事者が、いわゆる社会的「弱者」と関わるなかで求められるべき「批判的思考」を身につけることを目指す。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに / &lt;子ども&gt;の誕生</li> <li>2 アマラとカマラ：教育学へのいざない</li> <li>3 特別支援教育：障害へのまなざしの変化</li> <li>4 豚のPちゃんを飼う：いのちの授業</li> <li>5 映画「しわ」を観る</li> <li>6 青い目茶色い目：再生産装置としての学校</li> <li>7 セクシュアリティ：批判的思考に向けて</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>学期末試験 60% 平常点 40% (出席、ミニレポート、授業への意欲・態度)</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	<p>本講義では、各自の思考を深めるべく、授業終了時にミニレポートを課し、また適宜グループディスカッションの機会を設ける予定である。</p>		

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小野 隆章	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床の 2 極であるストレスとリラックスについて理解を深め、臨床心理学につなげる。		
授業計画 Course Content	1 YG 性格検査 2 YG 解説と性格心理学 3 心理学序論（人間学）、ストレス論 4 ストレッサー、1 次・2 次ストレス 5 発症因と症状論 6 ストレス・トラランス 7 ストレス感染論 8 症状と性格 9 リラックス論 10 心理カウンセリング論 11 心理カウンセリングの種類と実際 12 リラックス法 13 防衛機制など 14 治癒と性格など 15 人生プロセス		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（論述式、持込不可）により理解力、表現力、総合力を評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	随時レジユメを使用する。テキストは用いない。口述、板書の記録が大切になる。		

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになってハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 物理量とその表し方</li> <li>2 いろいろな運動と力</li> <li>3 力のつり合いと運動の法則</li> <li>4 物体の重心と回転運動</li> <li>5 運動、仕事のエネルギー</li> <li>6 温度と熱</li> <li>7 波の運動</li> <li>8 電流と抵抗</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>小テスト 30 % 期末試験 70 %</p>		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」 羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です (Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行具合に応じて、実施の可否を判断します)。</p> <p>授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Word の基本操作 (1) : 基本的な文書作成</li> <li>2 Word の基本操作 (2) : 文書の編集</li> <li>3 Excel の基本操作 (1) : データの入力・編集</li> <li>4 Excel の基本操作 (2) : 表の作成</li> <li>5 Excel の基本操作 (3) : 数式・関数の利用</li> <li>6 Excel の基本操作 (4) : グラフの利用</li> <li>7 Excel の応用操作 : データベースとしての利用</li> <li>8 単位認定試験</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>「課題の提出」40 点、「単位認定試験」60 点で評価します。</p> <p>「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。</p> <p>※「単位認定試験」は課題レポートに変更することがあります。</p>		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安岡 良訓	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法の分野では EBM として科学的根拠に基づく理学療法が求められる。そのためには文献、論文、研究雑誌を理解できる能力が必要である。3 年生で行われる理学療法研究概論に先立ち、統計学を理解しながら理学療法のエビデンスに触れる機会とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 尺度・代表値</li> <li>2 度数分布表、グラフ</li> <li>3 正規分布、母集団と標本、標本抽出法</li> <li>4 仮説検定の考え方、2 群の平均値に関する検定</li> <li>5 3 群の平均値に関する検定</li> <li>6 相関、相関係数に関する検定</li> <li>7 データの処理と統計の実践</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「すぐできる！リハビリテーション統計」第2版 南江堂		
備 考 Other Comments	講義、グループ学習等を通して内容の理解を深める。例題、練習問題を利用する。Excel、統計ソフトを使用し統計処理方法を理解する。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 11 年の経験を有する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適なものにしていくことが、今強く求められている。特に高齢社会においては、年齢や障害の有無を問わず、誰でも豊かで健康的な生活を送るために必要不可欠なことである。</p> <p>たとえば、椅子やベッドなどの家具を身体サイズに合わせたり、照明・空調・トイレなどの住宅設備を負担の少ない快適なものにしたり、パソコンや洗濯機などの家電製品を操作しやすい安全なものにすることなどがそれに当たる。人間工学はこうしたモノや空間を様々な人々が使えるように考えていく学問である。リハビリや要介護者のケア、生活環境の改善等に関わる理学療法士・作業療法士にも当然必要な素養である。</p> <p>講義では、介護やリハビリを行う上で考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、それに合ったモノや環境づくり、そしてその使い方のガイドラインを紹介していく。</p>		
授業計画 Course Content	<p>毎回1つのテーマを取り上げていく。全体は2部構成となっており、第1部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第2部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。</p> <p>〔第1部：人の心身機能とその特性〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション ー人間工学とは何か、どう役立つのか</li> <li>2 人間工学に基づくイスの設計 ーバイオメカニクスの視点</li> <li>3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ー人体寸法とデザイン</li> <li>4 悪い姿勢が体を壊す ー運動機能と身体負担</li> <li>5 感覚は五感だけではない ー感覚の種類と視覚機能</li> <li>6 人はどのように見ているのか ー視覚の生理学</li> <li>7 人は見たモノをどのように感じているのか ー視覚の心理学</li> <li>8 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン</li> </ol> <p>加齢に伴う機能変化 ー超高齢社会への配慮</p> <p>〔第2部：介護・リハビリのための応用人間工学〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 エイジングと高齢者の居住環境 ー高齢社会に対応したモノづくり</li> <li>10 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ーユニバーサルデザインと人間工学</li> <li>11 姿勢と動作、介護現場の事例</li> <li>12 ボディメカニクス、福祉機器の設計</li> <li>13 リハビリの安全と生理</li> <li>14 演習：病院のユニバーサルデザイン</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況と試験成績。試験は授業内容を問う基本的なもの。		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備考 Other Comments	毎回プリントを配布し、必要に応じて副読本を紹介する。		

科目名 Course title	外国語 I (医学英語) ※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	人見 麻紀	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションに関する英語の運用能力の養成を目指す。教科書やプリントを使用して、日常生活動作、運動・動作表現、診断・機能評価の表現、治療上の体位の表現や訓練・リハビリテーションの表現などについて学習する。		
授業計画 Course Content	<p>* 「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」教科書の項目に沿って進める</p> <p>1 オリエンテーション (会話テストペア決め) &amp; Lesson 1・2</p> <p>2 Lesson 3～5</p> <p>3 会話テスト①</p> <p>4 Lesson 6～8</p> <p>5 Lesson 9・10</p> <p>6 会話テスト②</p> <p>7 Lesson 11・12</p> <p>8 Lesson 13・14</p> <p>9 会話テスト③</p> <p>10 Lesson 15・16</p> <p>11 Lesson 17・18</p> <p>12 会話テスト④</p> <p>13 Lesson 19・20</p> <p>14 Lesson 21・22</p> <p>15 会話テスト⑤ 期末テスト</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>会話テスト      50%      (10 点×5 回=50 点)</p> <p>単位認定試験    50%      (50 点)</p>		
教科書 Textbooks	「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」    メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 理学療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験1級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および1年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靭帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ラケット競技 (バドミントン・ショートテニス・卓球) 3 バドミントン 4 卓球 5 バレーボール 6 バレーボール 7 ショートテニス 8 バスケットボール 9 バドミントン 10 バスケットボール 11 卓球 12 フットサル 13 ショートテニス 14 フットサル 15 バレーボール		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席重視		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	三宅 眞理	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。</p> <p>一般目標 (GIO) : 現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。</p> <p>行動目標 (SBOs) : ①公衆衛生学の必要性和重要性を説明できる。</p> <p>②公衆衛生のしくみについて理解し、疫学・保健統計から説明できる。</p> <p>③身のまわりの環境と健康 (環境保全、食品の安全、環境行政) について理解し実践できる。</p> <p>④感染症とその予防対策について理解し実践できる。</p> <p>⑤母子保健、学校保健における保健活動について理解し実践する力を養成する。</p> <p>⑥成人保健、高齢者保健、歯科保健について理解し健康増進を実践する力を養成する。</p> <p>⑦精神保健、国際保健における保健活動について理解し実践する力を養成する。</p> <p>⑧職場と健康や健康危機管理を理解し、保健医療の専門職としての公衆衛生活動を実践できる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 公衆衛生とは、公衆衛生学の活動対象 : 1 章, 2 章</p> <p>2 公衆衛生学のしくみ, 疫学・保健統計 : 3, 4 章</p> <p>3 環境と健康 : 5 章</p> <p>4 感染症とその予防対策, 国際保健 : 6 章 7 章</p> <p>5 地域における公衆衛生の実践 母子保健, 学校と健康 : 8 章 B, 9 章</p> <p>6 地域における公衆衛生の実践 成人保健, 高齢者保健, 歯科保健 : 8 章 C, 8 章 D, 8 章 F</p> <p>7 地域における公衆衛生の実践 精神保健, 障害者保健・難病 : 8 章 E, 8 章 G</p> <p>8 職場と健康, 健康危機管理, まとめ : 10 章, 11 章</p>		
成績評価等	【成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria】 筆記試験		
教科書 Textbooks	公衆衛生がみえる 2020-2021		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>自分自身の性格を知った上で、自身が集団においてどのように振る舞えるのか、振る舞うべきなのかを学び、さらに臨床実習に必要な対人スキルを学ぶ。</p> <p>それらを理解したのち、社会人としてだけではなく、さらに医療を担う者として、どのようなコミュニケーション能力が必要か、また患者に対して、チーム医療としてのコミュニケーションの重要性を学び、実技を交えて習得していくことを目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 PT の学校に入ってから自身の現状を理解する</li> <li>2 医療者に必要な身なり、態度を理解する</li> <li>3 コミュニケーションとは。臨床実習で必要とされるコミュニケーションとは</li> <li>4 自分を理解する（エゴグラム等）</li> <li>5 自己肯定感の必要性。持つ方法</li> <li>6 自身の態度を知る。ポーターの態度類型</li> <li>7 PTS に求められる態度を考える</li> <li>8 クラスでの取り組み方について考える（学ぶ空間）</li> <li>9 言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション</li> <li>10 観察する力と傾聴する力について考える。身につける。</li> <li>11 伝える力を身につける</li> <li>12 OSCE を使用したコミュニケーションの実践練習</li> <li>13 社会人のマナーとしてのコミュニケーション</li> <li>14 臨床で役立つコミュニケーションスキル</li> <li>15 実際の患者を想定したコミュニケーションの実践</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第2版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 5 年の経験を有する。		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	伊藤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>人体を構成する器官のうち、骨格と関節・靭帯について学ぶ。 各部位の名称とともに、その構造や働きについて理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 骨学総論 骨格の分類 骨の形態 形態による分類</li> <li>2 骨学総論 骨の構造（肉眼的構造、骨組織の構造） 骨発生 骨の新生</li> <li>3 骨学各論 頭蓋骨： 顔面頭蓋、神経頭蓋</li> <li>4 頭蓋骨： 内頭蓋底、外頭蓋底</li> <li>5 脊柱：脊柱の弯曲、各部位の特徴</li> <li>6 胸郭：構成する骨（胸椎、胸骨、肋骨）</li> <li>7 上肢骨：上肢帯骨（鎖骨、肩甲骨）</li> <li>8 上肢骨：自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨）</li> <li>9 下肢骨：下肢帯（寛骨、骨盤）</li> <li>10 下肢骨：大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨</li> <li>11 骨実習</li> <li>12 骨実習</li> <li>13 関節・靭帯総論 関節の種類と基本構造、滑膜性関節の形態による分類と軸</li> <li>14 関節・靭帯各論 頭蓋の連結：縫合、顎関節</li> <li>15 脊柱：椎体間の連結、靭帯 椎弓間の連結、脊柱と頭蓋の連結・靭帯</li> <li>16 胸郭：肋椎関節、胸肋関節、軟骨間関節、肋骨肋軟骨連結、胸郭の運動</li> <li>17 上肢：上肢帯の連結、自由上肢の連結（肩関節と靭帯）</li> <li>18 上肢：肘関節と靭帯</li> <li>19 上肢：下腕尺関節、手関節と靭帯、指骨間関節と靭帯</li> <li>20 関節実習（顎関節、環椎後頭関節、環軸関節、肋椎関節、肩関節、肩鎖関節、肘関節）</li> <li>21 下肢：下肢帯（寛骨、仙腸関節）自由下肢の連結（股関節）</li> <li>22 下肢：自由下肢の連結（膝関節、脛腓関節、足関節、足根骨の関節）</li> <li>23 関節実習（仙腸関節、股関節、膝関節、足関節、足根骨の関節）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>実習の評価点、小テスト、授業態度、試験の成績を合わせて行う</p>		
教科書 Textbooks	<p>「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」 南江堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>2時間ごとにまとめの小問題を配布し、自力で回答することを重視している</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	伊藤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>全身の筋を知り、起始・停止の部位から作用を理解できる。          神経の基本構造を知り、筋・臓器との関連を理解できる。伝導路の構成を理解できる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 筋学総論 骨格筋組織、筋の構造と形態による分類、筋の補助装置、運動単位</li> <li>2 筋学各論 上肢の筋（上肢帯、上腕の筋）</li> <li>3 上肢の筋（前腕、手の筋）</li> <li>4 下肢の筋（下肢帯、大腿、下腿の筋）</li> <li>5 下肢の筋（足の筋）</li> <li>6 体幹の筋（頭頸部の筋）</li> <li>7 体幹の筋（背部、胸部、腹部の筋）</li> <li>8 筋学実習（骨格標本と筋のペーパーモデルを用いて）</li> <li>9 神経学総論（神経組織、神経系の分類と構成）</li> <li>10 神経学総論（神経系の発生、脊髄と脳の発生、末梢神経系の発生）</li> <li>11 神経学各論 中枢神経系（脊髄）</li> <li>12 中枢神経系（脳幹、小脳）</li> <li>13 中枢神経系（間脳、終脳）</li> <li>14 中枢神経系（終脳）</li> <li>15 末梢神経系（脊髄神経）</li> <li>16 末梢神経系（脊髄神経）</li> <li>17 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路）</li> <li>18 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路）</li> <li>19 末梢神経系（自律神経）</li> <li>20 伝導路（下行性：錐体路と錐体外路）</li> <li>21 伝導路（上行性：感覚の伝導路）</li> <li>22 伝導路（上行性：感覚の伝導路）</li> <li>23 復習</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>実習の評価点、小テスト、授業態度、試験の成績を合わせて行う</p>		
教科書 Textbooks	<p>「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版」 医学書院          「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」 南江堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>2 時間ごとにまとめの小問題を配布し、自力で回答することを重視している</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する</li> <li>2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜</li> <li>3 細胞分裂、組織：上肢組織</li> <li>4 組織：支持組織、筋組織、神経組織</li> <li>5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環</li> <li>6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈）</li> <li>7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢</li> <li>8 静脈：脳、上肢、奇静脈系</li> <li>9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環</li> <li>10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓</li> <li>11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭</li> <li>12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸</li> <li>13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造</li> <li>14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道</li> <li>15 腹膜、間膜</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>終講後試験を行う。(100%)</p>		
教科書 Textbooks	<p>「ネッター解剖学アトラス 原著第 6 版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂 20 版」 南山堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>器官系ごとに問題を配布する。</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅳでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系、生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭</li> <li>2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔</li> <li>3 泌尿器系：腎小体、尿細管</li> <li>4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構</li> <li>5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体</li> <li>6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎</li> <li>7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体</li> <li>8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰</li> <li>9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤</li> <li>10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体</li> <li>11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン</li> <li>12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚</li> <li>13 眼：眼球の構造</li> <li>14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜</li> <li>15 耳：中耳、内耳の構造</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>終講後試験を行う。(100%)</p>		
教科書 Textbooks	<p>「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>器官系ごとに問題を配布する。</p>		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生体の機能、働きとそのメカニズム・仕組みを学ぶ。</p> <p>生命現象発現の基本単位は細胞である。細胞が集合して組織を形成し、数種の組織が集合して器官となり、さらに多くの器官が集合して個体となる。ミクロからマクロに視点を移すにつれ、複雑な機能が発現する。細胞に存在する声明の諸反応の基本から器官レベルまでを知る。またそれらが、結合され保たれていることを一貫して理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生理学の基礎① 細胞の機能的構造</li> <li>2 生理学の基礎② 物質の移動</li> <li>3 神経の基本的機能① 神経細胞の構造と働き 活動電位</li> <li>4 神経の基本的機能② 興奮の伝導</li> <li>5 神経の基本的機能③ 興奮の伝導</li> <li>6 筋肉の基本的構造① 骨格筋の構造と作用</li> <li>7 筋肉の基本的構造② 筋収縮の仕組み</li> <li>8 筋肉の基本的構造③ 筋収縮のエネルギー代謝</li> <li>9 筋肉の基本的構造④ 平滑筋と心筋</li> <li>10 神経系の構成① 反射の基礎 神経系の構成</li> <li>11 神経系の構成② 脊髄と脊髄神経</li> <li>12 神経系の構成③ 脳幹と脳神経</li> <li>13 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系</li> <li>14 自律神経系と内臓機能② 化学伝達物質と受容体</li> <li>15 自律神経系と内臓機能③ 内臓反射</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験</p> <p>100 点満点中 60 点以上で合格とする。</p>		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能、働きとそのメカニズム・仕組みを学ぶ。</p> <p>様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。</p> <p>本科目では、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝について学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 循環系の機能① 心臓の構造と心筋の働き</li> <li>2 循環系の機能② 心電図 心臓のポンプ機能</li> <li>3 循環系の機能③ 血管の構造と働き リンパ管系</li> <li>4 循環系の機能④ 血圧とその調節</li> <li>5 循環系の機能⑤ 局所の循環</li> <li>6 呼吸の生理学① 呼吸器系の構造 換気の仕組み</li> <li>7 呼吸の生理学② 肺機能ガス交換</li> <li>8 呼吸の生理学③ ガス交換とガス分圧</li> <li>9 呼吸の生理学④ 呼吸の調節 呼吸の異常</li> <li>10 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化</li> <li>11 消化と吸収② 肝胆膵の働き</li> <li>12 消化と吸収③ 小腸内の消化と吸収</li> <li>13 消化と吸収④ 大腸の働きと排便 肝臓の機能</li> <li>14 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量</li> <li>15 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験</p> <p>100点満点中60点以上で合格とする。</p>		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第8版」 南江堂		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 多章	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は理学療法士にとって必ずマスターしておかなければならない学問である。障害された「日常生活に必要な基本動作」の回復を促すには、ヒトの解剖学的知識に加え生理学的知識、特に中枢神経系が如何に身体からの情報を受け取り、処理し、そして身体を制御しているのかという生理学的知識が不可欠である。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 神経細胞とシナプスに関する復習、中枢神経系の構造・機能の網羅的学習</li> <li>2 脳室と脳脊髄液・血液脳関門のはたらき、必須アミノ酸と脳内ホルモンの関係</li> <li>3 生命維持装置としての脳のしくみ：脳幹、間脳（視床と視床下部）の構造・機能</li> <li>4 運動（動作）制御のしくみ：大脳基底核の構造・機能、小脳の構造・機能</li> <li>5 筋と骨の動き：骨格筋・心筋・平滑筋・骨の構造・機能、骨の成長・老化</li> <li>6 高次脳機能・情動の発現のしくみ：大脳皮質の構造・機能、間脳による情動発現</li> <li>7 記憶のしくみ：辺縁系の構造・機能、理学療法・作業療法と記憶の関連</li> <li>8 一般感覚：体性感覚の構造・機能、痛覚のしくみ</li> <li>9 一般感覚：内臓感覚の構造・機能、内臓痛と関連痛のしくみ</li> <li>10 特殊感覚：視覚のしくみ</li> <li>11 特殊感覚：聴覚のしくみ、平衡感覚のしくみ</li> <li>12 特殊感覚：味覚のしくみ、嗅覚のしくみ</li> <li>13 筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源</li> <li>14 運動に伴う全身の変化</li> <li>15 トレーニング効果と加齢変化（老化）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験</p> <p>100 点満点中 60 点以上で合格とする。</p>		
教科書 Textbooks	「ギャノン生理学 原書 25 版」丸善出版		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 多章	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	人体の機能について、自律神経、血液、心臓、呼吸、内分泌などについて教える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 内分泌の機能</li> <li>2 内分泌の機能</li> <li>3 内分泌の機能</li> <li>4 生殖機能</li> <li>5 生殖機能</li> <li>6 生殖機能</li> <li>7 尿の生成と排泄</li> <li>8 尿の生成と排泄</li> <li>9 尿の生成と排泄</li> <li>10 体液とその調節</li> <li>11 体液とその調節</li> <li>12 体液とその調節</li> <li>13 体温とその調節</li> <li>14 体温とその調節</li> <li>15 体温とその調節</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験</p> <p>100点満点中60点以上で合格とする。</p>		
教科書 Textbooks	「ギャノン生理学 原書 25 版」丸善出版		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	基礎運動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法の内容を確認し、なぜ基礎運動学が必要なのかを学ぶ。</p> <p>我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学 I においては、神経細胞、筋細胞、神経筋接合部、筋収縮のメカニズムなど神経筋機能の基礎を学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動学とその領域 運動学の歴史 運動学の現状と展望</li> <li>2 身体運動と力学 身体運動の面と軸 筋力と重力 モーメント</li> <li>3 運動法則 仕事とエネルギー 身体とてこ 骨と関節の運動</li> <li>4 細胞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の構造</li> <li>・細胞内での化学反応・細胞膜の興奮</li> <li>・神経線維の興奮伝導</li> <li>・神経線維の種類</li> </ul> </li> <li>5 運動器の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の構造と機能</li> <li>・関節の構造と機能</li> <li>・腱および靭帯の構造と機能</li> </ul> </li> <li>6 運動器の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨格筋の構造</li> <li>・骨格筋の血管</li> <li>・骨格筋の微細構造と筋収縮機序</li> <li>・筋線維の種類</li> </ul> </li> <li>7 運動器の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経筋接合部と神経筋伝達</li> <li>・運動単位</li> <li>・筋収縮の基礎的性質</li> <li>・筋収縮の様態</li> <li>・筋の働き</li> <li>・筋肥大と筋萎縮</li> </ul> </li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>前期単位認定試験を実施し、評価を行う。</p> <p>(中間試験と最終試験 2 回実施し、評価を行う。50 点 / 50 点とする。)</p>		
教科書 Textbooks	<p>「基礎運動学 第 6 版」 医歯薬出版</p> <p>「筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版」 医歯薬出版</p>		
備 考 Other Comments	<p>資料配布 (確認の為の小テストと解説資料)</p>		
実務経験内容	<p>梅田教員：理学療法士として臨床経験 4 年及び専任教員 3 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学Ⅱにおいては、中枢神経、末梢神経、感覚器および上肢帯と上肢の関節、靭帯、筋機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 神経系 2 神経系 感覚器の構造と機能 3 運動の中枢神経機構 4 神経系まとめ 5 上肢帯と上肢の運動 上肢帯と肩関節の運動 関節と靭帯 上肢帯と肩関節の動き 6 上肢帯と上肢の運動 上肢帯と肩関節の運動 上肢帯の筋 7 上肢帯と上肢の運動 上肢帯と肩関節の運動 肩関節の筋 8 上肢帯と上肢の運動 肘関節と前腕の運動 関節と靭帯 肘関節の動き 9 上肢帯と上肢の運動 肘関節の筋 10 上肢帯と上肢の運動 11 上肢帯と上肢の運動 手、手関節、前腕 12 上肢帯と上肢の運動 手、手関節、前腕 13 上肢帯と上肢の運動 手、手関節、前腕 14 総復習 国家試験問題 15 総復習 国家試験問題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する。		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>股関節、膝関節、足関節の関節構造と機能を学習する。運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。したがって運動学的知識は先の評価・治療の学習を見据え、骨模型や生体を通じ動的なイメージも身につけること、各関節の構造と機能を説明できることを目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 骨盤と股関節の構造</li> <li>2 股関節の運動</li> <li>3 股関節屈筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>4 股関節伸筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>5 股関節外転筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>6 股関節内転筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>7 股関節内・外線筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>8 膝関節の構造(関節、靭帯、半月)</li> <li>9 膝関節の運動 転がり滑り、Screw-home movement、locking mechanism</li> <li>10 膝関節伸筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>11 膝関節屈筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>12 足関節の構造(関節、靭帯)</li> <li>13 足関節の構造(アーチ構造)</li> <li>14 足関節背屈筋 起始・停止、作用、支配神経</li> <li>15 足関節底屈筋 起始・停止、作用、支配神経</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する。		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	佐竹勇人 理学療法士：理学療法士として臨床経験13年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。体幹の関節構造と機能の学習が胸腰部の疾患や障害の評価・治療の学習に繋がるよう基盤の形成を目指す。</p> <p>基本的動作能力の回復が理学療法の目的であり、立位や歩行は基本動作の中でも重要視される姿勢と動作である。これらの運動学的知見は姿勢動作観察分析に必要不可欠であるため、本講義で網羅的に姿勢歩行の運動学的知識の修得を目指す。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脊柱の構造</li> <li>2 脊柱の運動</li> <li>3 体幹筋の構造と機能(体幹伸筋、屈筋、深層筋、バルサルバ効果)</li> <li>4 姿勢 力学の基礎(重心、重心線、支持基底面)</li> <li>5 姿勢 力学の基礎(重心と筋活動、床反力と筋活動)</li> <li>6 安静時立位姿勢と筋活動 立位姿勢制御</li> <li>7 歩行 基礎知識 歩行周期</li> <li>8 歩行 基礎知識 歩行周期</li> <li>9 歩行時の重心とその仕組み</li> <li>10 歩行 関節角度</li> <li>11 歩行 筋活動</li> <li>12 歩行 筋活動</li> <li>13 歩行 関節モーメント</li> <li>14 歩行 関節モーメント</li> <li>15 総復習 国家試験問題</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況, 筆記試験などを総合して決定する.		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。		

## ＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。</p> <p>本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病理学とは何か？（病因論）病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構、細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理</li> <li>2 炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症</li> <li>3 免疫機構：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患</li> <li>4 循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症</li> <li>5 循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気</li> <li>6 腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能的腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学</li> <li>7 呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、COPD、肺炎、肺がん</li> <li>8 代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常</li> <li>9 消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気</li> <li>10 遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断</li> <li>11 造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気</li> <li>12 泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、織毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気</li> <li>13 中枢神経系・末梢神経系：脳血管障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、脳腫瘍</li> <li>14 運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気</li> <li>15 病理学総括（復習・国家試験対策）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>評価エフォート：本試験 90% 出席率 5% 小テスト成績 5%</p> <p>備考：出席点、小テストにおける成績は、本試験の成績に対し考慮する。 一方、本試験に対しては出席点、小テストの成績は減点対象とはしない。</p>		
教科書 Textbooks	「シンプル病理学 改訂第7版」南江堂		
備考 Other Comments	すべての講義で10分程度の小テスト実施。		

## ＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションとは何かを理解して理学療法士の役割を知ること</li> <li>・障害についての概要を理解すること</li> <li>・リハビリテーションに関連する社会保障について理解すること             <ul style="list-style-type: none"> <li>A 医療保険：保険診療とは何か。施設基準、疾患別リハビリテーション料、算定日数など臨床現場で必要となる知識を理解する。</li> <li>B 介護保険：介護保険制度の目的。施行から現在までの動向。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、退院（退所）前訪問、介護保険で利用できる福祉用具の説明など、臨床現場で必要となる知識を理解する。</li> </ul> </li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーションの語源</li> <li>2 リハビリテーションの目指すもの</li> <li>3 障害の理解（ICIDH、ICF）</li> <li>4 リハビリテーションにおける基本的アプローチ</li> <li>5 リハビリテーションにおける基本的アプローチ</li> <li>6 障害体験（実地授業）</li> <li>7 障害体験（実地授業）</li> <li>8 障害の受容</li> <li>9 トータルリハビリテーション</li> <li>10 リハビリテーション医学</li> <li>11 リハビリテーション職種と役割</li> <li>12 廃用症候群</li> <li>13 代表的な疾患と障害</li> <li>14 医療と介護保険</li> <li>15 社会保障制度</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	体験学習のレポート提出（20 点）及び筆記試験（80 点）		
教科書 Textbooks	「目で見えるリハビリテーション医学 第2版」 東京大学出版会		
備 考 Other Comments	障害体験実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（OT・ST・NS）	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士・言語聴覚士・看護師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>（作業療法） 作業療法とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。</p> <p>（言語聴覚療法） 実務経験療法における概論を学ぶことで、将来チームで協業することについて身近なものと感じてもらいたい。また、実務経験療法で、できることを学んでいただこうと思います。</p> <p>（看護師） 看護師とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。</p>		
授業計画 Course Content	<p>総論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 他職種連携とは</li> <li>2 IPWとIPEについて</li> </ol> <p>（作業療法）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 作業療法とは、リハビリテーション職としての協業</li> <li>4 歴史</li> <li>5 ケースを通じた関わり</li> <li>6 回復段階における役割</li> </ol> <p>（言語聴覚療法）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7 コミュニケーション障害総論</li> <li>8 失語症各論、②構音障害</li> <li>9 摂食・嚥下障害総論、②摂食・嚥下障害 演習</li> <li>10 発達期の実務経験障害、聴覚系</li> </ol> <p>（看護）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11 看護とは</li> <li>12 看護の提供者とその仕組み</li> <li>13 看護過程について</li> <li>14 ナースアプローチを行ううえで、療法士に期待する事</li> </ol> <p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15 総復習</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>（作業療法） 筆記試験</p> <p>（言語聴覚療法） 筆記試験</p> <p>（看護師） 筆記試験</p>		
教科書 Textbooks	「絵でわかる実務経験障害—言葉のメカニズムから対応まで 第2版」 学研メディカル秀潤社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。言語聴覚士・看護師については関連医療法人より講師派遣依頼予定		

科目名 Course title	社会福祉概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。</p> <p>尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは</li> <li>2 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉</li> <li>3 わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度</li> <li>4 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について</li> <li>5 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策</li> <li>6 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について</li> <li>7 高齢者の福祉 介護保険制度について</li> <li>8 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法概論 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び、職業としての理学療法士像を明確にする。</li> <li>・リハビリテーションの概念の理解を深める。</li> <li>・リハビリテーションチームの理解を深める。</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理学療法の概念と歴史</li> <li>2 理学療法士の法律：「理学療法士及び作業療法士法」</li> <li>3 理学療法の意義と役割</li> <li>4 理学療法の対象</li> <li>5 理学療法の方法</li> <li>6 理学療法士の組織</li> <li>7 理学療法士教育</li> <li>8 医療・保険分野の理学療法</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験形式（100 点満点）で評定		
教科書 Textbooks	「理学療法概論 第4版」 神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法概論Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び、職業としての理学療法士像を明確にする。</li> <li>・リハビリテーションの概念の理解を深める。</li> <li>・リハビリテーションチームの理解を深める。</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域リハビリテーションと理学療法</li> <li>2 医療事故とリスクマネジメント</li> <li>3 ハラスメントについて</li> <li>4 個人情報の管理と対象者の権利</li> <li>5 理学療法士を目指す学生に求められるもの</li> <li>6 理学療法士研究について</li> <li>7 臨床で求められる学生とは</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験形式（100 点満点）で評定		
教科書 Textbooks	「理学療法概論 第4版」 神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法障害学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>障害の科学的研究により、どのような障害がどの程度起こるのか、どの程度改善するのか、リハビリテーションの主軸は何かを学ぶ。1 年生の観察実習、2 年生の演習授業に先立ち、大まかな病態を把握し障がいと予想できるレベルを目指す。</p>		
授業計画 Course Content	<p>機能障害の病態生理と回復過程、各種合併症の病態生理、リハビリテーション治療学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「障害」とはなにか、障害学の概要</li> <li>2 骨折・関節症について、病態の理解、回復過程</li> <li>3 骨折・関節症の治療過程（頸部骨折）</li> <li>4 骨折・関節症に対するリハビリテーション治療の概要、予後</li> <li>5 末梢神経障害について、病態の理解、回復過程</li> <li>6 末梢神経障害の治療過程</li> <li>7 末梢神経障害に対するリハビリテーション治療の概要、予後</li> <li>8 中枢神経障害について、病態の理解、（脳卒中、パーキンソン、脊髄損傷）</li> <li>9 中枢神経障害の回復過程</li> <li>10 中枢神経障害の治療過程（脳卒中、パーキンソン、脊髄損傷）</li> <li>11 中枢神経障害に対するリハビリテーション治療の概要、予後</li> <li>12 靭帯・筋損傷について、病態の理解、回復過程</li> <li>13 靭帯・筋損傷の治療過程</li> <li>14 靭帯・筋損傷に対するリハビリテーション治療の概要、予後</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>上記内容を解剖学・生理学の復習を含めアクティブラーニングとして実施し、勉強の仕方や調べ方を体験し、能動的な学習が可能になることを目指す。また廃用症候群の理解について他講義の理解度を確認し必要であれば15のまとめで解説する。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準リハビリテーション医学 第3版」 医学書院 「リハビリテーション基礎医学 第2版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	7 5 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	<p><b>【講義概要】</b> 理学療法における評価と検査を伝え、評価の重要性について解説する。 バイタルサインチェック（血圧、脈拍、呼吸、血中酸素）、形態測定（四肢長、四肢周径）、関節可動域測定の意義、目的を明確にした上で検査方法の習得を促す。また関節の解剖学的構造を踏まえた運動方向の理解を図りつつ同時に実施時の患者への配慮を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 理学療法プロセスにおけるバイタルサインチェック、形態測定、関節可動域測定の意義や必要性、臨床においての重要性を理解できる。また、正確に実施することができる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理学療法評価 総論</li> <li>2 バイタルサインチェック① バイタルサインとは、脈拍の測定方法の解説と実施</li> <li>3 バイタルサインチェック② 血圧について、血圧の測定方法の解説と実施</li> <li>4 バイタルサインチェック② 呼吸について、呼吸の評価方法の解説と実施</li> <li>5 形態測定① 形態測定とは、胸囲、腹囲、四肢長と四肢周径の計測意義</li> <li>6 形態測定② 上肢長（上肢長、上腕長、前腕長）測定方法の解説と実施</li> <li>7 形態測定③ 下肢長（棘果長、転子果長、大腿長、下腿長）測定方法の解説と実施</li> <li>8 形態測定④ 上肢周径（上腕周径、前腕周径）測定方法の解説と実施</li> <li>9 形態測定⑤ 下肢周径（大腿周径、下腿周径）測定方法の解説と実施</li> <li>10 形態測定⑥ 形態測定の検査結果の解釈について</li> <li>11 関節可動域測定の意義、目的</li> <li>12 他動運動と自動運動について</li> <li>13 ゴニオメーターの操作練習</li> <li>14 関節可動域測定① 肩甲帯（屈曲、伸展）</li> <li>15 関節可動域測定② 肩甲帯（挙上、下制）</li> <li>16 関節可動域測定③ 肩関節（屈曲、伸展）</li> <li>17 関節可動域測定④ 肩関節（内転、外転）</li> <li>18 関節可動域測定⑤ 肩関節（内旋、外旋）</li> <li>19 関節可動域測定⑥ 肘関節（屈曲、伸展）</li> <li>20 関節可動域測定⑦ 前腕（回内、回外）</li> <li>21 関節可動域測定⑧ 手関節（掌屈、背屈）</li> <li>22 関節可動域測定⑨ 手関節（尺屈、橈屈）</li> <li>23 関節可動域測定⑩ 頸部（屈曲、伸展）</li> <li>24 関節可動域測定⑪ 頸部（回旋、側屈）</li> <li>25 関節可動域測定⑫ 体幹（屈曲、伸展）</li> <li>26 関節可動域測定⑬ 体幹（回旋、側屈）</li> <li>27 関節可動域測定⑭ 股関節（屈曲、伸展）</li> <li>28 関節可動域測定⑮ 股関節（内転、外転）</li> <li>29 関節可動域測定⑯ 股関節（内旋、外旋）</li> <li>30 関節可動域測定⑰ 膝関節（屈曲、伸展）</li> <li>31 関節可動域測定⑱ 足関節（背屈、底屈）</li> <li>32 関節可動域測定⑲ 足部（内がえし、外がえし）</li> <li>33 関節可動域測定⑳ 手指</li> <li>34 関節可動域測定㉑ 足趾</li> <li>35 関節可動域測定㉒ 各関節可動域測定別法①</li> <li>36 関節可動域測定㉓ 各関節可動域測定別法②</li> <li>37 理学療法評価プロセス① ボトムアップ思考について</li> <li>38 理学療法評価プロセス② トップダウン思考について</li> </ol>		
成績評価の方法・基準・評価	<p><b>【成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies/Evaluation Criteria】</b> 筆記試験（中間試験、終講試験）・実技試験 の3つの成績を加味して判定する。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第2版」 メジカルビュー社 「PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版」三輪書店 「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版株式会社</p>		
備考	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅱ	学科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田達成	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	75時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	筋力測定の意義を理解する MMTの原理・原則を理解する。 各測定項目の計測の基本と注意点を習得し、健常者を対象に適切な方法かつ妥当な時間で検査を実践できる。		
授業計画 Course Content	1 概論 筋力とは MMTの原理、原則、注意点 2 頭部伸展、頸部伸展、頸部複合伸展の MMT 3 頭部屈曲、頸部屈曲、頭頸部複合屈曲の MMT 4 頸部回旋の MMT、頭頸部 MMT のまとめ 5 体幹伸展、骨盤挙上、体幹側面の MMT 6 体幹屈曲、体幹回旋の MMT 7 安静な吸気 体幹 MMT のまとめ 8 肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨挙上(僧帽筋)の MMT 9 肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 10 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群)、肩甲骨下制(広背筋、大円筋、三角筋後部) 11 肩関節屈曲、肩関節屈曲(前方拳上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋) 12 肩関節伸展(後方拳上)(三角筋後部)、肩関節外転(側方拳上)(三角筋中部および棘上筋) 13 肩関節水平外転(三角筋後部)、肩関節水平内転(大胸筋) 14 肩関節外旋(棘下筋、小円筋)、肩関節内旋(肩甲下筋) 15 まとめ 肩甲骨、肩関節の MMT 16 肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋)、肘関節伸展(上腕三頭筋) 17 前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) 18 手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋) 19 まとめ 肘、前腕の MMT 20 指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋)、PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋) 21 指 MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋)、指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋) 22 母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP、IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) 23 母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、対立運動(母指対立筋、少子対立筋) 24 手指 MMT のまとめ 25 股関節屈曲(大腰筋、腸骨筋)、股関節屈曲、外転、外旋(縫工筋) 26 股関節伸展(大殿筋、ハムストリングス) 27 股関節外転(中殿筋、小殿筋)、股関節屈曲位からの外転(大腿筋膜張筋) 28 股関節内転(大内転筋、短内転筋、長内転筋、恥骨筋、薄筋) 29 股関節外旋(内外閉鎖筋、上下双子筋、梨状筋、大腿方形筋)、股関節内旋(中小殿筋、大腿筋膜張筋) 30 まとめ 股関節 MMT 31 膝関節屈曲(ハムストリングス)、膝関節伸展(大腿四頭筋) 32 足関節底屈(腓腹筋、ヒラメ筋)、足関節背屈内がえし(前脛骨筋) 33 足の内がえし(後脛骨筋)、足の底屈を伴う外がえし(長短腓骨筋) 34 まとめ 膝関節、足関節、足の MMT 35 母指と足ゆびの MP 関節屈曲(虫様筋、短母指屈筋)、DIP、PIP 関節屈曲(張氏屈筋、短指屈筋、長母指屈筋) 36 母指と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展(長趾伸筋、短指伸筋、長母指伸筋) 脳神経支配筋のテスト 37 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法) 38 総まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験及び実技試験で評定		
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第2版」 メジカルビュー社 「PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版」三輪書店 「理学療法評価テキスト 改訂第2版」南江堂		
備考	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	変形性股関節症について調べ・説明できる。		
授業計画 Course Content	1 股関節の解剖 2 頰体角・前捻角について説明できる 3 滑膜、関節包、靭帯の機能について説明できる 4 股関節筋の起始、停止、作用について説明できる 5 変形性股関節症の病態生理 6 疼痛の原因、症状、疾患の進行過程、筋力低下、治療の概要のそれぞれを調べ、説明できる 7 生活動作（実技含む）正常、基本を知り、病態から考えられるリスク対処法を学ぶ 8 歩行、靴下の着脱、しゃがみ動作等で必要な股関節可動域を把握する 9 変形性股関節症に伴う関節可動域制限の特徴を把握する（脱臼肢位） 10 形態測定 11 ROM 12 MMT 13 実践（動画撮影） 14 実践（3年生と合同）形態測定 15 実践（3年生と合同）ROM・MMT 16 17 18 19 20 21 22 23		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	個人提出物、発表、筆記試験、OSCE チェックリスト		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 4 年及び専任教員 1 4 年の経験を有する。		

## ＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	<b>運動療法学</b>	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動療法の歴史と位置づけ、適応の理解</li> <li>・ 関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動、協調性トレーニングの適応と方法の理解</li> <li>・ 基本的運動療法の実践及び習得</li> <li>・ 運動療法機器の理解</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動療法の歴史と位置づけ、運動療法の範囲と適応</li> <li>2 運動の種類</li> <li>3 関節可動域運動の総論</li> <li>4 関節可動域運動の実践（肩・肘）</li> <li>5 関節可動域運動の実践（股）</li> <li>6 関節可動域運動の実践（膝）</li> <li>7 関節可動域運動の実践（足）</li> <li>8 ストレッチ</li> <li>9 筋力維持増強運動の総論</li> <li>10 筋力について（筋収縮にかかわる神経生理、負荷量）</li> <li>11 筋力維持増強運動の実践（下肢・体幹）</li> <li>12 筋力維持増強運動の実践（上肢・インナーマッスル）</li> <li>13 筋持久力について（エネルギー代謝）</li> <li>14 13の続き</li> <li>15 心肺持久力について（循環）</li> <li>16 15の続き、呼気ガス分析</li> <li>17 運動療法機器の紹介</li> <li>18 協調性について（バランス能力）</li> <li>19 協調性改善に関する運動療法</li> <li>20 運動療法に関するリスク管理（血圧と心拍数）</li> <li>21 運動療法に関するリスク管理（転倒予防、急変時の対応）</li> <li>22 触診の技術向上</li> <li>23 その他</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	中間試験、終講試験にて評定する。		
教科書 Textbooks	「運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版」 文光堂		
備考 Other Comments	解剖学、生理学、基礎運動学の復習を交えながら理学療法治療理論を深める。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要</p> <p>温熱・寒冷療法を学習する。温熱・寒冷療法がもたらす効果の機序について生理学的知見を交えて学習する。ホットパック・パラフィン・超音波・極超短波・アイスマッサージ・アイスパック・コールドパック・コールドスプレー・持続的冷却装置の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。</p> <p>到達目標</p> <p>温熱療法、寒冷療法に伴う生理的变化を説明できる。</p> <p>物理療法の種類とそれぞれの適応と禁忌について説明できる。</p> <p>物理療法の使用方法を理解し、実際に使用する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 物理療法の目的、理学療法の中での位置づけ、物理療法各機器の概説</li> <li>2 物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛)</li> <li>3 物理療法の対象と病理(筋トーン異常)、物理療法の対象と病理(運動制限)</li> <li>4 温熱が全身、局所に与える影響①</li> <li>5 温熱が全身、局所に与える影響②</li> <li>6 ホットパック・パラフィン療法</li> <li>7 ホットパック・パラフィンの演習</li> <li>8 超音波療法①</li> <li>9 超音波療法②</li> <li>10 極超短波療法</li> <li>11 極超短波療法・超音波療法の演習</li> <li>12 寒冷療法 生理学的作用について</li> <li>13 寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について</li> <li>14 アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、持続的冷却装置の使用法、注意点などについて</li> <li>15 アイスパック コールドパックの演習</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	ホットパック・パラフィン、極超短波療法・超音波療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>物理療法学Ⅱでは水治療法、圧迫療法、電気療法、光線療法、牽引療法について学習する。物理療法学Ⅰと同様にこれらの治療もたらす効果のメカニズムを生理学的知見交えて学習する。各療法の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 水治療法 静水圧 浮力が身体に及ぼす影響</li> <li>2 水治療法 水の抵抗 水温と生理的反応、水中運動療法効果と禁忌</li> <li>3 渦流浴 各温度と効果 禁忌、上肢用 下肢用 渦流浴の体験</li> <li>4 圧迫（浮腫除去）療法 浮腫のメカニズム 疾患と浮腫</li> <li>5 弾性包帯の巻き方 実技</li> <li>6 オリエンテーションと電気療法の基礎</li> <li>7 神経筋電気刺激/治療的電気刺激</li> <li>8 経皮的電気刺激/機能的電気刺激</li> <li>9 光線療法の特徴と皮膚整理機能</li> <li>10 紫外線療法/赤外線療法</li> <li>11 レーザー療法/持続的他動運動（CPM療法）</li> <li>12 牽引療法</li> <li>13 牽引療法 実技、総復習</li> <li>14 国家試験問題解説</li> <li>15 総復習</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	水治療法、圧迫療法、牽引療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ADL の概念と、その範囲と評価について学び「できる ADL」「している ADL」の違いを理解し ADL 評価を実践する事が出来る。</li> <li>・ 車いす、歩行補助具、トランスファー介助、一側下肢障害の ADL、福祉機器等についての理解と実践。</li> <li>・ ADL 指導の実践。</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ADL の概念とその範囲</li> <li>2 ADL の概念とその範囲</li> <li>3 ADL の評価の概要</li> <li>4 ADL の評価の実践 (FIM)</li> <li>5 ADL の支援システム</li> <li>6 福祉用具、福祉機器：リフター、トランスファーボード、ターンテーブル</li> <li>7 車椅子、杖などの名称・使用方法</li> <li>8 基本的な杖歩行と介助 ①</li> <li>9 基本的な杖歩行と介助 ②</li> <li>10 杖による階段昇降</li> <li>11 一側下肢障害の ADL 指導と介助法</li> <li>12 歩行器：歩行パターン、方向転換、小回り、介助方法</li> <li>13 移乗の介助方法：1 人介助、2 人介助、全介助</li> <li>14 車椅子移乗の動作方法と介助方法</li> <li>15 一側下肢障害の ADL：THA 術後の ADL 指導</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験 15 点、筆記試験 85 点 計 100 点		
教科書 Textbooks	「ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第 3 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法学 I ※選択	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬介在療法とは何かを学ぶ。</li> <li>2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。</li> <li>3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」</li> <li>4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ</li> <li>5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。</li> <li>6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のにとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。</li> <li>7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。</li> <li>8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してするための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

## ＝臨床実習＝

科目名 Course title	観察実習（医療）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	40時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>病院や施設等の全体的な業務と機能を知る。</p> <p>理学療法プロセスに触れ、理学療法士の業務内容を理解する。</p> <p>リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任及び協調必要性を自覚する。</p> <p>対象者の持つ障害像を分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知る。</p> <p>医療を司る者としての自覚を深め、可能であれば、対象者との人間関係を築く。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。</p> <p>小路教員：理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。</p> <p>宇山教員：理学療法士として臨床経験20年及び専任教員5年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	観察実習（訪問・通所）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	40時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション医療における訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションの意義を理解する。</li> <li>・利用者の生活リハビリテーション(Handicap、Disability との繋がり、Quality of life、個人因子、環境因子)について考える。</li> <li>・臨床におけるチームの連携を知ると同時にリハビリテーション職以外の役割や責任を知る。</li> <li>・臨床現場での学び方、問題解決能力の向上を目指す。</li> </ul>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。 宇山教員：理学療法士として臨床経験20年及び専任教員5年の経験を有する。		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	人間発達学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高島 正治	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	胎児期から独歩獲得に至るまでの運動の変化（発達）から人間の発達（変化）を考えていく。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間発達概論① 「動く」ということとは</li> <li>2 人間発達概論② 資料 DVD 視聴</li> <li>3 中枢神経系の発達・成熟 胎児期の運動</li> <li>4 運動発達概論 姿勢及び運動の発達・成熟</li> <li>5 グループワーク①（各運動発達段階）</li> <li>6 グループワーク②（各運動発達段階）</li> <li>7 グループワーク③（各運動発達段階）</li> <li>8 グループワーク④（各運動発達段階）</li> <li>9 グループワーク⑤（各運動発達段階）</li> <li>10 発表（グループ）</li> <li>11 姿勢・運動発達各論 講義・実技①</li> <li>12 姿勢・運動発達各論 講義・実技②</li> <li>13 姿勢・運動発達各論 講義・実技③</li> <li>14 姿勢・運動発達各論 講義・実技④</li> <li>15 育児 愛着行動 講義まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験 発表（グループ）		
教科書 Textbooks	「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		

## ＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 内科学総論；内科学とは、主な疾患</li> <li>2 診療の基本；カルテと問診</li> <li>3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方</li> <li>4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患</li> <li>5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩</li> <li>6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック</li> <li>7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①）</li> <li>8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全</li> <li>9 循環器疾患（4）；不整脈</li> <li>10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など）</li> <li>11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患</li> <li>12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候</li> <li>13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症</li> <li>14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患</li> <li>15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学 第2版」 南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験 31 年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患</li> <li>2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍</li> <li>3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか</li> <li>4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など</li> <li>5 代謝性疾患（1）；糖尿病</li> <li>6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など</li> <li>7 内分泌疾患；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患</li> <li>8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血</li> <li>9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患</li> <li>10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患</li> <li>11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患</li> <li>12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法</li> <li>13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患</li> <li>14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など）</li> <li>15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学 第2版」 南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験31年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	拾尾 和彦	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>神経疾患とは何かを知る。 神経解剖学・神経生理学を通し、神経症状を理解する。 神経疾患特有の症候・検査を知る。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 神経内科とは、解剖</li> <li>2 神経学的所見の取り方①</li> <li>3 神経学的所見の取り方②、意識障害・脳死・植物状態①</li> <li>4 意識障害・脳死・植物状態②、頭痛、めまい、失神</li> <li>5 運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮</li> <li>6 錐体外路徴候、不随意運動</li> <li>7 運動失調</li> <li>8 感覚障害</li> <li>9 神経学的検査法</li> <li>10 失語症、失認、失行</li> <li>11 記憶障害、注意障害、実行機能障害</li> <li>12 構音障害、嚥下障害</li> <li>13 認知症</li> <li>14 変性疾患</li> <li>15 脱髄疾患</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 選択式（用語訂正・内容正誤）・記述式（空欄うめ・文章記述）		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」 メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験 39 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	米澤 泰司・拾尾 和彦	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	各神経疾患につき病態を理解し、治療法を知る。		
授業計画 Course Content	1 神経系の構造と機能① 2 神経系の構造と機能② 3 脳血管障害 虚血性① 4 脳血管障害 虚血性② 5 脳血管障害 出血性 6 頭蓋内圧亢進 水頭症 7 脳腫瘍 8 頭部外傷 9 感染症 10 てんかん 11 髄損傷 12 中毒、栄養障害 13 小児神経疾患 14 廃用症候群 15 末梢神経障害、筋疾患		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（選択式・記述式）		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」 メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	拾尾和彦：医師として臨床経験39年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 整形外科的基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学 第 14 版」 医学書院 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第 4 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験 26 年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊椎疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靭帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学 第14版」 医学書院 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験26年の経験を有する。		

科目名 Course title	外科・救急医学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中江 晟	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士として必要な外科学の知識を取得する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外科の歴史</li> <li>2 外科学総論</li> <li>3 外科学総論、損傷、創傷</li> <li>4 外科学総論、熱傷</li> <li>5 ショック・感染症</li> <li>6 救急</li> <li>7 手術供覧</li> <li>8 器具供覧</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	考査による		
教科書 Textbooks	「STEP 外科 ①外科総論・脳神経外科 第2版」海馬書房		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験44年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	塚田 周平 ・ 中島 充	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(塚田講師)</p> <p>教科書に基づいたスライドによる学習を通じて、小児科学についての理解を深めて頂きたい。</p> <p>(中島講師)</p> <p>基本的にはテキストを中心に、小児の特徴・疾患について講義します。医師・看護師のカルテ内容を把握して、治療を協力して行える力をつけるようにスライド等資料を活用しながら、短時間の講義時間内でも、小児の特殊性を理解してもらいます。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(塚田講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の成長と発育に関して様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。</li> <li>2 感染症の数々の症例（写真を中心とした）を通して小児への感染症、消化器疾患を理解して頂く。</li> <li>3 血液疾患を通じて、免疫や膠原病についても触れて理解を深めて頂きたい。</li> <li>4 腎疾患を通して腎の生理、免疫、アレルギー、膠原病についても随時触れてゆきたい。</li> </ol> <p>(中島講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症</li> <li>6 神経・筋・骨系疾患</li> <li>7 循環器疾患、呼吸器疾患</li> <li>8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>塚田医師：医師として臨床経験 4 1 年の経験を有する。</p> <p>中島医師：医師として臨床経験 3 8 年の経験を有する。</p>		

## ＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>平均生存率（平成 29 年）が男性 81 歳女性 87 歳とますます高齢化社会が進む現在の日本におけるリハビリテーション医療の重要性を理解し、リハビリテーション医療が取り組む高齢者に多い主要な疾患とその障害についての基本的な病態を講義する。その上で個々の疾患からくる機能障害だけでなく、その障害を持って生きてゆく人たちが対面する社会的障害に対する対応もリハビリテーション医学の領域であり障害の有無に関わらず全ての人が平等に生きられる社会にすることがリハビリテーション医療の使命であることを理解できるように講義を行いたい。</p>		
授業計画 Course Content	<p>（15時間で行う）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーション医学・医療の基本概念</li> <li>2 リハビリテーション医学とチーム医療</li> <li>3 リハビリテーション医学における障害受容の心理</li> <li>4 高齢者のリハビリテーション ロコモティブシンドローム、フレイル、転倒、骨折、廃用症候群</li> <li>5 脳血管障害のリハビリテーション 認知症と高次脳機能障害</li> <li>6 神経難病のリハビリテーション（パーキンソン病他）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	限られた講義時間のなかでリハビリテーション医学の基本概念と高齢者の身体機能を含めてより多く発症する病態を中心に講義を行う。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 23 年の経験を有する。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	臨床運動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中條 雄太	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>解剖学，基礎運動学で学習した知識を基に学習を進める。</p> <p>静的姿勢の中でも背臥位・座位のメカニズムを理解し，実際に姿勢観察と分析を行う．分析した結果を検証するために簡単な検査測定を実施する。</p> <p>また，寝返り・起き上がり・立ち上がりについてもメカニズムを理解し，動作観察と分析を行う．分析した結果を検証するために簡単な検査測定を実施する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 背臥位①</li> <li>3 背臥位②</li> <li>4 寝返り①</li> <li>5 寝返り②</li> <li>6 起き上がり①</li> <li>7 起き上がり②</li> <li>8 起き上がり③</li> <li>9 ここまでのまとめと復習</li> <li>10 座位①第 11 回 座位②</li> <li>12 立ち上がり①</li> <li>13 立ち上がり②</li> <li>14 立ち上がり③</li> <li>15 ここまでのまとめと復習と総復習</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 8 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	間野 直人	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	症例の異常動作の解釈に必要な知識・技術を習得する。臨床運動学Ⅱでは異常立位姿勢・異常歩行の分析に必要な手順、知識を習得する。動作を解釈するための力学の基礎ならびに正常立位姿勢、正常歩行の運動学を復習する。動作観察・分析のポイントを教示した上で、実際の症例の静止画、動画を使用し動作観察・分析を経験する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 姿勢歩行観察の分析総論</li> <li>2 動作観察分析のポイント</li> <li>3 動作分析で用いる力学</li> <li>4 正常の立位姿勢に関する運動学的知識 健常者の立位姿勢観察</li> <li>5 健常者の立位姿勢観察内容の発表</li> <li>6 健常者の立位姿勢分析</li> <li>7 症例の立位姿勢観察・分析</li> <li>8 症例の立位分析解説 歩行の運動学 復習</li> <li>9 股関節の関節可動域制限と異常歩行</li> <li>10 膝関節、足関節の関節可動域制限と異常歩行</li> <li>11 股関節周囲の筋力低下と異常歩行</li> <li>12 膝関節周囲、足関節周囲の筋力低下と異常歩行</li> <li>13 症例の歩行観察</li> <li>14 症例の歩行分析</li> <li>15 症例の歩行分析および検査測定結果の統合と解釈</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「観察による歩行分析」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年の経験を有する。		

科目名 Course title	動作分析学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中本 隆幸	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>動作観察・分析について学習する。</p> <p>動作分析（観察）は、理学療法士において必要不可欠な評価方法であるが、評価尺度が決まっていないため、評価方法の中でも難しい分野である。基礎を再確認し、具体的な症例を提示することにより、理解を深めることがねらいである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理学療法・理学療法評価法を再確認する</li> <li>2 理学療法士における動作分析学の必要性を整理する</li> <li>3 基礎運動学・臨床運動学における動作分析に関する整理</li> <li>4 立位姿勢についての動作観察・動作分析</li> <li>5 歩行についての動作観察・動作分析</li> <li>6 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅰ ①寝返り ②起き上がり</li> <li>7 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅱ ③座位姿勢 ④床からの立ち上がり</li> <li>8 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅲ ⑤立ち上がり ⑥片脚立位 ⑦その他</li> <li>9 正常と臨床動作の観察・分析の整理とまとめ</li> <li>10 VTR 症例による動作観察・動作分析①</li> <li>11 VTR 症例による動作観察・動作分析②</li> <li>12 VTR 症例による動作観察・動作分析③</li> <li>13 VTR 症例による動作観察・動作分析④</li> <li>14 VTR 症例による動作観察・動作分析⑤</li> <li>15 VTR 症例による動作観察・動作分析⑥</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験		
教科書 Textbooks	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 31年の経験を有する。		

## ＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	<b>理学療法評価学Ⅲ</b>	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	75時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 CourseDescription・ Course objectives	<p>神経学的検査と評価および整形外科的検査法の理解と実践について学習する。 到達目標は、神経学的検査と評価について理解し、実施できる。 また、整形外科的検査法について理解し、実施できる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1～12、30～37；反射の診かた・運動機能の診かた・小脳、バランス機能の診かた 13～21；疼痛の診かた、整形の診かた 22～29；感覚の診かた、脳神経の診かた 1 &lt;神経学的検査総論&gt; 評価学とは、神経学的検査とは 2 筋緊張、姿勢筋緊張とは、姿勢反射について 3 筋緊張異常から生じる異常動作と異常歩行 4 筋緊張の評価方法 5 深部腱反射の検査意義について 6 深部腱反射のメカニズム 7 深部腱反射の検査方法の解説①（上肢） 8 深部腱反射の検査方法の解説②（下肢） 9 錐体路と錐体路障害の解説 10 病的反射の評価意義と検査方法の解説、運動機能検査の解説 11 BRST、SIAS 12 運動麻痺と検査 13 &lt;整形外科的検査全般&gt; 各関節についての代表的な整形外科的検査法について学習 ・足関節、膝関節、股関節、肩関節、肘関節、手関節、手指、頸部、体幹 ・その他の特殊な検査法 14 &lt;整形外科的テスト・疼痛評価 全8コマ&gt; 足関節 ① 15 膝関節 ② 16 股関節 ③ 17 肩関節 ④ 18 疼痛評価 1-1 ⑤ 19 疼痛評価 1-2（組織別疼痛評価）⑥ 20 疼痛評価 1-3 ケーススタディ 人工股関節全置換術（前方アプローチ）⑦ 21 疼痛評価 1-4 疼痛鑑別方法 ⑧ 22 感覚検査について（概論） 23 神経生理（感覚神経） 24 感覚検査の実践（表在感覚） 25 感覚検査の実践（深部感覚） 26 感覚検査の実践（温痛覚、2点識別、立体など） 27 感覚検査の実践（患者を想定した実践：CVA、脊髄損傷、糖尿病、末梢神経障害） 28 脳神経検査について（概論） 29 脳神経検査の紹介と実践（実技は視神経） 30 〈小脳機能検査〉小脳の働きについて 31 協調性、失調について 32 失調の検査方法の解説①（上肢） 33 失調の検査方法の解説②（下肢） 34 バランス評価 35 バランス評価 36 バランス評価 BBS と転倒の評価 37 不随運動 38 まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	<p>中間試験、定期試験、実技試験にて評定する。神経学的検査法と合わせて筆記試験で評定する。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」 南山堂 / 臨床技能と OSCE 金原出版株式会社 「絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版」 医学書院</p>		
備 考	<p>スポーツ障害・外傷についての理解</p>		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡA	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文・梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間／講義・演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>理学療法評価プロセスは対象者の社会レベル、能力レベル、機能レベルの問題を抽出し、その問題解決策をプランニングする過程である。問題の抽出、治療プランの立案は解剖学、生理学、運動学等の基礎医学的知識、整形外科学、脳神経外科学、内科学などは臨床医学的知識、さらには理学療法評価学や理学療法治療学的知識を統合しなければ成し遂げることはできない。つまり評価演習は総合教育・実践教育に位置付けられる。また理学療法は人間を対象とするため、知識、技術だけでなくコミュニケーションやマナー、配慮も必要不可欠であり、評価演習ではこれらの対人スキル含め能力向上を図る。下記①-⑤の向上を目標に授業を展開する。</p> <p>【目標】 臨床現場（実習）を想定したシミュレーションを通じ対人スキルの向上  問題解決能力の向上  実践の中での学習方法の確立 自己教育(育成)力の向上  理学療法評価プロセスの経験  統合と解釈の理解と実践  IDH から ICF への展開</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・症例提示（THA）</li> <li>2 検査測定の実践①</li> <li>3 検査測定の実践②</li> <li>4 グループディスカッション（対人スキル・リスク管理）</li> <li>5 実技練習①</li> <li>6 実技練習②</li> <li>7 実技練習③</li> <li>8 実技試験</li> <li>9 実技試験（中間試験）</li> <li>10 グループディスカッション・グループフィードバック</li> <li>11 評価プロセス説明・Case2 症例提示（TKA）</li> <li>12 グループディスカッション・グループフィードバック（疾患・手術から Imp 予測）</li> <li>13 既往・合併症から Imp 予測、糖尿病に関する症状・治療について</li> <li>14 社会的背景から能力障害を予測</li> <li>15 併存症についてのリスク管理</li> <li>16 検査測定方法と計画</li> <li>17 実技練習</li> <li>18 検査結果の提示 統合と解釈（経過要約・H と D・リスク管理）</li> <li>19 個別フィードバック</li> <li>20 統合と解釈（D と I の関係性）</li> <li>21 個別フィードバック</li> <li>22 統合と解釈（I の原因追究）</li> <li>23 まとめ 個別フィードバック</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 筆記試験 50 点に演習内容（評価表）50 点の合計点、2) 実技試験 100 点の両方で評定する。 1)、2)ともに6割を超えた場合に単位が与えられる。</li> <li>2) 出席に関しては、遅刻・早退3回で1回の欠席とする。 欠席日数が1/3を超えた場合、試験の受験資格失効。 実習前評価として位置づけとし、前期中に演習ⅡAの単位取得可否が決定。</li> </ol>		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第4版」 メジカルビュー社 「リハビリテーション基礎医学 第2版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡB	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法評価はボトムアップリーズニングとトップダウンリーズニング双方の利点を活かし、はじめて障害の全容を明らかにできる。評価演習ⅡBでは脳血管障害を題材にトップダウンリーズニングによる理学療法評価プロセスを学ぶ構成としている。脳血管障害は多彩な障害像を呈する。多くの場合、関節可動域障害、筋力低下だけでなく、筋緊張異常や感覚障害が動作障害に関与するため、統合と解釈では高い情報処理能力が求められる。また神経系の検査・測定は状況や目的に応じ方法を工夫しなければ意味のある結果を残せない。トップダウンリーズニングによる脳血管障害の評価の難易度は高いが、一連の取り組みにより習得できるものも多いと考える。</p> <p>さらに評価演習ⅡBは実際の患者様に協力いただいている。極めて現場に近い環境で実践的な対人スキル、リスク管理能力、技術、学力を高めるとともに、医療者、治療者としてのあり方や倫理観を深めて欲しい。下記①-⑤を到達目標として授業を展開する。</p> <p>【目標】 症例との関わりを通じた対人スキルの向上  症例の生活上の問題、症例の要望に即した評価の実践  動作観察、分析能力の向上  神経系の理学療法評価技術の向上  トップダウンリーズニングによる統合と解釈の理解と実践</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 症例情報からリスクの確認と管理方法の検討</li> <li>2 医療面接の目的と情報収集項目、基本動作能力確認の意義</li> <li>3 医療面接の実践 1</li> <li>4 医療面接の実践 2</li> <li>5 動作観察項目および動作観察条件の検討 1</li> <li>6 動作観察項目および動作観察条件の検討 2</li> <li>7 リスク管理方法の検討、動作観察の計画・準備</li> <li>8 動作観察事前練習</li> <li>9 動作観察の実践</li> <li>10 動作観察の記録</li> <li>11 動作分析 姿勢動作障害の仮説立案 1</li> <li>12 動作分析 姿勢動作障害の仮説立案 2</li> <li>13 中枢神経障害に対する評価</li> <li>14 検査実施計画 1（リスク管理方法を含む）。</li> <li>15 検査実施計画 2</li> <li>16 検査実技練習</li> <li>17 検査の実践 1</li> <li>18 検査の実践 2</li> <li>19 検査の解釈</li> <li>20 統合と解釈 HとDとの関係</li> <li>21 統合と解釈 DとIとの関係</li> <li>22 統合と解釈 Iの原因追及</li> <li>23 統合と解釈 予後予測</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 50 点に演習内容（評価表）50 点の合計点。		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	デイリーノート レポート・レジュメの作成		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 5 年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	義肢装具学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	義肢装具士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	義肢装具の概観を学び、基本原理を身につけることを目的とします。見本や臨床例などを交えて授業を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 義肢とは何か (義肢総論、切断原因と治療)</li> <li>2 切断者の状態 (切断部位と切断術、切断者の評価)</li> <li>3 下腿義足① (足継手)</li> <li>4 下腿義足② (下腿ソケット)</li> <li>5 大腿義足① (膝継手)</li> <li>6 大腿義足② (大腿ソケット)</li> <li>7 その他の義足 (股義足、膝義足、サイム義足、足部義足、義足歩行、アライメント、義肢の処方、スポーツ義足)</li> <li>8 義手とはなにか (義手) 義肢リハビリテーション・適合の実際・臨床例 / 義肢のまとめ</li> <li>9 装具の基礎 (装具総論、装具を理解するための運動学)</li> <li>10 装具の基礎 (装具総論、装具を理解するための運動学)</li> <li>11 下肢装具① (短下肢装具)</li> <li>12 下肢装具② (長下肢装具、靴型装具)</li> <li>13 その他の装具 (上肢装具、上肢装具のチェックアウト、頸部体幹装具、頸部体幹装具のチェックアウト)</li> <li>14 疾患別の装具① (脳卒中片麻痺に対する装具、脊髄損傷患者に対する装具)</li> <li>15 疾患別の装具② / 装具のまとめ (小児疾患患者に対する装具、整形外科疾患患者に対する装具、スポーツ外傷に対する装具)</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	中間試験 (40%)、最終試験 (40%)、平常点 (20%、提出物及び平常点) の合計 60% 以上を合格とします。平常点は、授業への積極的な参加 (発表・討議・質問) とします。		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備考 Other Comments	義肢装具の概観を学び、基本原理を身につけることを目的とします。見本や臨床例などを交えて授業を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
実務経験内容	義肢装具士として臨床経験 22 年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢装具学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>切断患者に対する理学療法士の役割を理解する</p> <p>断端管理を理解し、弾性包帯を断端に巻くことが出来るようになる</p> <p>義足装着前後の理学療法を理解する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 下肢切断 概論</li> <li>2 切断術後の機能障害</li> <li>3 切断術後の断端管理</li> <li>4 義肢について</li> <li>5 義肢アライメントについて</li> <li>6 下肢切断患者の評価</li> <li>7 下肢切断患者の理学療法（訓練）</li> <li>8 模擬義足でのアライメント修正・訓練</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>疾患別の日常生活動作指導および介助方法を詳しく学ぶ。</p> <p>机上だけではなく、臨床に出てすぐ実践できるように実技も詳細に実施する。</p> <p>急性期、回復期、慢性期、また進行性疾患におけるその時期における日常生活訓練や指導について理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳血管疾患（脳卒中）の起居動作の指導・介助方法</li> <li>2 脳血管疾患（脳卒中）の立ち上がり・移乗動作の指導・介助方法</li> <li>3 脳血管疾患（脳卒中）の床からの立ち上がりの指導・介助方法</li> <li>4 脳血管疾患（脳卒中）の更衣等その他の ADL 指導方法</li> <li>5 脊髄損傷部位と残存機能の復習、起居動作の指導方法</li> <li>6 脊髄損傷プッシュアップの指導方法、各種日常生活動作の代償方法とその指導方法</li> <li>7 脳性麻痺の日常生活動作指導のポイント</li> <li>8 デュシェンヌ型筋ジストロフィーとは 機能障害 基本動作能力障害の特徴</li> <li>9 デュシェンヌ型筋ジストロフィーの日常生活動作障害の特徴とその指導</li> <li>10 関節リウマチの日常生活動作指導のポイント</li> <li>11 進行性疾患の日常生活動作指導のまとめ</li> <li>12 パーキンソン病の日常生活動作指導のポイント</li> <li>13 筋委縮性側作硬化症の日常生活動作指導のポイント</li> <li>14 脊髄小脳変性症の日常生活動作指導のポイント</li> <li>15 大腿切断の基本動作、日常生活動作指導のポイント</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第2版（医学書院） PT・OTのための OSCE 臨床力が身に付く実践テキスト（金原出版）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脳卒中片麻痺の障害像と理学療法評価について、講義資料・書籍を使用し、なるべく理解しやすいようにすすめる。VTRを用いて、視覚的な理解を深めるとともに、実技も多く取り入れ、障害像の理解を深める。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（1）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害</li> <li>2 脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（1）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害</li> <li>3 片麻痺の障害像（2）意識障害、高次脳機能障害</li> <li>4 片麻痺の障害像（2）意識障害、高次脳機能障害</li> <li>5 片麻痺の障害像（3）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群</li> <li>6 片麻痺の障害像（3）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群</li> <li>7 片麻痺の障害像（4）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価</li> <li>8 片麻痺の障害像（4）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価</li> <li>9 片麻痺の評価（1） 症例を通じて評価の意義を理解する</li> <li>10 片麻痺の評価（1） 症例を通じて評価の意義を理解する</li> <li>11 片麻痺の評価（2） 評価項目について、プルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について</li> <li>12 片麻痺の評価（2） 評価項目について、プルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について</li> <li>13 片麻痺の評価（3）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析</li> <li>14 片麻痺の評価（3）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析</li> <li>15 片麻痺の評価（4） 前回のつづき</li> <li>16 ヒトの神経の可塑性について</li> <li>17 CVAの原因とリスク</li> <li>18 筋緊張・感覚の評価と治療</li> <li>19 歩行の評価と治療</li> <li>20 症例検討評価</li> <li>21 症例検討評価と治療プログラム</li> <li>22 症例検討評価と在宅目指しての治療プログラム</li> <li>23 実技（臥位や立位への促通など）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験		
教科書	「脳卒中理学療法の理論と技術 改訂第3版」 メジカルビュー社 「脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション」 市村出版		
備考	PC、プロジェクター、DVD、実技室等も用いる		
実務経験内容	濱本 理学療法士：理学療法士として臨床経験33年の経験を有する。 筒井洋輔理学療法士：理学療法士として臨床経験8年の経験を有する。 松川隼也理学療法士：理学療法士として臨床経験5年の経験を有する。 伊達 嵩理学療法士：理学療法士として臨床経験7年の経験を有する。 松村彩子理学療法士：理学療法士として臨床経験18年の経験を有する。 辻内名央理学療法士：理学療法士として臨床経験11年の経験を有する。 坂口達哉理学療法士：理学療法士として臨床経験2年の経験を有する。 久保蘭子理学療法士：理学療法士として臨床経験5年の経験を有する。 桑原寛明理学療法士：理学療法士として臨床経験5年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	土井 鋭二郎	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脳性小児麻痺の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳性麻痺の概念</li> <li>2 正常姿勢筋緊張①</li> <li>3 正常姿勢筋緊張②</li> <li>4 正常姿勢筋緊張③</li> <li>5 正常運動発達 0～3ヶ月</li> <li>6 正常運動発達 4～6ヶ月</li> <li>7 正常運動発達 7～9ヶ月</li> <li>8 正常運動発達 10～12ヶ月</li> <li>9 運動発達と治療概念①</li> <li>10 運動発達と治療概念②</li> <li>11 脳性麻痺の姿勢運動評価</li> <li>12 タイプ別：痙直型</li> <li>13 タイプ別：アテトーゼ型</li> <li>14 タイプ別：失調型</li> <li>15 運動分析</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション医学全書15 第2版 脳性麻痺」医歯薬出版 「PT・OT のための神経生理学プログラム演習 第2巻 運動発達と反射・反射検査の手技と評価」医歯薬出版 「正常発達 脳性まひ治療のアイデア 第2版 (改題)」 三輪書店		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	脊髄損傷理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	島袋 尚紀 ・ 宮下 創	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄損傷の病態と理学療法について講義と実技をとおして学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脊髄損傷の総論</li> <li>2 脊髄損傷の疫学</li> <li>3 脊髄損傷の予後</li> <li>4 脊髄損傷のの評価（完全損傷）</li> <li>5 脊髄損傷の評価（不完全損傷）</li> <li>6 脊髄損傷の運動療法（完全損傷）</li> <li>7 脊髄損傷の運動療法（不完全損傷）</li> <li>8 脊髄損傷の動作分析（実技）</li> <li>9 脊髄損傷の運動療法（実技）</li> <li>10 脊髄損傷の介助誘導方法</li> <li>11 回復期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法</li> <li>12 急性期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法</li> <li>13 脊髄損傷の合併症</li> <li>14 脊髄損傷の車いす操作方法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版」 文光堂		
備 考 Other Comments	実技を行うため、ジャージ着用のこと。		
実務経験内容	島袋尚紀理学療法士：理学療法士として臨床経験12年の経験を有する。 宮下創理学療法士：理学療法士として臨床経験10年の経験を有する。		

科目名 Course title	運動器理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>○股関節障害の代表的変形性股関節および大腿骨頸部骨折の理学療法について概説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変形性股関節症 病態生理・評価の画像評価が説明できる。</li> <li>・大腿骨近位部骨折 病態生理・評価の説明ができる。</li> </ul> <p>○臨床でよく遭遇する腰椎関連疾患を中心に、病態とその評価・治療方法について実技指導も踏まえて講義する。</p> <p>○膝関節疾患(OA・RA・TKA)の機能解剖ならびに、病態解釈からみたリハビリテーションについて、実技を含めた講義を実施する。</p> <p>○臨床現場でよく遭遇する足関節疾患を中心に急性期～機能回復期の理学療法プロセスについて評価・治療方法（実技指導）を踏まえて講義する。</p> <p>○臨床現場で診療することが多い肩関節疾患を中心に、病態や解釈の仕方・病態に応じた評価及び治療について講義する。また評価・治療に関しては、実技での演習も行いながら、実際に体験していただきながら講義を行う。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 股関節の解剖、生理学・運動学が説明できる 変形性股関節症の病態生理が説明できる 変形性股関節症の評価と治療が説明できる</p> <p>2 大腿頸部骨折の病態生理が説明できる 大腿頸部骨折の評価と治療が説明できる</p> <p>3 股関節疾患の評価実技を行う (評価：小テスト 10%、定期テスト 60%、レポート 30%)</p> <p>4 体幹の機能解剖</p> <p>5 腰椎椎間板ヘルニアの病態解釈と理学療法</p> <p>6 腰部脊柱管狭窄症の病態解釈と理学療法</p> <p>7 脊椎圧迫骨折の病態解釈と理学療法</p> <p>8 胸腰椎に関する実技指導 (評価：筆記試験の点数)</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>9 足関節・足部の機能解剖</p> <p>10 足関節疾患（主に足関節果部骨折、アキレス腱断裂など）の病態解釈と理学療法</p> <p>11 足関節可動域制限の評価方法と治療介入</p> <p>12 足関節疾患の歩行と理学療法</p> <p>13 足関節背屈制限の治療介入（実技指導）、歩行への治療介入（テーピング療法など） (評価：筆記試験の点数)</p> <p>14 膝 OA・RA の病態や違いについて</p> <p>15 上記のリハビリテーションについて</p> <p>16 TKA の手術について</p> <p>17 TKA 術後のリハビリテーション</p> <p>18 TKA 術後のリハビリテーションについての実技 (評価：筆記試験の点数)</p> <p>19 肩関節の機能解剖</p> <p>20 肩関節周囲炎に対する病態解釈と理学療法</p> <p>21 凍結肩に対する病態解釈と理学療法</p> <p>22 腱板断裂に対する病態解釈と理学療法</p> <p>23 上腕骨近位部骨折の病態解釈と理学療法 (評価：筆記試験の点数)</p>		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版」 南江堂		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>千葉一雄理学療法士：理学療法士として臨床経験22年及び教員19年の経験を有する。</p> <p>森 英人理学療法士：理学療法士として臨床経験32年の経験を有する。</p> <p>森川 修理学療法士：理学療法士として臨床経験12年の経験を有する。</p> <p>小坂健二理学療法士：理学療法士として臨床経験12年の経験を有する。</p> <p>松野諒平理学療法士：理学療法士として臨床経験7年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	神経筋難病理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	向井 公一	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法の対象患者の中に、神経難病と言われる疾患を抱える方々が多い。中でも、神経筋疾患は重篤な機能障害や活動制限を有することがあり、理学療法の重要性が言われる。</p> <p>この神経筋疾患の疾患概要と理学療法の繋がりについて学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス / 多発性硬化症について</li> <li>2 多発性硬化症の理学療法について</li> <li>3 錐体外路系疾患について①</li> <li>4 錐体外路系疾患について②</li> <li>5 脊髄小脳変性症について①</li> <li>6 脊髄小脳変性症について②</li> <li>7 筋委縮性側索硬化症について①</li> <li>8 筋委縮性側索硬化症について②</li> <li>9 筋委縮性側索硬化症について③</li> <li>10 ギランバレー症候群について①</li> <li>11 ギランバレー症候群について②</li> <li>12 筋疾患について (DMD、PN、MG) ①</li> <li>13 筋疾患について (DMD、PN、MG) ②</li> <li>14 筋疾患について (DMD、PN、MG) ③</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>定期試験と日々の出席を総合的に勘案して評価を行います。</p> <p>実技を含むため、できる限り出席すること。</p>		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	実技も含めて行うので、実習のできる格好で臨むこと (実習は事前に通知)		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験16年の経験を有する。		

科目名 Course title	呼吸理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要</p> <p>呼吸管理に必要な解剖・生理学の復習と血液ガスの解釈、肺機能とその検査法について 呼吸器疾患に対する評価・治療の流れと、リハビリテーションに必要な知識について</p> <p>到達目標</p> <p>座学の知識から臨床思考へ移行する1歩目にし、興味を持つきっかけにすると共に呼吸に関する評価項目の列挙が、疾患別また症状別にできる。 また血液ガスの解釈、肺機能とその検査法から必要な情報を読み取りリスク管理・病態把握に繋げ、解剖・生理学の知識から呼吸器疾患のより深い理解や理学療法の対象を明確化できる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに呼吸療法総論</li> <li>2 呼吸管理に必要な解剖・生理</li> <li>3 血液ガスの解釈</li> <li>4 呼吸リハビリテーションの評価。ADL・QOLの評価</li> <li>5 呼吸不全の概念と病態</li> <li>6 各疾患別の病態と理学療法（COPD）</li> <li>7 各疾患別の病態と理学療法（拘束性肺疾患）</li> <li>8 各疾患別の病態と理学療法（ARDSの呼吸管理と理学療法）</li> <li>9 各疾患別の病態と理学療法（睡眠時無呼吸症候群、肺がん）</li> <li>10 各疾患別の病態と理学療法（肺炎）</li> <li>11 開胸術後の理学療法</li> <li>12 人工呼吸器とその適応・離脱</li> <li>13 在宅での呼吸リハビリテーション、在宅人工呼吸療法</li> <li>14 新生児・乳幼児の呼吸管理</li> <li>15 排痰法、気管吸引</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	心血管理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	原田 靖章 ・ 梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(循環)</p> <p>循環器疾患に関する理解を深め、リハビリテーションを行う目的を学ぶ。</p> <p>循環器疾患に対するリハビリ (心臓リハビリテーション) を行う上での評価、方法、リスク管理を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 循環器系の基礎 (解剖・生理)</li> <li>2 運動が循環器系に及ぼす影響について</li> <li>3 身近な循環器疾患について</li> <li>4 循環器疾患に対する理学療法 (心臓リハビリテーション) の目的について</li> <li>5 心筋梗塞 (虚血性心疾患) に対するリハビリテーション</li> <li>6 心不全</li> <li>7 心電図の基礎</li> <li>8 フィジカルアセスメント</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験。 代謝・循環ともに 6 割以上		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	<p>原田靖章：理学療法士として臨床経験 13 年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験 4 年及び専任教員 3 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	糖尿病理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	原田 靖章 ・ 梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(代謝)</p> <p>糖尿病の内科的知識から理解を深める。その上で運動療法が糖尿病に与える効果や運動処方 の根拠を基礎医学的な知見を踏まえ学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 糖尿病とは</li> <li>2 糖尿病の急性合併症</li> <li>3 糖尿病の慢性合併症（網膜症）</li> <li>4 糖尿病の慢性合併症（神経障害 腎症）</li> <li>5 運動療法が糖尿病に与える効果</li> <li>6 運動療法処方の実際とその理論的背景 1</li> <li>7 運動療法処方の実際とその理論的背景 2</li> <li>8 運動療法処方の実際とその理論的背景 3</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験。 代謝・循環ともに 6 割以上		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	<p>原田靖章：理学療法士として臨床経験 13 年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験 4 年及び専任教員 3 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	スポーツ理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	藤高 紘平	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、スポーツ選手やスポーツ現場でよく発生する疾患を理解（病態や発生メカニズム）し、そのスポーツ傷害に対する理学療法評価やリハビリテーションプログラム立案までの流れを理解することを目的とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、スポーツ傷害概論</li> <li>2 下肢のスポーツ傷害（足関節捻挫）について</li> <li>3 足関節外側側副靭帯損傷の病態と治療</li> <li>4 下肢のスポーツ傷害（膝前十字靭帯損傷、半月板損傷について）</li> <li>5 膝関節周囲のスポーツ障害</li> <li>6 ACL損傷に対する理学療法</li> <li>7 ランニング動作に関連した下腿・足部の障害</li> <li>8 スポーツに特有な足部疾患とその対応</li> <li>9 投球障害肩と理学療法</li> <li>10 肘関節周囲のスポーツ障害</li> <li>11 テーピングの概論</li> <li>12 膝スポーツ傷害に対するテーピング（実技含む）</li> <li>13 足関節捻挫に対するテーピング（実技含む）</li> <li>14 野球肩、筋膜性腰椎症に対するテーピング（実技含む）</li> <li>15 全体のまとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	授業態度と定期テストの総合評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	プリント配布予定		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験18年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives			
授業計画 Course Content			
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria			
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	パーソナルトレーニング論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	杉本 拓也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、人々のスポーツをする・観る・読む・聞く等の要求を自身で理解し、対象者に対して適切なトレーニング方法を知ること、また、医療だけでなく、様々な状況を視野に入れながら対象者に適切なトレーニング方法を提供できるよう指導力を身につけるため、正しい指導法を理解することを目的とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 エクササイズサイエンス① 筋系・神経系・骨格系の構造と機能</li> <li>2 エクササイズサイエンス② 生体エネルギー機構、レジスタンストレーニングへの適応</li> <li>3 エクササイズサイエンス③ 有酸素性持久力トレーニング、栄養学</li> <li>4 エクササイズテクニク① 柔軟性、自重、スタビリティーエクササイズ</li> <li>5 エクササイズテクニク② レジスタントトレーニングのエクササイズ</li> <li>6 エクササイズテクニク③ 持久力トレーニングのプログラムデザイン</li> <li>7 エクササイズテクニク④ プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング</li> <li>8 エクササイズテクニク⑤ アスリートを対象としたレジスタンストレーニング</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験及び授業態度		
教科書 Textbooks	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

## ＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	生活環境論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路 実春	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法士が臨床で行う家屋評価・整備について理解する。</p> <p>福祉住環境整備の必要性、評価の重要性、対象者や家族への説明の重要性、整備の技術や手順、関連職種との連携などについて理解する。また、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、新バリアフリー法について理解する。</p> <p>家屋平面図の記載方法を理解する。</p> <p>事例を挙げ、家屋整備をグループで検討し、発表する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実際の患者の疾患、Impairment、Disability レベルから施設内 ADL を考える</li> <li>2 上記患者の在宅復帰の際に必要な ADL、住宅改修について考える</li> <li>3 介護保険、障害保険についての講義、理解。在宅復帰に必要なチーム医療について</li> <li>4 平面図の記入方法、住宅改修に必要な用語の理解</li> <li>5 住宅改修の様々な方法の理解（理学療法士として専門的な事理解含め）</li> <li>6 住宅改修の様々な方法の理解。レンタルできるものについて。 実際の和室の平面図を作成。</li> <li>7 事例を挙げ、自身の家屋平面図からその事例患者の住宅改修の平面図を作成（グループワーク）</li> <li>8 7で作成した平面図について発表</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	家屋平面図提出（10点）、筆記試験（90点）の合計100点満点。		
教科書 Textbooks	「福祉住環境コーディネーター検定試験 2級テキスト 改訂5版」東京商工会議所		
備考 Other Comments	住宅改修のグループワーク実施後、グループ発表を実施する。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。		

## ＝臨床実習＝

科目名 Course title	検査測定実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	80時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>オリエンテーション技術の向上を図る。 学内で学習した知識、技術の理解を深める。 可能な範囲で情報収集、面接、動作観察、検査測定等を経験し、知識、技術を向上させる。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>①オリエンテーション技術の向上 ②学内で学習した知識・技術の理解を深める ③可能な範囲情報収集、面接、動作観察（できれば分析）、検査測定を経験し、知識・技術を向上させる ④評価実習の前段階として検査測定から評価における専門知識と専門技術を整理すること ⑤臨床実習における報告の意義を理解し実践すること ⑥医療を司る者として自覚を深め、可能な範囲で、患者との信頼関係を築くこと ⑦各医療スタッフと協調性を築く事</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。 宇山教員：理学療法士として臨床経験20年及び専任教員5年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	評価実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／4単位
授業方法 Teaching Methods	160時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>面接課程、評価過程に必要な知識や技術の向上 評価プロセスを臨床場面で実践する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①面接家庭・評価過程に必要な知識・技術の整理をすること ②評価過程、即ち情報収集、面接、検査、測定、統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラム作成等を臨床場面で実施すること ③臨床実習における報告の意義を理解し実践すること ④治療実習の前段階として評価から治療の専門知識と専門技術を整理すること</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文、レジュメ		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。 宇山教員：理学療法士として臨床経験20年及び専任教員5年の経験を有する。</p>		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法研究概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小林 功	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士に必要な統計学を学び研究方法について学習する。研究計画までを経験し根拠のある発言が可能になることを目指す。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究とは何か。</li> <li>2 研究デザイン</li> <li>3 研究計画の立て方</li> <li>4 データ入手の方法・症例数計算</li> <li>5 結果の解釈（推定）</li> <li>6 結果の解釈（2変量解析・分散解析）</li> <li>7 研究計画の発表</li> <li>8 研究計画の発表</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点（課題提出と発表）		
教科書 Textbooks	「理学療法研究法 2021」医歯薬出版		
備 考 Other Comments	図書室の蔵書・メディカルオンラインを利用し文献の入手をすること		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験13年及び専任教員7年の経験を有する		

科目名 Course title	実習演習（前期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。</p> <p>症例情報より障害の把握を行うことができる。</p> <p>症例に応じた治療プログラムの立案と実施が出来る。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 整形疾患の評価と治療 個人課題</li> <li>2 整形疾患の評価と治療 グループ課題</li> <li>3 整形疾患の評価と治療 発表</li> <li>4 整形疾患の評価と治療 発表</li> <li>5 中枢疾患の評価と治療 個人課題</li> <li>6 中枢疾患の評価と治療 グループ課題</li> <li>7 中枢疾患の評価と治療 発表</li> <li>8 中枢疾患の評価と治療 発表</li> <li>9 中枢疾患の予後予測</li> <li>10 中枢疾患の予後予測</li> <li>11 整形疾患の評価と治療② 個人課題</li> <li>12 整形疾患の評価と治療② グループ課題</li> <li>13 整形疾患の評価と治療② 発表</li> <li>14 整形疾患の評価と治療② 発表</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（1．2年の際に購入済みの教科書で分野ごとに用意し実施）		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。		

科目名 Course title	実習演習（後期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。</p> <p>症例情報より障害の把握を行うことができる。</p> <p>症例に応じた治療プログラムの立案と実施が出来る。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中枢疾患の評価と治療 個人課題</li> <li>2 中枢疾患の評価と治療 グループ課題</li> <li>3 中枢疾患の評価と治療 発表</li> <li>4 中枢疾患の評価と治療 発表</li> <li>5 動作介助訓練（寝返り・起き上がり）</li> <li>6 動作介助訓練（立ち座り）</li> <li>7 動作介助訓練（歩行）</li> <li>8 動作介助訓練（歩行）</li> <li>9 動作獲得に向けた運動療法（関節可動域訓練）</li> <li>10 動作獲得に向けた運動療法（関節可動域訓練）</li> <li>11 動作獲得に向けた運動療法（筋力増強訓練）</li> <li>12 動作獲得に向けた運動療法（筋力増強訓練）</li> <li>13 動作獲得に向けた運動療法（協調性訓練）</li> <li>14 動作獲得に向けた運動療法（協調性訓練）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（1．2年の際に購入済みの教科書で分野ごとに用意し実施）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎理学療法学（前期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要等	<p>基礎科目の確立。  まず、国家試験に触れて慣れる。  国家試験の構成を理解し、どのような問題がどのような形で出題されるのか、またどの様に解答すべきかを理解する。  重要な問題、よく出題される問題の理解を高める。  自身でまずは学習しまとめる。それを元にグループディスカッションにて学習を確率、さらに理解を深める。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 評価学のグループディスカッション</li> <li>2 評価学のグループディスカッション</li> <li>3 評価学のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>4 整形外科のグループディスカッション</li> <li>5 整形外科のグループディスカッション</li> <li>6 整形外科のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>7 脳血管障害のグループディスカッション</li> <li>8 脳血管障害のグループディスカッション</li> <li>9 脳血管障害のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>10 運動療法のグループディスカッション</li> <li>11 運動療法のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>12 神経・筋疾患のグループディスカッション</li> <li>13 神経・筋疾患のグループディスカッション</li> <li>14 神経・筋疾患のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>15 補装具のグループディスカッション</li> <li>16 補装具のグループディスカッション</li> <li>17 補装具のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>18 脊髄損傷のグループディスカッション</li> <li>19 脊髄損傷のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>20 小児のグループディスカッション</li> <li>21 小児のグループディスカッション、講義、小テスト</li> <li>22 呼吸・循環・代謝のグループディスカッション</li> <li>23 呼吸・循環・代謝のグループディスカッション、講義、小テスト</li> </ol>		
成績評価等	中間試験 50 点、終講試験 50 点		
教科書 Textbooks	「クエスチョン・バンク 2021 理学療法士 専門問題」メディックメディア		
備 考 Other Comments	実習前評価にも中間試験が反映される		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎理学療法学（後期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・ Course objectives	実習前後の知識レベルの確認 国家試験、特に実地問題を解答するのに必要な知識を整理する		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理学療法評価学</li> <li>2 確認試験（評価学）</li> <li>3 整形外科学</li> <li>4 画像の見方（整形）</li> <li>5 確認試験（整形）</li> <li>6 呼吸・循環</li> <li>7 画像の見方（内部障害）</li> <li>8 代謝</li> <li>9 心電図の見方</li> <li>10 確認テスト【内部障害】</li> <li>11 脳血管</li> <li>12 画像の見方（脳、MR I、MR A）</li> <li>13 確認テスト（脳血管）</li> <li>14 補装具・脊損</li> <li>15 確認テスト（補装具・脊損）</li> <li>16 神経筋</li> <li>17 物療</li> <li>18 確認テスト（神経筋・物療）</li> <li>19 実地問題の解き方</li> <li>20 X2 問題の実施</li> <li>21 基礎三科目問題</li> <li>22 実地問題 50 問ディスカッション</li> <li>23 まとめ（模試 100 問）</li> </ol>		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	「クエスチョン・バンク 2021 理学療法士 専門問題」メディックメディア		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 3 年の経験を有する。		

## ＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	リハビリテーション機器	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【授業概要・到達目標】</p> <p>リハビリテーションにおける治療技術の一つに、福祉用具を用いた支援技術がある。本講座では、生活環境の中で用いられる福祉用具の選定を行うための最低限の知識を身に付けることを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>※数字は講義回数とは異なります</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉用具とは</li> <li>2 福祉機器の背景</li> <li>3 福祉用具の分類</li> <li>4 介護保険制度と福祉用具</li> <li>5 機器導入の流れ</li> <li>6 福祉機器の情報</li> <li>7 車椅子</li> <li>8 移乗機器</li> <li>9 ベッド</li> <li>10 排泄機器</li> <li>11 入浴機器</li> <li>12 手すり・スロープ</li> <li>13 コミュニケーション機器</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後に行う単位認定試験により評価する		
教科書 Textbooks	「福祉用具ハンドブック これ你放心！！買う前に読む 福祉用具の選び方」 大井企画		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員24年の経験を有する。		

科目名 Course title	地域理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>地域地学両方の現場をイメージできるようになることを狙いとする。</p> <p>講義では、現場で求められる知識や技術が概説される。</p> <p>地域で働く理学療法士にとって大切なこと、求められる能力についての理解を深めながら、現場のイメージができるようになることをねらいとする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(2コマ各 担当講師変更)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域理学療法学概論</li> <li>2 地域理学療法学概論</li> <li>3 患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法</li> <li>4 患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法</li> <li>5 地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法</li> <li>6 地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法</li> <li>7 回復期病院での理学療法 まとめ</li> <li>8 回復期病院での理学療法 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート課題提出（詳細は講義の際に連絡）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>渡辺泰理学療法士 : 理学療法士として臨床経験36年の経験を有する。</p> <p>中島敏貴理学療法士 : 理学療法士として臨床経験36年の経験を有する。</p> <p>井上健太郎理学療法士 : 理学療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p> <p>西野政史理学療法士 : 理学療法士として臨床経験15年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	地域サービス技術論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安永 龍子 ・ 島村 知歩	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(栄養学)</p> <p>目的：近年、リハビリテーションの効果と栄養をはじめとした身体状況との関連が注目をあびている。特に入院治療者には、低栄養状態も多いと報告され、栄養改善なしには治療効果は見込めない。今後、栄養状態の回復のためのチーム医療の一員として、また退院後の治療効果向上のための栄養学の知識を習得する。</p> <p>概要：①1日のエネルギー量の算出方法と摂取する食品群の量、主食・主菜・副食のバランスから「健康な食事」について知る。②「まれに・ときどき」見られる栄養素欠乏と身体的臨床所見を知る。③特にビタミン・ミネラルの体内作用と欠乏症を知る。④病態に応じた栄養管理の基礎を学ぶ。</p> <p>(保健学)</p> <p>保健学は、健康の探求とその維持増進を目的とする諸科学を統合した人の生命、健康に関わる学問です。健康を維持増進させるための様々な保健活動を理解し、疾病予防や医療人としての自分自身の健康管理について考えることができることをねらいとします。</p> <p>「国民衛生の動向」を参考にし、どのような保健活動が行われているのかを学習します。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(栄養学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 必要エネルギー量（健常時・疾病時）と「健康な食事」</li> <li>2 栄養素欠乏時の臨床所見</li> <li>3 ビタミン・ミネラルの体内作用</li> <li>4 病態に応じた栄養管理と食事指導</li> </ol> <p>(保健学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 保健学とは</li> <li>6 生活習慣病対策について</li> <li>7 健康増進対策について</li> <li>8 老人保健について</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(栄養学)</p> <p>テスト、出席回数（2/3以上必要）によって評価する。</p> <p>(保健学)</p> <p>筆記試験 80%、授業態度 20%</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	(保健学：参考) 厚生指針 増刊 「国民衛生の動向」 財団法人厚生統計協会		

## ＝臨床実習＝

科目名 Course title	治療実習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／6 単位
授業方法 Teaching Methods	300 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>各疾患の評価過程が実践できる。</p> <p>問題点や目標に対応した治療プログラムが設定できる。</p> <p>治療の目的に対して最低限の治療が実践でき、理論的裏付けができる。</p> <p>再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができる。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	令和 2 年度 評価実習 4 週間と併せて 3 年次治療実習 6 週間の合計 10 週間 (45×10 週) で実施		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 23 年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験 4 年及び専任教員 14 年の経験を有する。</p> <p>小路教員：理学療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 5 年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験 4 年及び専任教員 3 年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 1 年の経験を有する。</p> <p>宇山教員：理学療法士として臨床経験 20 年及び専任教員 5 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	治療実習Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／6単位
授業方法 Teaching Methods	300時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>治療実習Ⅰに同じ。</p> <p>再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができる。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	前期治療実習2週間と併せて10週間で実施		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員23年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員14年の経験を有する。</p> <p>小路教員：理学療法士として臨床経験9年及び専任教員5年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験4年及び専任教員3年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。</p> <p>宇山教員：理学療法士として臨床経験20年及び専任教員5年の経験を有する。</p>		

# 講義概要

2021年度

阪奈中央リハビリテーション専門学校  
作業療法学科

《基礎分野》 =科学的思考の基盤・人間と生活=

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 物理量とその表し方</li> <li>2 いろいろな運動と力</li> <li>3 力のつり合いと運動の法則</li> <li>4 物体の重心と回転運動</li> <li>5 運動、仕事のエネルギー</li> <li>6 温度と熱</li> <li>7 波の運動</li> <li>8 電流と抵抗</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>小テスト 30% 期末試験 70%</p>		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」羊土社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「物理学」に相当する。		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「統計学」では、(1) 統計学の基本的な考え方を身につけることと、(2) パソコンを用いて様々な情報・データを活用・分析することを目的としています。</p> <p>講義は、テキストを用いた講義・演習と、パソコンを用いた実習を組み合わせで行います。講義・演習で、データの整理・分析の方法を学習した上で、Excel を利用した実習を行います。授業ごとに習う基礎的な概念やデータ分析の目的、分析結果の読み方を理解するように努めてください。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 データの整理 (1) : 度数分布表とヒストグラム</li> <li>2 データの整理 (2) : 代表値</li> <li>3 確率分布 (1) : 分布の形状</li> <li>4 確率分布 (2) : 正規分布</li> <li>5 推測統計学 (1) : 標本平均の分布</li> <li>6 推測統計学 (2) : 正規分布による区間推定</li> <li>7 推測統計学 (3) : t 分布による区間推定</li> <li>8 単位認定試験</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>「課題の提出」=20 点、「単位認定試験」=80 点で評価します（「単位認定試験」の合格の目安として、講義で配布するプリントの「練習問題」を十分に理解していることを求めます）</p>		
教科書 Textbooks	「新・涙なしの統計学」新世社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「統計学」に相当する。		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です (Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行具合に応じて、実施の可否を判断します)。</p> <p>授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Word の基本操作 (1) : 基本的な文書作成</li> <li>2 Word の基本操作 (2) : 文書の編集</li> <li>3 Excel の基本操作 (1) : データの入力・編集</li> <li>4 Excel の基本操作 (2) : 表の作成</li> <li>5 Excel の基本操作 (3) : 数式・関数の利用</li> <li>6 Excel の基本操作 (4) : グラフの利用</li> <li>7 Excel の応用操作 : データベースとしての利用</li> <li>8 単位認定試験</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>「課題の提出」40 点、「単位認定試験」60 点で評価します。</p> <p>「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。</p> <p>※「単位認定試験」は課題レポートに変更することがあります。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	<p>授業ごとに課題プリントを配付。</p> <p>2019 年度以前入学対象教育課程における「情報処理学」に相当する。</p>		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ラケット競技 (バドミントン・ショートテニス・卓球) 3 バドミントン 4 卓球 5 バレーボール 6 バレーボール 7 ショートテニス 8 バスケットボール 9 バドミントン 10 バスケットボール 11 卓球 12 フットサル 13 ショートテニス 14 フットサル 15 バレーボール		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席重視		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「保健体育」に相当する。		

科目名 Course title	外国語 I (医学英語) ※選択必須	学 科 Department	作業療法学科						
担当者名 Instructor	人見 麻紀	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位						
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—						
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションに関する英語の運用能力の養成を目指す。教科書やプリントを使用して、日常生活動作、運動・動作表現、診断・機能評価の表現、治療上の体位の表現や訓練・リハビリテーションの表現などについて学習する。								
授業計画 Course Content	<p>* 「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」教科書の項目に沿って進める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (会話テストペア決め) &amp; Lesson 1・2</li> <li>2 Lesson 3～5</li> <li>3 会話テスト①</li> <li>4 Lesson 6～8</li> <li>5 Lesson 9・10</li> <li>6 会話テスト②</li> <li>7 Lesson 11・12</li> <li>8 Lesson 13・14</li> <li>9 会話テスト③</li> <li>10 Lesson 15・16</li> <li>11 Lesson 17・18</li> <li>12 会話テスト④</li> <li>13 Lesson 19・20</li> <li>14 Lesson 21・22</li> <li>15 会話テスト⑤ 期末テスト</li> </ol>								
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">会話テスト</td> <td style="width: 10%;">50%</td> <td style="width: 60%;">(10 点×5 回=50 点)</td> </tr> <tr> <td>単位認定試験</td> <td>50%</td> <td>(50 点)</td> </tr> </table>			会話テスト	50%	(10 点×5 回=50 点)	単位認定試験	50%	(50 点)
会話テスト	50%	(10 点×5 回=50 点)							
単位認定試験	50%	(50 点)							
教科書 Textbooks	「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」 メジカルビュー社								
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「英語」に相当する。								

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験 1 級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および 1 年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&amp;文法①</li> <li>2. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&amp;文法②</li> <li>3. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法③&amp;読解①</li> <li>4. 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法④&amp;読解②</li> <li>5. 日本語能力試験 N1 対策講座 読解③&amp;聴解①</li> <li>6. 日本語能力試験 N1 対策講座 読解④&amp;聴解②</li> <li>7. 日本語能力試験 N1 対策講座 模擬試験</li> <li>8. 解剖学用語 総論</li> <li>9. 解剖学用語 骨</li> <li>10. 解剖学用語 関節</li> <li>11. 解剖学用語 靭帯</li> <li>12. 生理学用語 総論</li> <li>13. 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系</li> <li>14. 生理学用語 循環器系</li> <li>15. 生理学用語 呼吸器系</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「英語」に相当する。		

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	曾我部 和馬	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>教育学とは、「教育」：他者と関わることについて、「学」：考え直す学問である。本講義では、この教育学の知見に、さまざまな具体的事象を関連させつつ触れることを通じて、医療従事者が、いわゆる社会的「弱者」と関わるなかで求められるべき「批判的思考」を身につけることを目指す。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに / &lt;子ども&gt;の誕生</li> <li>2 アマラとカマラ：教育学へのいざない</li> <li>3 特別支援教育：障害へのまなざしの変化</li> <li>4 豚のPちゃんを飼う：いのちの授業</li> <li>5 映画「しわ」を観る</li> <li>6 青い目茶色い目：再生産装置としての学校</li> <li>7 セクシュアリティ：批判的思考に向けて</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>学期末試験 60% 平常点 40%（出席、ミニレポート、授業への意欲・態度）</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	<p>本講義では、各自の思考を深めるべく、授業終了時にミニレポートを課し、また適宜グループディスカッションの機会を設ける予定である。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「教育学」に相当する。</p>		

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>医療・保険・福祉に携わるリハビリテーション従事者にとって、人とのコミュニケーションは必須である。そして、それはただ経験的に積み重ねていくだけでは不十分であり、様々な方法、技術を学び身に付けていかなければ、多様なニーズを持つ対象者の対応ができないとも言える。この講義では、コミュニケーションに必要な技術と知識を学び、身に付けるだけでなく、リハビリテーションの専門職としてコミュニケーションの重要性を学ぶことを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースガイダンス(科目の目的・目標・評価方法) <ul style="list-style-type: none"> <li>-人間関係の中の自己と他者</li> <li>-人間関係とは</li> <li>-自己とは</li> <li>-他者とは</li> </ul> </li> <li>2. 対人関係と役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>-対人関係の成立</li> <li>-対人関係の維持と崩壊</li> <li>-対人葛藤と対処</li> <li>-社会的役割</li> </ul> </li> <li>3. 他者に対する態度と行動 <ul style="list-style-type: none"> <li>-態度と態度変化</li> <li>-説得的コミュニケーション</li> <li>-攻撃</li> <li>-援助</li> </ul> </li> <li>4. 大きな単位の人間関係:集団 <ul style="list-style-type: none"> <li>-集団の特性</li> <li>-集団での課題遂行・問題解決・意思決定</li> <li>-リーダーシップ</li> </ul> </li> <li>5. 自分理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>-自分を理解すること</li> <li>-エゴグラム</li> </ul> </li> <li>6. 患者を支える人間関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>-死に向かう患者を支える人間関係</li> <li>-事例-末期がん</li> </ul> </li> <li>7. 家族を含めた人間関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>-保護を必要とする高齢者と家族</li> <li>-事例認知症</li> </ul> </li> <li>8. 人間関係をつくる理論と技法① コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>-コミュニケーションとは</li> <li>-対人コミュニケーション</li> <li>-看護理論にみる患者-看護師関係</li> </ul> </li> <li>9. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>-言語的コミュニケーション</li> <li>-非言語的コミュニケーション</li> </ul> </li> <li>10. 聴く:「積極的傾聴」と「共感」 <ul style="list-style-type: none"> <li>-傾聴と共感</li> </ul> </li> <li>11. 話す:「質問する」と「伝える」 <ul style="list-style-type: none"> <li>-聞かれた質問と閉ざされた質問</li> </ul> </li> <li>12. 人間関係をつくる理論と技法②:アサーティブコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>-アサーションの理論とスキル</li> </ul> </li> <li>13. 人間関係をつくる理論と技法③:コーチング <ul style="list-style-type: none"> <li>-コーチングの理論とスキル</li> </ul> </li> <li>14. 保健医療における人間関係:患者・看護師間の相互作用の評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>-ロールプレイ</li> <li>-プロセスレコード</li> <li>-リフレクション</li> </ul> </li> <li>15. 晶度なコミュニケーション:臨床実習で遭遇する事例をもとに <ul style="list-style-type: none"> <li>-コミュニケーションの困難な状況</li> <li>-コミュニケーションの強化が必要な状況</li> </ul> </li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>試験 60% 提出物 40%</p>		
教科書 Textbooks	<p>「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版」(医学書院)</p>		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 心理学の歴史 2 知覚 1 3 知覚 2 4 記憶 1 5 記憶 2 6 知能 7 感情 8 学習 1 9 学習 2 10 適応 1 11 適応 2 12 性格 13 発達 14 思考 15 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	3分の2以上の出席とレポートと筆記試験の成績		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「心理学」に相当する。		

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三宅 眞理	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。</p> <p>一般目標 (GIO) : 現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。</p> <p>行動目標 (SBOs) : ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。</p> <p>②公衆衛生のしくみについて理解し、疫学・保健統計から説明できる。</p> <p>③身のまわりの環境と健康 (環境保全、食品の安全、環境行政) について理解し実践できる。</p> <p>④感染症とその予防対策について理解し実践できる。</p> <p>⑤母子保健、学校保健における保健活動について理解し実践する力を養成する。</p> <p>⑥成人保健、高齢者保健、歯科保健について理解し健康増進を実践する力を養成する。</p> <p>⑦精神保健、国際保健における保健活動について理解し実践する力を養成する。</p> <p>⑧職場と健康や健康危機管理を理解し、保健医療の専門職としての公衆衛生活動を実践できる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>第 1 回 公衆衛生とは、公衆衛生学の活動対象 : 1 章, 2 章</p> <p>第 2 回 公衆衛生学のしくみ, 疫学・保健統計 : 3, 4 章</p> <p>第 3 回 環境と健康 : 5 章</p> <p>第 4 回 感染症とその予防対策, 国際保健 : 6 章 7 章</p> <p>第 5 回 地域における公衆衛生の実践 母子保健, 学校と健康 : 8 章 B, 9 章</p> <p>第 6 回 地域における公衆衛生の実践 成人保健, 高齢者保健, 歯科保健 : 8 章 C, 8 章 D, 8 章 F</p> <p>第 7 回 地域における公衆衛生の実践 精神保健, 障害者保健・難病 : 8 章 E, 8 章 G</p> <p>第 8 回 職場と健康, 健康危機管理, まとめ : 10 章, 11 章</p>		
成績評価等	【成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria】 筆記試験		
教科書 Textbooks	「公衆衛生がみえる 2020-2021」メディックメディア		
備考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「公衆衛生学」に相当する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適なものにしていくことが、今強く求められている。特に高齢社会においては、年齢や障害の有無を問わず、誰でも豊かで健康的な生活を送るために必要不可欠なことである。</p> <p>たとえば、椅子やベッドなどの家具を身体サイズに合わせたり、照明・空調・トイレなどの住宅設備を負担の少ない快適なものにしたり、パソコンや洗濯機などの家電製品を操作しやすい安全なものにすることなどがそれに当たる。人間工学はこうしたモノや空間を様々な人々が使えるように考えていく学問である。リハビリや要介護者のケア、生活環境の改善等に関わる理学療法士・作業療法士にも当然必要な素養である。</p> <p>講義では、介護やリハビリを行う上で考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、それに合ったモノや環境づくり、そしてその使い方のガイドラインを紹介していく。</p>		
授業計画 Course Content	<p>毎回1つのテーマを取り上げていく。全体は2部構成となっており、第1部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第2部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。</p> <p>〔第1部：人の心身機能とその特性〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション ー人間工学とは何か、どう役立つのか</li> <li>2 人間工学に基づくイスの設計 ーバイオメカニクスの視点</li> <li>3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ー人体寸法とデザイン</li> <li>4 悪い姿勢が体を壊す ー運動機能と身体負担</li> <li>5 感覚は五感だけではない ー感覚の種類と視覚機能</li> <li>6 人はどのように見ているのか ー視覚の生理学</li> <li>7 人は見たモノをどのように感じているのか ー視覚の心理学</li> <li>8 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン</li> </ol> <p>加齢に伴う機能変化 ー超高齢社会への配慮</p> <p>〔第2部：介護・リハビリのための応用人間工学〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 エイジングと高齢者の居住環境 ー高齢社会に対応したモノづくり</li> <li>10 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ーユニバーサルデザインと人間工学</li> <li>11 姿勢と動作、介護現場の事例</li> <li>12 ボディメカニクス、福祉機器の設計</li> <li>13 リハビリの安全と生理</li> <li>14 演習：病院のユニバーサルデザイン</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況と試験成績。試験は授業内容を問う基本的なもの。		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備考 Other Comments	毎回プリントを配布し、必要に応じて副読本を紹介する。 2019年度以前入学者対象教育課程における「人間工学」に相当する。		

《専門基礎分野》 = 人体の構造と機能及び心身の発達 =

科目名 Course title	専門基礎概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士養成校では、解剖学、生理学、運動学を基礎として作業療法士としての医学的知識、技術を向上させていく必要がある。それらの科目を十分に理解するためには、高校までに学習した化学、物理学、数学、生物学の知識は欠かせない。また、文章の理解、文章作成の骨を理解することも、医療従事者にとっては大切である。この科目は高校までで学んでおくべき知識の復習も兼ねて学習し、作業療法学の基盤になる知識の理解と定着、応用ができるようになることを目標とする。さらに、生理学で特に重要となる筋肉の収縮についても深く学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物① 細胞の構造、各機関の役割を知り、体内反応との関連性を知る。</li> <li>2. 生物② 細胞分裂、発生を学び、人の体の成り立ちの基礎を知る。</li> <li>3. 生物③ 3 大栄養素の糖、たんぱく、脂質の化学構造を学ぶ。DNA の構造を学び、遺伝のメカニズムを理解する。また遺伝の種類を理解する。</li> <li>4. 生物④ 細胞膜の構造、膜にあるタンパク質の理解、活動電位、静止電位について理解する。神経における活動電位の伝播を理解する。</li> <li>5. 生物⑤ 細胞内で行われている好気呼吸について理解する。</li> <li>6. 数学① 単位の変換や表記、割合や比率など、基本的な数の扱いについて学ぶ。</li> <li>7. 数学② 三平方の定理や三角関数を学び、物理や運動学に応用できるようになる。</li> <li>8. 物理① ベクトルの計算の仕方や合成、分解の方法を学ぶ。</li> <li>9. 物理② 速度、加速度、距離の関係や運動の法則を学び、力学の基礎を理解する。</li> <li>10. 国語① 医療従事者に必要な文章作成の基礎を知り、事実の列挙の方法を学ぶ。</li> <li>11. 国語② 事実から意見を述べる練習をし、根拠ある文章作成の基礎を学ぶ。</li> <li>12. 筋肉の収縮① 骨格筋の構造、筋原線維、線維の型など</li> <li>13. 筋肉の収縮② 骨格筋・心筋・平滑筋の比較、滑り説、分子機構など</li> <li>14. 筋肉の収縮③ 興奮収縮連関、収縮の諸型、力学的性質など</li> <li>15. 筋肉の収縮④ 収縮記録、エネルギー発生と代謝など</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>提出物</p> <p>小テスト</p> <p>定期試験</p>		
教科書 Textbooks	<p>PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800 / 南江堂</p> <p>三訂版 資格でとらえるフォトサイエンス 生物図録 / 数研出版</p>		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>解剖学は医療を志す者にとって基本の学問であり、人体の構造を理解することは必須である。解剖学 I ではヒトの骨格と関節、靭帯について講義する。</p> <p>骨学の総論では骨の基本的構造や発生、リモデリングなどについて、各論では頭蓋骨～足の骨までを順々に解説する。</p> <p>関節、靭帯の総論ではそれぞれの基本的構造や分類などについて、各論では頭蓋骨～足の連結までを順々に解説する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 骨学総論 1</li> <li>2 骨学総論 2</li> <li>3 頭蓋 1</li> <li>4 頭蓋 2</li> <li>5 脊柱 1</li> <li>6 脊柱 2</li> <li>7 胸郭 1</li> <li>8 上肢 1</li> <li>9 上肢 2</li> <li>10 上肢 3</li> <li>11 下肢 1</li> <li>12 下肢 2</li> <li>13 下肢 3</li> <li>14 関節、靭帯の総論 1</li> <li>15 関節、靭帯の総論 2</li> <li>16 頭蓋の連結</li> <li>17 脊柱の連結</li> <li>18 胸郭の連結</li> <li>19 上肢の連結 1</li> <li>20 上肢の連結 2</li> <li>21 上肢の連結 3</li> <li>22 下肢の連結 1</li> <li>23 下肢の連結 2</li> </ol>		
成績評価	<p>【成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria】</p> <p>定期試験： 100%</p>		
教科書 Textbooks	「PT・OT・ST のための解剖学」 廣川書店		
備 考 Other Comments	必要に応じて骨格模型を使用 2019 年度以前入学対象教育課程における「解剖学 I」に相当する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士として必要かつ重要な筋系および神経系の基本構造を学び、それらのはたらきや相互作用・相互関係を理解する。</p> <p>筋系の一般的な構造を総論で解説し、次に主要な筋の起始、走行、停止、作用、支配神経について詳しく講義する。</p> <p>神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造とはたらきを述べ、特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 筋系総論</li> <li>2 筋系 体幹 1 頭部</li> <li>3 筋系 体幹 2 頸部</li> <li>4 筋系 体幹 3 胸部</li> <li>5 筋系 体幹 4 腹部</li> <li>6 筋系 体幹 5 背部</li> <li>7 筋系 上肢 1 上肢帯・上腕</li> <li>8 筋系 上肢 2 前腕 1</li> <li>9 筋系 上肢 3 前腕 2</li> <li>10 筋系 上肢 4 手</li> <li>11 筋系 下肢 1 下肢帯</li> <li>12 筋系 下肢 2 大腿</li> <li>13 筋系 下肢 3 大腿・下腿</li> <li>14 筋系 下肢 4 下腿</li> <li>15 筋系 下肢 5 足</li> <li>16 神経系 総論</li> <li>17 神経系 中枢 1</li> <li>18 神経系 中枢 2</li> <li>19 神経系 中枢 3</li> <li>20 神経系 末梢 1</li> <li>21 神経系 末梢 2</li> <li>22 神経系 末梢 3</li> <li>23 神経系 末梢 4</li> </ul>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験： 100%		
教科書 Textbooks	「PT・OT・STのための解剖学」廣川書店		
備 考 Other Comments	<p>講義は教科書の流れに沿って、パワーポイント（スライド）を用いて行う。</p> <p>パワーポイントの内容をプリント化し、授業資料として配布する。</p> <p>国家試験の過去問を授業時に紹介することにより、必要な知識を自覚し学習意欲を高めることを目指す。骨格模型の閲覧時間を設けて運動器の構造と一の立体的な理解を深めることを目指す。</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する</li> <li>2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜</li> <li>3 細胞分裂、組織：上肢組織</li> <li>4 組織：支持組織、筋組織、神経組織</li> <li>5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環</li> <li>6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈）</li> <li>7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢</li> <li>8 静脈：脳、上肢、奇静脈系</li> <li>9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環</li> <li>10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓</li> <li>11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭</li> <li>12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸</li> <li>13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造</li> <li>14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道</li> <li>15 腹膜、間膜</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>終講後試験を行う。(100%)</p>		
教科書 Textbooks	<p>「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」南山堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>器官系ごとに問題を配布する。 2019年度以前入学者対象教育課程における「解剖学Ⅲ」に相当する。</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅴでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系、生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭</li> <li>2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔</li> <li>3 泌尿器系：腎小体、尿細管</li> <li>4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構</li> <li>5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体</li> <li>6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎</li> <li>7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体</li> <li>8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰</li> <li>9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤</li> <li>10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体</li> <li>11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン</li> <li>12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚</li> <li>13 眼：眼球の構造</li> <li>14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜</li> <li>15 耳：中耳、内耳の構造</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。(100%)		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」南山堂		
備考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。 2019年度以前入学者対象教育課程における「解剖学Ⅳ」に相当する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体機能発現の基礎となる細胞レベルでのメカニズムを学ぶ。細胞における生命諸反応をミクロ視点で探り、その後細胞群が組織、器官を形成し、コミュニケーションをとりながら複雑な機能発現を成すしくみを理解する。		
授業計画 Course Content	1 一般生理 (生理学) 2 一般生理 (生命現象・ホメオスタシス・フィードバック) 3 一般生理 (人体構成物質・細胞構造) 4 細胞機能 (細胞小器官) 5 細胞機能 (細胞膜の物質移動) 6 細胞機能 (調節メカニズム) 7 細胞機能 (シグナル伝達・受容体) 8 興奮発生と伝達 (興奮性細胞・神経系の基本・活動電位と局所電位・静止電位) 9 興奮発生と伝達 (細胞膜イオン透過性の変化) 10 興奮発生と伝達 (イオンチャネル・パッチクランプ) 11 興奮発生と伝達 (活動電位の伝導と特性・ $\lambda$ と $\tau$ ・跳躍伝導) 12 興奮発生と伝達 (単・二・三相性活動電位・複合活動電位・軸索輸送) 13 シナプス伝達 (興奮性・抑制性・シナプス小胞) 14 シナプス伝達 (神経伝達物質・神経伝達物質受容体・神経回路網) 15 シナプス伝達 (ニューロン結合の基本型・可塑性・神経の変性・再生・成長)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「生理学テキスト第 8 版」文光堂		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「生理学 I」に相当する。		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 循環系の機能① 心臓の構造と心筋の働き</li> <li>2 循環系の機能② 心電図 心臓ポンプ機能</li> <li>3 循環系の機能③ 血管の構造と働き リンパ管系</li> <li>4 循環系の機能④ 血圧とその調整</li> <li>5 循環系の機能⑤ 局所の循環</li> <li>6 呼吸の生理学① 呼吸器系の構造 換気の仕組み</li> <li>7 呼吸の生理学② 肺機能 ガス交換とガス分圧</li> <li>8 呼吸の生理学③ 呼吸の調整 呼吸の異常</li> <li>9 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系</li> <li>10 自律神経系と内臓機能② 自律機能の中枢 内臓反射</li> <li>11 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化</li> <li>12 消化と吸収② 小腸内の消化と吸収</li> <li>13 大腸の働きと排便 肝臓の機能</li> <li>14 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量</li> <li>15 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第7版」南江堂		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「生理学Ⅲ」に相当する。		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体液とその調整① 体液の区分と組成 酸塩基平衡の調整</li> <li>2 血液の生理① 血液の組成 細胞組成</li> <li>3 血液の生理② 血液凝固 血液型 免疫機構</li> <li>4 体温とその調節① 体温の区分と生理的変動 熱産生</li> <li>5 体温とその調節② 熱放散 発熱とうつ熱</li> <li>6 尿の生成と排泄① 肝臓の機能的構造 糸球体濾過</li> <li>7 尿の生成と排泄② 尿細管における再吸収と分泌</li> <li>8 尿の生成と排泄③ 尿の成分 畜尿と排尿</li> <li>9 内分泌系の機能① ホルモンの一般的性質と分泌調節</li> <li>10 内分泌系の機能② 視床下部 下垂体ホルモン</li> <li>11 内分泌系の機能③ 甲状腺のホルモンと骨代謝 膵臓のホルモン</li> <li>12 内分泌系の機能④ 副腎のホルモン</li> <li>13 内分泌系の機能⑤ 精巣、卵巣のホルモンと生殖</li> <li>14 感覚系の構造と機能① 感覚の一般的性質 体性感覚</li> <li>15 感覚系の構造と機能② 嗅覚と味覚</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第7版」南江堂		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「生理学Ⅱ」に相当する。		

科目名 Course title	運動学（上肢） I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体運動の仕組み（身体の機能・構造）、及び、身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす ② 残存機能を応用させたADL（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。この講座では、主に上肢帯について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>人間の正常な機能構造を理解する 機能構造から起こる運動の特性について理解する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動学とは</li> <li>2 上肢帯と肩関節の運動の概要</li> <li>3 上肢帯の機能構造</li> <li>4 鎖骨の運動</li> <li>5 鎖骨と肩甲骨の連結について</li> <li>6 肩甲骨の運動</li> <li>7 肩関節の運動（肩関節の機能構造）</li> <li>8 肩関節の運動（肩関節と上腕骨の関係性）</li> <li>9 肩関節の運動（形状に伴う運動の特性）</li> <li>10 肩甲骨の運動（運動方向）</li> <li>11 肩甲骨の運動（肩甲上腕リズム）</li> <li>12 肩関節周囲の筋肉（頸部から肩甲帯）</li> <li>13 肩関節周囲の筋肉（肩甲骨周囲および胸郭）</li> <li>14 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲）</li> <li>15 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲および上肢）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カパンジー機能解剖学 I 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学（上肢） I」に相当する。		

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体運動の仕組み（身体の機能・構造）および身体運動の特性について学ぶ。</p> <p>これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす ② 残存機能を応用させたADL（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。</p> <p>この講座では、上肢から手指、把持することについて、学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 上腕から前腕の構造について（概要）</li> <li>2 肘関節の関節構造について</li> <li>3 肘関節の関節構造について（関節包・靭帯）</li> <li>4 肘関節の構造と運動（関節形状に伴う特性）</li> <li>5 肘関節の運動</li> <li>6 前腕の構造</li> <li>7 前腕の運動</li> <li>8 手根骨の機能解剖</li> <li>9 手関節の機能構造</li> <li>10 手関節の運動（形状に伴う特性）</li> <li>11 手の役割、手の多機能性</li> <li>12 手関節と手指の運動</li> <li>13 手指の運動（関節構造と靭帯）</li> <li>14 上腕の筋群</li> <li>15 前腕および手内在筋群</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カパンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学（上肢）Ⅱ」に相当する。		

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹) III	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動学とは何か</li> <li>2 力学の基礎① (てこの原理、作用・反作用・力のつりあい)</li> <li>3 力学の基礎② (ベクトル、滑車、仕事)</li> <li>4 関節の分類、関節運動の表現法</li> <li>5 股関節の運動学① (関節の特徴、靭帯)</li> <li>6 股関節の運動学② (関節の動き、筋肉)</li> <li>7 股関節の運動学③ (屈曲、伸展)</li> <li>8 股関節の運動学④ (外転、pauwels の理論)</li> <li>9 股関節の運動学⑤ (内転、内・外旋)</li> <li>10 膝関節の運動学① (関節の特徴、半月板)</li> <li>11 膝関節の運動学② (側副靭帯、十字靭帯)</li> <li>12 膝関節の運動学③ (屈曲、伸展、膝蓋骨の役割)</li> <li>13 膝関節の運動学④ (Screw-home movement、筋肉、伸展機構)</li> <li>14 膝関節の運動学⑤ (半月板の形態と働き、膝関節の安定性)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況、終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学 (下肢・体幹) III」に相当する。		

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹) IV	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 足関節の運動学① (関節の特徴、足を構成する骨の特徴)</li> <li>2 足関節の運動学② (距腿関節、距骨下関節)</li> <li>3 足関節の運動学③ (ショパール関節、リスフラン関節)</li> <li>4 足関節の運動学④ (中足間関節、中足指節関節、趾節間関節)</li> <li>5 足関節の運動学⑤ (足底弓蓋)</li> <li>6 脊柱の運動学① (脊柱の特徴、motion segment、)</li> <li>7 脊柱の運動学② (椎間関節、関節包内運動、頸椎の運動)</li> <li>8 脊柱の運動学③ (椎間円盤、胸椎の運動)</li> <li>9 脊柱の運動学④ (胸椎の運動、胸郭の運動)</li> <li>10 脊柱の運動学⑤ (腰椎の運動、仙腸関節)</li> <li>11 歩行と走行① (歩行周期、走行との違い)</li> <li>12 歩行と走行② (歩行周期と重心移動、関節角度の変化)</li> <li>13 歩行と走行③ (歩行時の筋滑動、異常歩行)</li> <li>14 歩行と走行④ (床反力、Floor-foot clearance、double knee action)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>①出席状況 ②レポート (開講後提示予定) ③終講試験</p>		
教科書 Textbooks	<p>「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社</p>		
備 考 Other Comments	<p>2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学 (下肢・体幹) IV」に相当する。</p>		

科目名 Course title	人間発達学 I (運動)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	(運動発達) ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後 10 ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 新生児 3 頭部のコントロール 4 抗重力活動 5 立ち直り運動 6 座位・立位・歩行技能 7 視覚技能 8 上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「人間発達学」に相当する。		

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor		期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>（発達心理）</p> <p>子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達とは—発達心理学の基礎</li> <li>2 乳幼児期の発達</li> <li>3 言葉の発達①</li> <li>4 言葉の発達②</li> <li>5 心の理論</li> <li>6 児童期のこころ</li> <li>7 青年心理学</li> <li>8 老年心理学—認知症の理解</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発達心理 テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「人間発達学」に相当する。		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	廣石 伸互	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。</p> <p>本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病理学とは</li> <li>2 細胞・組織の損傷</li> <li>3 炎症</li> <li>4 免疫</li> <li>5 アレルギー</li> <li>6 感染症</li> <li>7 呼吸器障害</li> <li>8 循環器障害 充血とうっ血</li> <li>9 循環器障害 虚血と梗塞</li> <li>10 代謝障害</li> <li>11 先天性異常の分類</li> <li>12 先天性異常 染色体異常と遺伝子異常</li> <li>13 腫瘍とは何か</li> <li>14 悪性腫瘍の広がりと影響</li> <li>15 脳・神経系の疾患</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験（100％）		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」医学書院		
備 考 Other Comments	<p>講義内容は理解度に応じて変更することがある。</p> <p>2019年度以前入学者対象教育課程における「病理学」に相当する。</p>		

科目名 Course title	神経内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の総論について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	1. 主要神経症候 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動麻痺</li> <li>2 運動失調</li> <li>3 錐体外路症候</li> <li>4 姿勢反射障害と姿勢異常</li> <li>5 痙攣とミオクローヌス</li> <li>6 筋萎縮</li> <li>7 歩行障害</li> <li>8 感覚障害</li> <li>9 疼痛</li> <li>10 脳神経障害</li> <li>11 構音障害、嚥下障害、球麻痺症候</li> <li>12 意識障害</li> <li>13 高次脳機能傷害</li> <li>14 自律神経症候</li> </ol> 2. 臨床検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>15 画像検査・電気生理学的検査</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	授業の終了時（学期末）にテストをする。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「神経内科学 I」に相当する。 医師として臨床経験 34 年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	上川 比呂勝	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	1. 現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 2. 精神と脳の間接関係を考える。 3. 疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content	1 講師の自己紹介 この授業全体の概要 精神医学について 認知症症例 2 アルツハイマー型認知症 症例および解説 ニューロンとシナプス 心とは何か 3 脳血管性認知症 症例および解説 4 さまざまな認知症 クロイツフェルトヤコブ病、ハンチントン病など 5 統合失調症 破瓜型 症例および解説 統合失調症概説 6 統合失調症 緊張型 症例および解説 統合失調症の発病 精神科病棟について 7 統合失調症 妄想型 症例および解説 統合失調症の経過 慢性期 8 統合失調症の治療およびリハビリテーションを考える 9 気分障害 症例と解説 気分障害概説 10 気分障害 バーンアウト 症例と解説 気分障害経過 11 気分障害 躁病 症例と解説 気分障害治療 12 気分障害 生活上の注意点 ストレスへの対処を考える 13 薬物依存 症例アルコール依存症 1 薬物依存概説 14 薬物依存 症例アルコール依存症 2 アルコール依存症者の生活史 15 薬物依存 タバコおよびその他の薬物 依存とは アルコール依存症の治療		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験で評価します		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待 改訂 3 版」南山堂		
備 考 Other Comments	適宜プリントを配布します		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「精神医学 I」に相当する。 医師として臨床経験 18 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content	(15 回で行う) 1 臨床心理学について 2 パーソナリティ 3 アセスメント 4 発達と心理的問題 5 心理的介入 6 臨床心理学の応用 7 国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など。		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「臨床心理学」に相当する。		

## ＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講座の到達目標は、作業療法について学んでいくにあたり、より広義であるリハビリテーションの概要を理解することである。</p> <p>到達目標を達成するために、まず、リハビリテーションの定義・歴史について講義したうえで、生活・健康の概念についてみていき、疾病・障害・生活機能を分類する概念について解説していく。続いて、一般化されている患者・障害者の心理的な側面についてみるとともに、リハビリテーションが進められる流れ、リハビリテーションの形態について講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーションの理念（前半） <ul style="list-style-type: none"> <li>▶①歴史・定義 ②ハビリテーション ③ノーマライゼーション ④自立生活</li> </ul> </li> <li>2 リハビリテーションの理念（後半） <ul style="list-style-type: none"> <li>▶⑤健康に関連する概念（QOL） ⑥生活・ライフスタイルと健康</li> </ul> </li> <li>3 疾病・生活機能の概念と分類（前半） <ul style="list-style-type: none"> <li>▶①病気の定義と国際疾病分類（ICD） ②国際障害分類（IDIDH）</li> </ul> </li> <li>4 疾病・生活機能の概念と分類（後半） <ul style="list-style-type: none"> <li>▶③国際生活機能分類（ICF）</li> </ul> </li> <li>5 患者・障害者の心理・社会的側面 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶①患者・障害者心理 ②心理的適応の過程 ③心理教育（患者教育、家族教室）</li> <li>④社会参加を支える法制度</li> </ul> </li> <li>6 リハビリテーションの進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶①リハビリテーション関連職種 ②チームアプローチ ③ケース会議（評価会議）</li> <li>④リハビリテーションプログラム ⑤クリニカルパス</li> </ul> </li> <li>7 リハビリテーションの諸相 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶①医学的リハビリテーション ②教育的リハビリテーション</li> <li>③職業的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション</li> <li>⑤地域リハビリテーション ⑥予防と健康管理</li> </ul> </li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験		
教科書 Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村隆一・佐直信彦：入門リハビリテーション概論 第7版増補. 医歯薬出版. 2013</li> <li>・「ICF 国際生活機能分類」中央法規</li> </ul>		
備 考 Other Comments	参考図書：上好昭孝, 田島文博 編著：リハビリテーション概論 改訂第3版. 永井書店. 2014		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「リハビリテーション概論」に相当する。		

科目名 Course title	社会福祉学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。</p> <p>尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは</li> <li>2. 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉</li> <li>3. わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度</li> <li>4. 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について</li> <li>5. 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策</li> <li>6. 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について</li> <li>7. 高齢者の福祉 介護保険制度について</li> <li>8. 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「社会福祉学」に相当する。		

科目名 Course title	多職種連携学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>本講座の到達目標は、作業療法士とともにリハビリテーションを担う職種との連携を理解することである。</p> <p>到達目標達成に向け、連携に関する概念を学んだうえで、看護師・理学療法士・言語聴覚士と特に連携することが多い職種の概論を講義する。その後、作業療法士単独ではなく、職種間で連携することで得られる効果について検討していく。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーション関連職種と連携</li> <li>2 チームアプローチ</li> <li>3 【看護師 (Ns)】 看護とは</li> <li>4 【看護師 (Ns)】 看護の提供者とその仕組み</li> <li>5 【看護師 (Ns)】 看護過程について</li> <li>6 【看護師 (Ns)】 チームアプローチを行ううえで療法士に期待すること</li> <li>7 【理学療法士 (PT)】 理学療法の基礎概念</li> <li>8 【理学療法士 (PT)】 理学療法の実際 (1)</li> <li>9 【理学療法士 (PT)】 理学療法の実際 (2)</li> <li>10 【理学療法士 (PT)】 チームアプローチを行ううえで OT に期待すること</li> <li>11 【言語聴覚士 (ST)】 言葉とコミュニケーション</li> <li>12 【言語聴覚士 (ST)】 言語障害の種類と接し方 (1)</li> <li>13 【言語聴覚士 (ST)】 言語障害の種類と接し方 (2)</li> <li>14 【言語聴覚士 (ST)】 摂食嚥下障害</li> <li>15 チームアプローチを効果的に進めていくために</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 国守：筆記試験・レポート課題</p>		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「言語聴覚療法概論」に相当する。		

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の基礎となる「作業」や「活動」とはなにか、「作業療法とは」「作業療法士とは」ということをその言葉の意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 作業とは？作業療法とは？</li> <li>2 作業療法の理論・理念・関連法規</li> <li>3 作業療法の歴史</li> <li>4 作業療法の倫理</li> <li>5 作業療法士に求められるもの</li> <li>6 作業療法と ICIDH と ICF</li> <li>7 EBM と作業療法</li> <li>8 他職種連携：チームアプローチ</li> <li>9 作業療法の現場・対象・病期</li> <li>10 作業療法における思考過程：クリニカルリーズニングとは</li> <li>11 作業療法の過程：評価、統合と解釈、計画立案</li> <li>12 領域別作業療法の実際</li> <li>13 領域別作業療法の実際</li> <li>14 作業療法にかかわる医療・福祉制度</li> <li>15 作業療法部門の管理・運営</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法学概論 第3版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業療法概論」に相当する。 作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業分析学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤善 将	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点を持ち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 作業療法についての振り返り</li> <li>2 作業療法の理解に向けたグループワーク</li> <li>3 活動分析（前開きシャツ・靴下など）</li> <li>4 分析結果の発表・ディスカッション</li> <li>5 巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク</li> <li>6 分析結果の発表・ディスカッション</li> <li>7 食べる行為についての作業分析（グループワーク）</li> <li>8 分析結果の発表・ディスカッション</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業分析学 I」に相当する。 作業療法士として教員 6 年及び臨床 2 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村 博也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の治療媒体としての作業活動の中から代表的な革細工と陶芸を通して、材料と道具の使い方とその管理方法、作品制作の手順を理解する。</p> <p>作品制作を通し作業分析的視点から、作業療法における作業活動の意味を考える。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースオリエンテーション</li> <li>2. 陶 芸 荒練り、菊練りの実技</li> <li>3. 手びねりでのぐい飲み</li> <li>4. ひもづくりでの湯呑み</li> <li>5. たたらづくりによる花瓶</li> <li>6. ひもづくりでの灯籠</li> <li>7. ひもづくりでの灯籠、素焼き</li> <li>8. 施釉、本焼き</li> <li>9. 革細工 小銭入れ</li> <li>10. スタンプング</li> <li>11. 染色</li> <li>12. かがり、ホックつけ</li> <li>13. コースター</li> <li>14. カービング</li> <li>15. 染色</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	作品提出、レポートの総合により成績を判定する。		
教科書 Textbooks	「基礎作業学実習ガイド」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	実習科目なので作品提出とレポートを重視する。		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「基礎作業実習 I」に相当する。 作業療法士として臨床経験 17 年及び教員 15 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【一般目標】</p> <p>作業療法としての木工作業とレクリエーションを体験する。木工では、工程や必要な道具・材料について、包括的作業分析（活動分析）の手法を学ぶ。レクリエーションでは、計画、実施、振り返りを行って、作業療法として実践的にレクリエーションを行う手法を学ぶ。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 製作する木工作品を自身で決定し、与えられた設定の中で作品を完成することができるようになる。</p> <p>② 木工作業の体験をする中で、作業療法に必要な要素を考えながら、作業分析の視点を養う。</p> <p>③ 体験した木工作業を、包括的作業分析（活動分析）してレポートにまとめることができる。</p> <p>④ 作業療法として行うレクリエーションの必要性を理解する。</p> <p>⑤ レクリエーションの計画、実施、振り返りを体験して、自身で計画、実施ができるようになる。</p> <p>⑥ レクリエーションを実施される側の視点で、他者の実施を評価できるようになる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 レクリエーション①：レクリエーション概論（座学）</p> <p>2 レクリエーション②：レクリエーション体験</p> <p>3～5 レクリエーション③：レクリエーション実施（1回目）</p> <p>6～8 レクリエーション④：レクリエーション実施（2回目）</p> <p>9 レクリエーション⑤：総括、木工①：オリエンテーション</p> <p>10 木工②：採寸、切断</p> <p>11～12 木工②：切断、組み立て、加工</p> <p>13～14 木工③：塗装、仕上げ</p> <p>15 木工④：装飾</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>①木工（50%）：作品（25%）とレポート（包括的作業分析）（25%）</p> <p>②レクリエーション（50%）：計画書と発表内容（2回分）（25%）とレポート（報告書）（25%）</p> <p>※木工の作品及びレポートが期限内に提出がない場合は不可とし、再試験として再提出を求める。</p> <p>レクリエーションの計画書・発表はグループごとに評価する。報告書の期限内の未提出は減点（-12.5%）とする。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	2019年度以前入学者対象教育課程における「基礎作業実習Ⅱ」に相当する。作業療法士として臨床経験7年及び専任教員3年の経験を有する。		

## ＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	作業療法評価法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の治療、援助の計画を立案する為には、対象者の状況を正しく把握することが重要です。本稿では、正しい情報を得られるように評価の基本的な視点を学びます。また、評価は随時見直し、検討する必要があります。評価の流れについても習得することを目標とします。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題</li> <li>2 <b>ONE BEST SOLUTION</b> はない！、クイズとパズル、問題認識</li> <li>3 責任者は自分自身、評価の目的</li> <li>4 評価の過程、評価のプロセス</li> <li>5 各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定）</li> <li>6 各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施）</li> <li>7 各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則）</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験      ②出席状況		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価法総論」に相当する。作業療法士として臨床経験9年及び専任教員24年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士として対象者を評価する上で、必要な評価技法を学ぶ。 主としてバイタル・身体計測・反射。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>1 : バイタル・身体計測・反射において各々の項目の検査意義や定義、注意点など各々にかかわる項目を理解し述べるができる</p> <p>2 : バイタル・身体計測・反射において測定手技を身につけ、誘導・説明から検査開始、終了まで滞りなく適切に行うことができる</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 作業療法評価技法総論：評価とは？評価技法とは？評価技法の位置づけなど</p> <p>2 作業療法評価技法総論：評価結果の統合と解釈など捉え方</p> <p>3 バイタルサインとは：古典的および現代的バイタルサインとは。それらを測定する技術と意味。血液検査等の略語と標準数値について</p> <p>4 バイタルサインとは：測定実技</p> <p>5 バイタルサイン測定の実技テスト（実技・口頭試問）</p> <p>4 体表解剖：検査・測定を行う上で必要なランドマークを学び触察</p> <p>5 形態測定とは：概論（測定機器の取り扱い、注意点等）</p> <p>6 形態測定とは：測定実技</p> <p>7 携帯測定実技テスト（実技・口頭試問）</p> <p>8 反射とは：反射検査の意義・反射の種類</p> <p>9 反射と姿勢筋緊張</p> <p>10 反射の経路など生理学的基礎について</p> <p>11 深部反射（伸張反射）：深部反射の持ちうる意味と測定技法</p> <p>12 病的反射：病的反射の種類と意味、原始反射や上位中枢からの抑制について</p> <p>13 病的反射：測定技法</p> <p>14 表在反射：表在反射の種類と意味、測定技法</p> <p>15 反射の実技テスト（実技・口頭試問）</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>単位認定は、終講試験。この授業は医療現場での実践を想定しており、受講態度、実習に不適切な風貌は減点対象とする。授業では計測、血圧測定、反射テストの3つについて実技試験を行うので、授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>実技習得のため練習をしっかりと行うこと。わからない場合は積極的に教員に質問して解決の糸口を見つけられるようにすること。</p>		
実務経験内容	<p>2019年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価技法 I」に相当する。 作業療法士として臨床経験7年及び専任教員12年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田愛	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習実習	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法評価技法Ⅰに続き、作業療法士として評価する上で、必要な評価技法（検査測定の方法）を学ぶ。主には、関節可動域（ROM）測定と感覚検査。</p> <p>到達目標：</p> <p>① ROM 測定および感覚検査の定義・種類・適応・測定方法・測定における留意点を述べるようになる</p> <p>② ROM 測定および感覚検査実施にあたり、被検者を誘導し、検査のオリエンテーションを行い、適切な測定を実施できる</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 講座のオリエンテーション、ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識</p> <p>2 最終域感（生理的・病的）・姿勢の名称・ROM 測定のための道具</p> <p>3 ROM 測定の手順・測定の注意事項・測定の正確性に影響する因子</p> <p>4 ROM 測定実技練習 （肩関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、水平屈曲－伸展、）</p> <p>5 ROM 測定実技練習 （肘関節：屈曲－伸展、手指：屈曲－伸展、外転－内転、前腕：回内・回外）</p> <p>6 ROM 測定実技練習 （母指：掌側外転－橈側外転、手指：屈曲－伸展、外転－内転）</p> <p>7 ROM 測定実技練習 （股関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、膝：屈曲－伸展）</p> <p>8 ROM 測定実技練習 （足関節：底屈－背屈、外転－内転、内がえし－外がえし、肩甲骨：挙上－下制、屈曲－伸展）</p> <p>9 ROM 実技練習 （体幹と頸部：屈曲－伸展、側屈、回旋）</p> <p>10 ROM 実技テスト</p> <p>11 感覚・知覚：定義、意義、表在感覚と深部感覚の違い、伝導路の違い</p> <p>12 深部感覚の伝導路、防御知覚の伝導路、感覚テストの方法、オリエンテーションの仕方、痛覚・触覚のテストについて</p> <p>13 感覚検査の実技練習</p> <p>14 感覚検査の実技練習</p> <p>15 感覚テスト</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>単位認定は、終講試験(100%)で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象。</p> <p>ROM 測定、感覚テストの2つについて実技試験を行行ので授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院</p> <p>「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂</p>		
備考 Other Comments	<p>実技はしっかり練習すること。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。</p>		
実務経験内容	<p>2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価技法Ⅱ」に相当する。作業療法士として臨床経験6年及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

## ＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	身体障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害領域疾患別作業療法を理解するための基礎を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>①身体障がい作業療法対象者の主な症状を理解し介入方法を理解する</p> <p>②症状別の治療原理を中心に専門基礎科目、基礎科目とのつながりを理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身体障害領域作業療法の概要、作業遂行モデル</li> <li>2 治療の連続性、治療方法（Bottom-up approach と Top-down approach）</li> <li>3 〔作業遂行を行う運動のメカニズム〕物理学的な基礎知識と身体運動の基礎知識</li> <li>4 〔筋緊張の異常とその治療〕関連用語、基礎知識、筋緊張異常を起こす疾患</li> <li>5 筋緊張異常の発生機序 筋緊張の評価、痙性筋に対する治療手技と作業療法による介入</li> <li>6 〔不随意運動とその治療〕定義・分類 振戦症状の検討 不随意運動と障害部位との関係 評価、作業療法 〔協調運動障害とその治療〕定義・評価のための基礎知識</li> <li>7 〔協調運動障害とその治療〕失調症の主な臨床症状、失調症の発生機序と原因別分類</li> <li>8 〔協調運動障害とその治療〕評価（運動検査・机上検査・機器による検査）</li> <li>9 〔協調運動障害とその治療〕治療手技、治療の原則、視覚を利用した方法、固有感覚を利用した方法、巧緻性訓練</li> <li>10 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕筋力・筋持久力低下の要因と原理、基礎知識</li> <li>11 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕評価、治療手技、筋力・筋持久力訓練を実施する前に、筋力・筋持久力訓練の種類、特殊疾患の注意点、筋力訓練指導上の注意点</li> <li>12 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕作業療法との関連</li> <li>13 〔関節可動域の拡大〕用語、関節可動域制限の原因と機序</li> <li>14 〔関節可動域の拡大〕評価・治療のための基礎知識、筋緊張と最終域感、関節包内運動、ROMex に使用される 4 つの運動、評価、治療手技、作業療法</li> <li>15 〔知覚再教育〕用語、評価・治療のための基礎知識、知覚再教育プログラムの前段階、手の知覚再教育プログラム、中枢神経障害と末梢神経障害の違いを中心に</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100％）		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第 3 版」医学書院 その他、必要に応じて指示する		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	2019 年度以前入学者対象教育課程における「身体障害作業療法総論」に相当する。 作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 12 年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬介在療法とは何かを学ぶ。</li> <li>馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。</li> <li>馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」</li> <li>人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ</li> <li>馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。</li> <li>馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。</li> <li>馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。</li> <li>馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してするための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

## ＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	80時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本実習の主目標は、作業療法の対象領域を広く見聞することである。医療機関での作業療法士の活躍は周知されつつあるが、一方で近年、住民のニーズによって拡大されてきた地域での作業療法士の取り組みについてはまだまだ知られていない。そうした領域で活躍する作業療法士の様々な仕事を見て学ぶことで、自身の作業療法士としての将来像を構築する一助にしてみたい。</p> <p>本目標を達成するために、地域の作業療法関連の施設を複数かつ数日間、見学することを想定している。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。          宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。          木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。          杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。          勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。          宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。          中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

《専門基礎分野》 = 人体の構造と機能及び心身の発達 =

科目名 Course title	運動学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	60時間 / 演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講座では1学年時に習得した運動学の基礎について、実際に体を動かして起こりうる運動を分析する手法を学習し、そのメカニズムを理解する。後半の運動分析は、実際の日常生活における動作をビデオカメラ等の必要な機器を使用して分析し、考察する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1・2 オリエンテーション、関節運動の考え方  3・4 筋走行と骨運動①（三角筋）  5・6 筋走行と骨運動②（肩甲骨腕リズム）  7・8 筋走行と骨運動③（菱形筋）  9・10 筋走行と骨運動④（前鋸筋）  11・12 まとめ①（グループ発表）  13・14 まとめ②（グループ発表）  15・16 運動分析①（椅子からの立ち上がり運動動作撮影）  17・18 運動分析②（椅子からの立ち上がり運動動作分析）  19・20 運動分析③（正常歩行、オリジナル歩行動作撮影）  21・22 運動分析④（立ち上がり動作分析発表）  23・24 運動分析⑤（正常歩行分析発表）  25・26 運動分析⑥（オリジナル動作分析発表）  27・28 重心と体重移動  29・30 （予備）まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>①筆記試験 ②レポート ③出席状況  レポート課題は実習を進めながら作成します。筆記試験は記述式です。授業で習得した内容をしっかり理解しておくこと。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「運動学実習」に相当する。		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	栄養・薬理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	上野 雅弘・前田 和宏	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講義は、リハビリテーションと栄養・代謝との関連についての理解および薬物による人間の反応の理解ができることを到達目標としている。</p> <p>したがって、栄養と代謝の概要並び代謝異常に関する講義を行い、その後栄養管理に関する内容を述べる。</p> <p>もう一つの学習目標としている薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養って何？                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学・公衆栄養学の違いを知る</li> <li>・5大栄養素の消化と吸収などの基礎栄養学</li> </ul> </li> <li>2 リハビリテーションに関わる栄養学                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学を中心とした内容、身体計測、血液データからの情報収集</li> </ul> </li> <li>3 病態別（疾患別）の栄養管理                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に糖尿病、高血圧、褥瘡などを例にして留意すべき点</li> </ul> </li> <li>4 補足、ふり返り、まとめ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を通してのまとめ補足（座学・実技）</li> </ul> </li> <li>5 薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる 薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む）</li> <li>・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用</li> <li>・リスクマネジメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性</li> </ul> </li> <li>6                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。</li> <li>・神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。</li> </ul> </li> <li>7                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。</li> <li>・循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。</li> </ul> </li> <li>8                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。</li> <li>・注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。</li> </ul> </li> </ol>		

成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験（薬物学分野：100%）を行い、評価する。
教科書 Textbooks	適宜指示する
備考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「リハビリテーション医学」に相当する。
実務経験内容	

科目名 Course title	臨床検査学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子（講義・実験：筋電図） 竹村 京子（実験：脳波）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>人は様々な身体機能、精神機能を一連に行いながら生命活動を営んでいる。そこで、個体の実際の身体状況を知るため、生化学および生理学検査により情報を数値化・データ化・図示化して状況を把握し、さらに臨床的に血液検査やレントゲン検査、運動機能検査、感覚機能検査、脳波測定などを行って、詳細な身体情報を得て療法のより適切な対応をすることは重要である。</p> <p>作業療法士においては、解剖運動生理学、その他の専門基礎科目や専門科目から基礎知識を学ぶとともに、生化学・生理学的なデータを観察して人体をより詳細に理解することが大切である。</p> <p>当科目では、①筋電測定（運動機能の基本的な要素である「筋肉」の動き）②脳波測定（意識レベルを反映する「大脳皮質で発生する電気信号」）を実験的に記録観察して、身体の運動機能・精神機能についてより一層の理解を深めることを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その1）</li> <li>2. 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その2）</li> <li>3. 実習 誘発筋電図、M-H波（その1）</li> <li>4. 実習 誘発筋電図、M-H波（その2）</li> <li>5. 脳波発生のメカニズムについて（その1）</li> <li>6. 脳波発生のメカニズムについて（その2）</li> <li>7. （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その1）</li> <li>8. （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その2）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。</p>		
教科書 Textbooks	「生理学テキスト第8版」文光堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	救急医療概論（喀痰吸引を含む）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor		期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講義、救急医療体制について学び、救急医療時の対応について実技も交えながら実施していく。また、救急医療現場だけでなく、その後のリハビリテーションにおいて必要とされる画像診断について学ぶ。さらに、喀痰・吸引の実践につながるように、実技を交えながらその概要について学習する。</p> <p>到達目標は、救急医療を理解すること、画像診断について説明でき、喀痰吸引を模擬実践できることを想定している。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 （救急）救急医療体制とトリアージとは</li> <li>2 （救急）心肺停止に対する一時救命処置（実習あり）</li> <li>3 （画像）画像検査について</li> <li>4 （画像）レントゲンの見方（一般）</li> <li>5 （画像）レントゲンの見方（CT）</li> <li>6 （画像）MRI の特徴と見方</li> <li>7 （吸引）嚥下機能と喀痰吸引の基礎知識</li> <li>8 （吸引）喀痰・吸引の実践（実技）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 1・2回 井上先生：授業後半の実習でチームワーク、声、手技等を評価します。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「リハビリテーション医学」に相当する。		
実務経験内容			

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 内科学総論；内科学とは、主な疾患</li> <li>2 診療の基本；カルテと問診</li> <li>3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方</li> <li>4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患</li> <li>5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩</li> <li>6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック</li> <li>7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①）</li> <li>8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全</li> <li>9 循環器疾患（4）；不整脈</li> <li>10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など）</li> <li>11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患</li> <li>12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候</li> <li>13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症</li> <li>14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患</li> <li>15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「内科学 I」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験 32 年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患</li> <li>2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍</li> <li>3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか</li> <li>4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など</li> <li>5 代謝性疾患（1）；糖尿病</li> <li>6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など</li> <li>7 内分泌疾患 ；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患</li> <li>8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血</li> <li>9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患</li> <li>10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患</li> <li>11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患</li> <li>12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法</li> <li>13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患</li> <li>14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など）</li> <li>15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「内科学Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験32年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の各論として各疾患について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 脳血管障害 2 中枢神経感染症 3 パーキンソン病 4 パーキンソニズム 5 不随意運動症 6 痴呆性疾患 7 てんかん 8 脊髄小脳変性症 9 運動ニューロン疾患 10 脱髄性疾患 11 脊椎・脊髄疾患 12 末梢神経疾患 13 ミオパチー 14 自律神経疾患① 15 自律神経疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末のテストで評価する。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布 2019年度以前入学者対象教育課程における「神経内科学Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	上川 比呂勝	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。</li> <li>・精神と脳の関係を考える。</li> <li>・疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 気分障害：症例、治療、注意点など</li> <li>2 薬物依存、アルコール依存を中心に症例</li> <li>3 薬物依存：生活史、依存、耐性</li> <li>4 薬物依存：症例、離脱症状、アルコール精神病</li> <li>5 薬物依存：タバコ（ニコチン）</li> <li>6 薬物依存：覚醒剤、症例、その他の薬物</li> <li>7 神経症性障害：概説、症例、PTSD</li> <li>8 神経症性障害：症例、パニック障害、神経症病理</li> <li>9 神経症性障害：症例、強迫性障害、解離性/転換性障害</li> <li>10 神経症性障害：神経症病理、治療</li> <li>11 てんかん：病理、症状、治療①</li> <li>12 てんかん：病理、症状、治療②</li> <li>13 知的障害：ダウン症など①</li> <li>14 知的障害：ダウン症など②</li> <li>15 補足</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待」改訂第3版 南山堂		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「精神医学Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験19年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 整形外科の基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版」医学書院 「標準整形外科学 第14版」医学書院		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「整形外科学 I」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験 27 年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靭帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版」医学書院 「標準整形外科学 第14版」医学書院		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「整形外科学Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験27年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	塚田 周平・中島 充	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床経験を多く入れて症例を通して疾患概念を理解してもらいたい 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(塚田講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、内分泌・代謝性疾患への理解を深める</li> <li>2 血液・免疫・救急・膠原病に関する理解を深める</li> <li>3 免疫・膠原病・腎・泌尿器疾患</li> <li>4 感染症・消化器疾患</li> </ol> <p>(中島講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症</li> <li>6 神経・筋・骨系疾患</li> <li>7 循環器疾患、呼吸器疾患</li> <li>8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「小児科学」に相当する。		
実務経験内容	<p>塚田医師：医師として臨床経験41年の経験を有する。 中島医師：医師として臨床経験39年の経験を有する。</p>		

## ＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション制度論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本年也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>この科目では、リハビリテーションを支える諸制度について学ぶ。具体的には、国の社会保障制度の枠組み、制度の中でも特にリハビリテーションに関連する制度をみていく。さらに、近年構築されてきている地域包括ケアシステムおよび自立支援・就労支援に関する制度や制度を用いて行われている取り組みについて話す。</p> <p>到達目標は、講義でとらえる諸制度について概要を説明できるようになること、対象者が使用できる制度とそのサービスについて理解することである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度             <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 社会保障制度のなりたち II. 社会保険制度 III. 社会保障の財源</li> </ol> </li> <li>2. 医療保険制度             <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 医療保険の仕組み II. 医療提供体制</li> </ol> </li> <li>3. 医療保険制度             <ol style="list-style-type: none"> <li>III. 診療報酬(診療報酬とその請求、リハビリテーションに関する診療報酬)</li> </ol> </li> <li>4. 介護保険制度             <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 介護保険制度 (介護保険制度の目的、制度創設の背景、制度の特徴、国民の義務)</li> <li>II. 介護保険のしくみ</li> </ol> </li> <li>5. 介護保険制度             <ol style="list-style-type: none"> <li>III. 介護保険給付サービスの種類</li> <li>IV. 介護報酬 (介護報酬とその請求、リハビリテーションに関する介護報酬)</li> </ol> </li> <li>6. 障害者・障害児サービスと就労支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 障害者手帳 (身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)</li> <li>II. 障害者総合支援法 (制定された経緯、概要)</li> <li>III. 各種サービスと療法士のかかわり IV. 就労支援に関する施設と内容</li> </ol> </li> <li>7. 予防・保健             <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 行政におけるリハビリテーション II. 行政リハビリテーション専門職の役割 III. 介護 予防、保健指導、地域ケア会議</li> </ol> </li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験 (10割) を実施する。		
教科書 Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 斉藤秀之、能登真一 編：リハビリテーション管理学. 医学書院, 2020.</li> <li>・ 中村隆一、佐直信彦 編：入門リハビリテーション概論第7版増補. 医歯薬出版株式会社, 2013</li> </ul>		
備考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「社会生活適応論」に相当する。		
実務経験内容	宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。		

## ＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	生活行為向上マネジメント	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生活行為向上マネジメントの開発背景や構造を知る。 事例を通して、情報を整理し対象者の全体像や取り巻く環境との関係について考察する。また、どのようなマネジメント方法があるかを検討していく。 到達目標は、生活行為と生活行為の障害について説明できること、生活行為向上マネジメントのプロセスおよび各種シートの使い方を説明できること、各種シートの記載ができることである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、開発の背景</li> <li>2 用語の解説</li> <li>3 生活行為と生活行為の障害</li> <li>4 各種シートの使い方</li> <li>5 演習①模擬事例</li> <li>6 演習②模擬事例</li> <li>7 演習③模擬事例</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験・課題の発表および提出		
教科書 Textbooks	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版」医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>仮想の症例について、作業療法評価計画を立案から作業療法評価レポートの作成までを演習する。その際、演習に必要な資料・文献等の収集学習や、専門基礎科目と専門科目の知識を関連づけながら思考していく論理学習等を同時に演習し、臨床実習への準備を整える。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(4 5時間で行う)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケースレポートの書き方</li> <li>2. レポートを書くときの注意事項</li> <li>3. ゼミ形式で担当教員の指導の下、レポートを完成させる。</li> <li>4. 実習セミナーに参加し、発表を傾聴し作業療法評価について考える。</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	期日までに提出されたケースレポート及び演習中の取り組みについて評定する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価法総論演習」に相当する。		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。  宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。  木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。  杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。  勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。  宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。  中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	60時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	徒手筋力検査法について学びます。教科書的な技術を丸暗記するだけでなく、原理原則をしっかりと学ぶことで、対象者にあわせて対応できるようになることが目標です。環境設定、オリエンテーション、測定肢位など臨床的な技法も適宜取り入れながら講義を進めていきます。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・学力確認テスト</li> <li>2. 徒手筋力検査における基本原則</li> <li>3. 上肢筋の総復習、上肢帯体表解剖</li> <li>4. 肩関節の筋</li> <li>5. 肩関節の筋</li> <li>6. 肩関節の筋</li> <li>7. 肩甲骨の筋</li> <li>8. 肩甲骨の筋</li> <li>9. 肘関節・前腕の筋</li> <li>10. 手関節の筋</li> <li>11. 指の筋</li> <li>12. 指の筋</li> <li>13. 母指の筋</li> <li>14. 母指の筋</li> <li>15. 復習</li> <li>16. 復習</li> <li>17. 頸部の筋</li> <li>18. 頸部・体幹の筋</li> <li>19. 体幹・骨盤の筋</li> <li>20. 実技試験</li> <li>21. 実技試験</li> <li>22. 下肢・体幹筋の総復習、下肢・体幹体表解剖</li> <li>23. 股関節の筋</li> <li>24. 股関節の筋</li> <li>25. 股関節の筋</li> <li>26. 膝関節の筋</li> <li>27. 足関節の筋</li> <li>28. 復習</li> <li>29. 実技試験</li> <li>30. 実技試験</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、実技試験と終講時の筆記試験で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象となる。本講義では、前半と後半にそれぞれ実技試験を行う。これらは授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「新・徒手筋力検査法 原著 第10版」協同医書出版 「ID触診術 第2版」三輪書店		
備 考 Other Comments	実技が身につくまでには多くの練習時間を要する。学生同士技術を磨きあってほしい。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。 2019年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価技法Ⅲ」に相当する。		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自分というフィルターを通して他者を観察・評価していくことを体験し、意識化・実務経験化する。		
授業計画 Course Content	(30時間で行う) ・観察 ・自分を知る ・言葉について ・客観的事実と主観的事実 ・自己表現 ・視点を変える、視点を増やす		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート点、試験の点数を合算。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価技法Ⅳ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験17年の経験及び教員5年の経験を有する。		

## ＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	精神障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村 博也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神障害関連領域における基礎的な知識の整理（精神科医療の歴史、関係法規、社会資源、リスク管理、関連理論など）と障害特性、評価の特性を考える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースオリエンテーション、精神障害とは</li> <li>2. 精神障害者の処遇の歴史</li> <li>3. 関連法規</li> <li>4. 精神障害論・特性</li> <li>5. 障害特性 ICF</li> <li>6. OT の行われる場、入院・デイケア</li> <li>7. 回復段階 急性期・回復期・維持期</li> <li>8. 急性期の理解</li> <li>9. 作業面接</li> <li>10. 治療構造</li> <li>11. REHAB, LASMI</li> <li>12. 集団 治療因子と構造因子</li> <li>13. 集団の発達レベル</li> <li>14. リスク管理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて行う。		
教科書 Textbooks	「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」医歯薬出版		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「精神障害作業療法総論」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験17年及び教員15年の経験を有する。		

科目名 Course title	老年期障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三野 一成	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本邦の総人口は1億2,711万人（2015年時点）だが、65歳以上の高齢者人口は3,392万人を数える。総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上となる見通しである。</p> <p>このような環境の中、高齢者には今まで以上に社会的役割を担う事が求められており、高齢者自身からも活躍の場を求める声が上がっている。一方、加齢に伴う様々な機能変化から、適切な援助を必要とする高齢者が多数いる事も事実である。</p> <p>本講義では、高齢者の特徴、高齢者のおかれている現状をふまえた上で、高齢者との関わり方、高齢者が求める社会保障等を学ぶ講義としたい。</p>		
授業計画 Course Content	<p>（30時間で行う）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴</li> <li>2. 高齢者のおかれている現状</li> <li>3. 高齢者との関わり方</li> <li>4. 高齢者をとりまく社会保障</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「老人のリハビリテーション 第8版」医学書院		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「老年障害作業療法総論」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験16年の経験を有する。		

科目名 Course title	発達障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	杉村 孝彰	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>【一般目標】</p> <p>発達障害の各論を学ぶのに必要となる、発達障害の病態や種類、作業療法の基本的な考え方を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 基本的な原始反射を理解する。</p> <p>② 定型発達の身体的側面と精神、知的、認知的側面の概要を理解する。</p> <p>③ 脳性まひ児の病態、種類を理解し、その作業療法の考えを理解する。</p> <p>④ 進行性筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎の作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑤ 自閉症スペクトラム障害の種類や病態、作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑥ ADHD、LDの作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑦ 発達検査やスクリーニング検査の種類を理解し、必要な検査が選択できるようになる。</p> <p>⑧ 感覚統合についてその概要を理解する。</p> <p>⑨ 障がい児を取り巻く環境、サービスについてその概要を理解する。</p> <p>⑩ 障がい児の親、兄弟など家族との関係や思いについてその概要を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 当事者の方のお話①</p> <p>2 当事者の方のお話②</p> <p>3 原始反射</p> <p>4 定型発達（身体機能）①</p> <p>5 定型発達（身体機能）②</p> <p>6 定型発達（身体機能）③</p> <p>7 定型発達（精神・知的機能）</p> <p>8 脳性まひ児の病態、種類や特性</p> <p>9 脳性まひ児の作業療法</p> <p>10 進行性筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎などの作業療法</p> <p>11 自閉症、アスペルガー症候群の病態や特性</p> <p>12 自閉症、アスペルガー症候群の作業療法、感覚統合①</p> <p>13 ADHD、LDの作業療法</p> <p>14 感覚統合②、発達検査①</p> <p>15 発達検査②、関係するサービス</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（原始反射）15%、小テスト（復習）10%、単位認定試験（ペーパー）75%		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版」医学書院 「ポケット版 OT 臨床ハンドブック 増補版」三輪書店		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「発達障害作業療法総論」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験8年及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法 I (発達疾患 I)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大西 満	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形疾患を中心とした疾患別の障害特性及び作業療法の進め方、保護者への支援方法を理解する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DMD 児の概要</li> <li>2. DMD 児の評価・治療の考え方</li> <li>3. 分娩麻痺児・者の概要</li> <li>4. 分娩麻痺児・者の評価・治療の考え方</li> <li>5. 二分脊椎児・者に対する概要</li> <li>6. 二分脊椎児・者の評価・治療の考え方</li> <li>7. 障害を有する子どもを育む保護者への支援</li> <li>8. 障害を有する子どもを育む保護者への対応</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験 100%		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法 I (発達疾患 I)」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 5 年及び教員 2 9 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅱ (発達疾患Ⅱ)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	加藤 雅子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脳性麻痺についての概要、および障害特性によって分類されたタイプ別に、視聴覚教材を用いて臨床像や基本的問題点を確認し、障害特性のイメージと理解につなげる。また、それらの障害が、発達過程におよぼす影響についても講義し、評価～作業療法のアプローチポイントを理解する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳性麻痺についての概要①</li> <li>2. 脳性麻痺についての概要②</li> <li>3. 脳性麻痺 痙直型両麻痺①</li> <li>4. 脳性麻痺 痙直型両麻痺②</li> <li>5. 脳性麻痺 痙直型片麻痺①</li> <li>6. 脳性麻痺 痙直型片麻痺②</li> <li>7. 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型①</li> <li>8. 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型②</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験および出席状況		
教科書 Textbooks	なし 資料を配布		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び教員27年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅲ (精神疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村 博也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神疾患別の障害特性、作業療法の進め方について		
授業計画 Course Content	1 コースオリエンテーション 精神症状の理解 2 神経症の理解 3 解離性障害・強迫性障害 4 神経性無食欲症 5 統合失調症 グループ発表 6 統合失調症 グループ発表 7 統合失調症 グループ発表 8 統合失調症 グループ発表 9 統合失調症 グループ発表 10 感情障害 グループ発表 11 感情障害 グループ発表 12 薬物療法 13 ADS 14 ADHD 15 BPD		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	統合失調症、感情障害は学生の発表。筆記試験により行う。		
教科書 Textbooks	教科書：香山他編. 生活を支援する精神障害作業療法. 医歯薬出版 副読本：太田・上野編. 学生のための精神医学. 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験17年及び教員15年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅳ (老年期疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高齢期分野に多い疾患やそれに対応するアプローチなどを学ぶ。また超高齢化社会となっている我が国における高齢期分野の根底となりつつある地域包括ケアシステムなどについて知り、どのような支援を行うべきなのかを考える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期分野とは・・・老人疾患の特徴、加齢と老化</li> <li>2. 老年期リハの特徴 介護保険とその流れ① 高齢マネジメント</li> <li>3. 介護保険とその流れ② 地域包括ケアシステム</li> <li>4. 認知症とは・・・認知症全般に関連する症状・疾患など</li> <li>5. 認知症のリハビリテーション① アルツハイマー型認知症</li> <li>6. 認知症のリハビリテーション② 脳血管性認知症・レビー小体型認知症</li> <li>7. 認知症のリハビリテーション③ 前頭側頭型認知症 その他の認知症</li> <li>8. DS-R と MMSE 特徴・実技など。その他高齢期に関連する評価スケール</li> <li>9. 高齢者の運動器疾患とリハビリテーション① 骨折と置換術、リスク</li> <li>10. 高齢者の運動器疾患とリハビリテーション② 骨折の合併症 脱臼肢位</li> <li>11. 高齢者の運動器疾患とリハビリテーション③ 骨粗鬆症 転倒予防</li> <li>12. 介護予防とフレイル・サルコペニア・運動器不安定症・ロコモティブシンドローム</li> <li>13. 廃用症候群①</li> <li>14. 廃用症候群② CVA・廃用からの脱臼等の患部保護について。三角巾での保護実技</li> <li>15. 誤用症候群・過用症候群 全体のまとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	老人のリハビリテーション 医学書院		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅳ(老年期疾患)」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅴ (脳血管疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>脳血管障害患者は生活習慣病の中の代表的疾患であり、医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーション、とりわけ作業療法部門においては避けることの出来ない対象である。</p> <p>脳血管障害に関する発生機序、心身に及ぼす障害について理解し、対応するリハビリテーションプロセス（リハビリテーション評価の流れ、心身機能、生活障害の程度を測る各手法、対象者のリハビリテーション課題を探るポイント、社会復帰への目標設定など）について整理する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳の機能解剖</li> <li>2. 脳の機能局在</li> <li>3. 脳血管障害の経過</li> <li>4. 脳血管障害の分類</li> <li>5. 脳血管障害による症状①</li> <li>6. 脳血管障害による症状②</li> <li>7. 画像診断 CT</li> <li>8. 画像診断 MRI</li> <li>9. ブルーンストロームとは</li> <li>10. 上田の12段階評価とは</li> <li>11. 上田の12段階 実技 上肢</li> <li>12. 上田の12段階 実技 下肢</li> <li>13. 上田の12段階 実技 手指</li> <li>14. 手指機能検査 STEF ペグ</li> <li>15. 作業療法評価指針①</li> <li>16. 作業療法評価指針②</li> <li>17. ADL 評価 バーセルインデックス</li> <li>18. ADL 評価 FIM</li> <li>19. ポジショニング実技</li> <li>20. 片麻痺の基本動作</li> <li>21. 片麻痺の応用動作</li> <li>22. 作業療法治療指針</li> <li>23. まとめ</li> </ol> <p>上記の進行に沿って、座学・実技を交えて講義する。 一項目が複数回に亘ることもあり、学生にはその都度、特に実技準備品について事前連絡を講師より行う。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席率      ②課題レポートの内容      ③筆記試験の採点      ④授業態度		
教科書 Textbooks	「DVD シリーズ7 PTOT のための測定評価 片麻痺機能検査・協調性検査」三輪書店		
備 考 Other Comments	パソコン・プロジェクター使用 2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として教員3年及び臨床31年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法VI (整形疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手の機能解剖について理解する</li> <li>・ 手の外科領域の専門用語について理解する</li> <li>・ 手術法、術後療法、リスク管理について理解する</li> <li>・ 標準的訓練プログラムについて理解する</li> <li>・ 臨床実習および卒後診療に最低限必要な技術、知識を習得する</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 整形 OT とは、骨の機能、成長、新陳代謝、関節、関節の機能、筋、末梢神経</li> <li>2 疼痛、変形、拘縮、強直、動揺関節</li> <li>3 整形外科診断と検査、保存療法、手術療法</li> <li>4 骨折総論①</li> <li>5 骨折総論②</li> <li>6 骨折総論③</li> <li>7 骨折総論④</li> <li>8 橈骨遠位端骨折①</li> <li>9 橈骨遠位端骨折②</li> <li>10 橈骨遠位端骨折③</li> <li>11 腱損傷①</li> <li>12 腱損傷②</li> <li>13 腱損傷③</li> <li>14 腱損傷④</li> <li>15 切断①</li> <li>16 切断②</li> <li>17 切断③</li> <li>18 切断肢の作業療法訓練</li> <li>19 熱傷</li> <li>20 末梢神経損傷①</li> <li>21 末梢神経損傷②</li> <li>22 関節リウマチ①</li> <li>23 関節リウマチ②</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハ実践テクニック ハンドセラピー」メジカルビュー社 「リハ実践テクニック 関節リウマチ 改訂第2版」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法VI (整形疾患)」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員24年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (難病)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「難病」とはその名のとおりに、根本的治療法が未だ確立されていない疾患の総称で、医療・保健・福祉の分野ではケアに長期間を要する。授業では以下の理解を深める。</p> <p>① 難病疾患に関する社会支援制度、とりわけ公的介護保険制度との関係について、 ② 代表的な神経難病についての疫学、症状、リハビリ評価、対応について整理する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経難病とは</li> <li>2. 神経難病に関する医療、福祉制度</li> <li>3. パーキンソン病とは</li> <li>4. パーキンソン病の評価、作業療法</li> <li>5. 多発性硬化症</li> <li>6. 脊髄小脳変性症</li> <li>7. 廃用症候群について</li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 欠席状況、遅刻・早退</li> <li>② 定期試験採点</li> <li>③ 授業態度</li> </ol> <p style="text-align: right;">等で評価いたします。</p>		
教科書 Textbooks	講師作成プリント・スライド		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅶ(難病)」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験3年及び教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅷ (高次脳機能障害)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>高次脳機能について概説をした上で、諸症状別に内容及び作業療法による介入方法を学ぶ。授業の後半では、国家試験に対応できるようになることを目的に、国家試験の過去問を配布する。過去問は、本講の復習に用い自己研鑽を図る。</p> <p>到達目標：高次脳機能障害の各症状と作業機能障害との関連性を考え、作業療法による介入方法を検討できるようになる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・脳の機能について・脳の機能解剖と画像所見</li> <li>2. 脳の発達と高次脳機能の獲得</li> <li>3. 高次脳機能のカテゴリー、脳の側性化と利き手、脳と意識高次脳機能障害を引き起こす疾患</li> <li>4. 失語症に対する作業療法（定義と分類、責任病巣、メカニズム、評価（一部））</li> <li>5. 失語症に対する作業療法（評価（続き、治療）、失行症の作業療法（定義と分類））</li> <li>6. 失行症に対する作業療法（責任病巣、メカニズム、評価、治療）</li> <li>7. 失認症に対する作業療法（定義と分類、責任病巣、メカニズム、評価（一部））</li> <li>8. 失認症に対する作業療法（評価（続き）、治療）、半側空間無視に対する作業療法（定義と分類））</li> <li>9. 半側空間無視に対する作業療法（責任病巣、メカニズム、評価、治療）</li> <li>10. 記憶障害に対する作業療法（定義と分類、責任病巣、メカニズム）</li> <li>11. 記憶障害に対する作業療法（評価、治療）</li> <li>12. 注意障害に対する作業療法（定義と分類、責任病巣、メカニズム）</li> <li>13. 注意障害に対する作業療法（評価、治療）</li> <li>14. 遂行障害に対する作業療法（定義と分類、責任病巣、メカニズム）</li> <li>15. 遂行障害に対する作業療法（評価、治療）、まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）（資料持ち込みありの試験（50%）、資料持ち込みなしの試験（50%））		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」医学書院 「リハビリテーションにおける 評価法ハンドブック - 障害や健康の測り方 - 」医歯薬出版		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員12年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅸ (脊椎損傷)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	丹黒 武人	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>脊髄損傷の症状の特性を理解し、作業療法での評価・治療を含め、リハビリテーションチームとしての関わりや社会復帰についての OT アプローチ等を学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脊髄損傷とは</li> <li>2 麻痺の特性と随伴症状について</li> <li>3 受傷原因、急性期の症状と対処</li> <li>4 急性期におけるリハビリテーション</li> <li>5 合併症とその管理について</li> <li>6 脊髄損傷者の基本動作</li> <li>7 脊髄損傷者の車いすや移乗方法について</li> <li>8 評価と訓練計画</li> <li>9 食事、整容動作</li> <li>10 排泄動作</li> <li>11 更衣、入浴動作</li> <li>12 住宅改修の特徴と福祉機器</li> <li>13 脊髄損傷の損傷髄節レベル別の ADL の特徴</li> <li>14 作業療法の具体的支援方法</li> <li>15 症例検討</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況、授業態度、筆記試験。		
教科書 Textbooks	「頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版」協同医書出版		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「疾患別作業療法Ⅸ（脊髄損傷）」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験38年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 妃呂己、磯脇 知世	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【講義概要】</p> <p>すでに1年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。</p> <p>この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を实践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を实践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際が多職種連携についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 馬介在療法を实践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。</li> <li>② 馬介在療法を实践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。</li> <li>③ 馬介在療法を实践する上での支援の基本的な考え方を理解する。</li> <li>④ リハ職が馬介在療法を实践する際が多職種の連携を理解する。</li> </ol>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を实践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。</li> <li>2. 馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。</li> <li>3. 馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。</li> <li>4. 馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで实践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。</li> <li>5. 馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を实践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。</li> <li>6. 馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。</li> <li>7. 馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。</li> <li>8. 馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について 作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで实践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。</li> </ol> <p>※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	日常生活活動学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	日常生活活動、生活関連活動とは何か？個人がその人らしく『生活する』とはどういうことなのか？を学びます。各人を取り巻く環境は同じではなく、万人が行っている身の回りの活動ひとつとっても、その中に個別の「こだわり」が存在するものもある。そこに作業療法士が関わることで、対象者の生活をどのように取りもどし、援助していくのかを考えていきます。		
授業計画 Course Content	日常生活活動(ADL)と作業療法 1 オリエンテーション 「ADL」とは / 「日常生活とは」 2 ADLとは 定義・概念・範囲について 3 基本動作と Self-care 4 Self-care の5項目について考える 5 「できるADL」と「しているADL」 6 ADLの自立と QOL 7 健常者の動作とは 8 ADL 動作と動作分析 9 ADL 動作と動作分析 10 生活関連活動について 11 日常生活活動の評価 / テストバッテリー 12 生活と文化的側面とは 13 疾患別 ADLについて (呼吸器疾患) 14 疾患別 ADLについて (脳血管疾患) 15 疾患別 ADLについて (整形疾患)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 改訂第3版」 協同医書出版		
備 考 Other Comments	基本的に動きやすい服装で受講してください。実技を行うことがあります。 2019年度以前入学者対象教育課程における「日常生活活動学」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年及び専任教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	(義肢装具士)
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>1. 作業療法士としての知識の習得 作業療法士としての基本的知識、義手の操作・適合判定に関する知識の習得を目指します。</p> <p>2. コミュニケーション能力の向上 相手の意見を理解し、自分の意見を相手に伝える能力の向上を目指します。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1. 義肢総論① 義肢とはなにか? 歴史、特徴、勉強のポイント</p> <p>2. 義肢総論② 義肢の基礎 切断の原因、切断と離断、義肢の種類</p> <p>3. 義足 種類と特徴 ソケット / 足部 / 膝継手</p> <p>4. 義手① 義手とはなにか? 種類と機能</p> <p>5. 義手② 能動義手のチェックアウト</p> <p>6. 装具総論 装具とはなにか? 基本原理と理論、種類、下肢装具と体幹装具</p> <p>7. 上肢装具 種類と機能</p> <p>8. まとめ 疾患・障害と装具の対応、振り返り</p> <p>義肢(義足及び義手)を中心に、装具(作業療法士が製作するプリントを除いたもの)を含め講義します。それぞれの義肢装具の名称と目的、機能を習得することを目的とします。授業には、講義、見本の閲覧、討論、発表、質疑などを含みます。また、小テストを実施し、試験範囲に含めます。</p> <p>*本授業は授業の進度、理解度によって若干変更されることがあります。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>平常点 授業中の発言及びグループディスカッションの参加・発表 筆記試験は網羅的な内容とし、選択式、穴埋め式、記述式を含みます。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「作業療法学全書 改訂第3版 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学」 協同医書出版</p> <p>装具と義足に関しては、別途配布資料も併用し、試験範囲に含めます。</p>		
備 考 Other Comments	<p>整形外科や中枢・末梢神経疾患、また作業療法の評価法や介入の方法、さらには ADL や QOL など、他の科目で学んだ事項を積極的に活用することが、義肢装具の理解を深めます。基本知識の習得が大切ですので、毎回の復習を行い、知識の定着に努めてください。</p> <p>2019年度以前入学者対象教育課程における「義肢学」に相当する。</p>		
実務経験内容			

科目名 Course title	装具学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>上肢装具の機能、適応について教授し、代表的な装具に関しては採形から制作までを実施し、修正技術、適合判定技術を習得する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 装具概論（装具とは、機能、適応）</li> <li>2. 装具の分類、目的、原理</li> <li>3. 製作実習① 指用装具</li> <li>4. 製作実習② 指用装具</li> <li>5. 製作実習③ 指用装具</li> <li>6. カックアップスプリント①</li> <li>7. カックアップスプリント②</li> <li>8. カックアップスプリント③</li> <li>9. カックアップスプリント④</li> <li>10. カックアップスプリント⑤</li> <li>11. カックアップスプリント⑥</li> <li>12. カックアップスプリント⑦</li> <li>13. カックアップスプリント⑧</li> <li>14. カックアップスプリント⑨</li> <li>15. カックアップスプリント⑩</li> <li>16. 短対立装具①</li> <li>17. 短対立装具②</li> <li>18. 短対立装具③</li> <li>19. 短対立装具④</li> <li>20. 短対立装具⑤</li> <li>21. 短対立装具⑥</li> <li>22. 短対立装具⑦</li> <li>23. まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 実技課題の提出		
教科書 Textbooks	「手のスプリントのすべて 第4版」三輪書店		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「装具学」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員24年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典 ・ 隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	2000年4月より介護保険制度も開始され、わが国でも福祉用具のレンタルや住宅改修が積極的に利用されつつあるが、まだ全体的な利用率は低い水準にとどまっている。本講座では作業療法士として必要な機器支援の方法、機器の使用法の基礎を学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉用具とは、背景、分類、ISO9999</li> <li>2. 介護保険制度、貸与と特定福祉用具、作業療法士の役割</li> <li>3. 機器使用者に対する支援、機器提供のプロセス</li> <li>4. 中間ユーザーとしての役割、福祉機器の情報</li> <li>5. 車いす、電動車いす</li> <li>6. 車いすの種類、機能、機構</li> <li>7. 移乗用具（ホイスト、吊具）</li> <li>8. ベッドと周辺機器、テーブル</li> <li>9. 排泄のための機器</li> <li>10. 入浴のための機器</li> <li>11. 手すりスロープ</li> <li>12. コミュニケーション機器</li> <li>13. 起居関連用具②（マットレス、ベッド手すり、サイドレール）</li> <li>14. 起居関連用具③（寝返り補助用具、姿勢補助用具）</li> <li>15. 起居関連用具④（椅子、いす車、手すり）</li> <li>16. 起居関連用具⑤（ベッドの利点と欠点、寝具選択のポイント）</li> <li>17. 移動関連用具②（歩行器・歩行車、床上移動用具）</li> <li>18. 移動関連用具③（車いすの分類、自走用車いすの種類）</li> <li>19. 移動関連用具⑤（介助用車いす、チルト機構、リクライニング機構）</li> <li>20. 移動関連用具⑥（電動車いす・電動化ユニット）</li> <li>21. 移動関連用具⑦（車いすオプション・クッション）</li> <li>22. 移動関連用具⑧（車いすの選択・車いすに求める要因）</li> <li>23. 移動関連用具⑨（障害形態別移動法）</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」協同医書出版 「これで安心！買う前に読む 福祉用具の選び方 [改訂版]」（株）大井企画		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「福祉用具支援論Ⅰ」に相当する。		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年及び専任教員24年の経験を有する。 隅野講師：作業療法士として臨床経験19年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士の援助技術の一つとして自助具適応による生活能力の向上が上げられる。この講座では自助具に関する基本的な考え方と適応技術について学ぶ。</p> <p>後半はいくつかの対応課題について実際に自助具を設計・作成し、材料の選択加工方法についても学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自助具とは基本的知識</li> <li>2 自助具の製作、注意点</li> <li>3 製作実習①</li> <li>4 製作実習②</li> <li>5 製作実習③</li> <li>6 製作実習④</li> <li>7 発表会</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> <li>①実技（作品の提出）</li> <li>②レポート</li> <li>③筆記試験</li> </ol>		
教科書 Textbooks	<p>「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」協同医書出版</p> <p>「これで安心！買う前に読む 福祉用具の選び方 [改訂版]」(株)大井企画</p>		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「福祉用具支援論Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員24年の経験を有する。		

## ＝臨床実習＝

科目名 Course title	臨床実習 I (見学実習)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	40時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。</p> <p>また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、2年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「臨床実習 I」に相当する。		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。          宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。          木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。          杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。          勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。          宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。          中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	臨床実習Ⅱ (見学実習)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	40時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。</p> <p>また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、2年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「臨床実習Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。  宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。  木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。  杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。  勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。  宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。  中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	臨床実習Ⅲ (評価実習)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／3単位
授業方法 Teaching Methods	120時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本臨床評価実習の主目的は、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（情報収集、面接、観察、検査、測定）を実施し、全体像把握から問題点抽出、目標設定、援助計画の立案までを学習することとします。総合臨床実習に向けて、今後の自己の学習課題を明確化することに主眼が置かれます。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019年度以前入学者対象教育課程における「臨床実習Ⅲ」に相当する。		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。 宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。		

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法管理運営	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：作業療法士としてだけでなく、職業人として部門を管理・運営していくには何が必要か。こうした問題意識を起点として、医療・介護保険制度の概要、作業療法部門の開設、診療報酬制度、カルテ記載事項など遵守事項について講義する。また、管理運営に関する事例を提示しつつロールプレイを行い、理解を促進していく。</p> <p>到達目標：①診療報酬制度・介護報酬制度について理解し、概要について説明できるようになる ②診療報酬制度・介護報酬制度の改定情報を自身で得ることができるようになる ③感染や事故に関する知識をもち、応急対応に関するマニュアル作成を行うことができるようになる</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 管理・運営とは</li> <li>2 作業療法部門の位置づけと療法士への報酬の出所</li> <li>3 リーダーシップとフォローシップ</li> <li>4 管理する対象</li> <li>5 感染予防マニュアル</li> <li>6 事故防止のための整備</li> <li>7 作業療法管理運営のプロセス</li> <li>8 作業療法部門の成果</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	「作業療法概論」医学書院		
備 考 Other Comments	配布資料を使用し授業を実施する		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員12年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法研究法	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義、学内実習、臨床実習を通して得た知識・技術に関して、さらに幅広く学習し、事象を探求することを目的とする。研究計画の立案、文献検索、実態調査とその結果についての解析・考察など、一連の過程を通じ、最新の知見や検査・評価法、介入の効果等について他覚的に検討できる能力を養う。		
授業計画 Course Content	<p>(15時間で行う)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究とは？</li> <li>2) 文献とは？</li> <li>3) 具体的な研究方法の手段</li> <li>4) 引用時の注意</li> <li>5) 研究過程での注意すべきこと</li> <li>6) 論文の書き方</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義</li> <li>2 問題意識・テーマを決める</li> <li>3 研究計画書の提出</li> <li>4 中間報告</li> <li>5 中間報告</li> <li>6 中間報告</li> <li>7 仮提出</li> <li>8 発表</li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>進め方の 2～8 回目において、回数ごとに配点を設け、期日までに提出された研究論文の配点と合算して評価する。</p> <p>2回目：3点 3回目：3点 4～6回目：24点（ただし、中間報告が各回に行われること） 7回目：10点 8回目：10点 研究論文：50点</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。 宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

## ＝地域作業療法学＝

科目名 Course title	地域作業療法学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	今 かおり ・ 名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(今講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホームとデイサービスの OT の現状を知って、地域施設で働く OTR の役割を考える。</li> <li>・ 具体的な OT プログラムを体験し、実習や臨床に出てからの活動の参考にする機会にする。</li> <li>・ ワークショップで楽しくアイデアを出し合って、地域で働く OT の可能性を考える。</li> </ul> <p>(名倉講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度の全般的理解(介護認定からサービス利用に至るプロセスやサービス利用に関わる専門職種など)と同制度においてリハビリテーションの基幹施設と定義づけられる介護老人保健施設について学ぶ。また、2025 年を見据えた医療・介護の基本方針である地域包括ケアシステムを理解し、その取り組みの一環である地域ケア会議についても学習する。</li> </ul>		
授業計画 Course Content	<p>(今講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、施設紹介</li> <li>2、デイサービスセンターの OT について</li> <li>3、特別養護老人ホームの OT について</li> <li>4、ワークショップ～地域 OT ができることを考える～</li> <li>5、実技 &lt;OT プログラム体験&gt;</li> </ol> <p>(名倉講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 介護保険制度、介護老人保健施設についての説明</li> <li>7. 日本の医療・介護の展望 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年問題について</li> <li>・ 地域包括ケアシステムと介護予防・自立支援の取り組み</li> <li>・ 地域ケア会議の紹介と専門職の関与について</li> </ul> </li> <li>8. 地域ケア会議の模擬演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワークを通じての演習</li> </ul> </li> </ol>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(今 講師) レポート</p> <p>(名倉 講師) 全 10 問のテストを行う</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>今 講師：作業療法士として臨床経験 20 年の経験を有する。</p> <p>名倉講師：作業療法士として臨床経験 22 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	西尾 五郎 ・ 伊藤 健次郎	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
【講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives】 様々な領域での地域作業療法について講義を行います。			
授業計画 Course Content	<p>(1 5 時間で行う)</p> <p>&lt;精神障害領域&gt; 精神障害領域での地域リハビリテーションの具体的な取り組みの紹介。 ケアマネジメントの考え方について講義。 講義① ・地域リハビリテーションの歴史的背景 ・ケアマネジメントの紹介 講義② ・地域リハビリテーションの取り組み ・地域リハビリテーションでの作業療法士の役割</p> <p>&lt;訪問リハ&gt; 地域作業療法の実践や現状を訪問看護ステーションや就労支援事業所で勤務する OT、介護保険、障害福祉サービスを利用している利用者さんから聴き取る。 ワークショップ、参加型の講義を通して、学生さん自らで地域作業療法をデザインしてもらい、アイデアを共有し目分なりの地域作業療法のカタチを見出す。 講義①「地域作業療法のカタチ①」 1.自己紹介、キャリア紹介 2.各定義の紹介、日本地域作業療法学会、地域包括ケアシステムなどの説明 3.アクティブの紹介 訪問リハ、デイ、アクティブクラブ、就労支援、求められること、活動・参加応援事例集、心意気実践チーム等の紹介 4.利用者さんの紹介 ～疾患、障害のこと等を紹介～ 講義②「地域作業療法のカタチ②～ケースを実際に通して～」 1.利用者さんトークライブ ～ご病気のこと、障害のこと、お仕事のこと、訪問看護・リハに望むこと～ 2.質問タイム、運動麻痺のある左上肢の触診体験 3.感想文作成 講義③「地域作業療法のカタチ③～地域で活躍する病院 OT から &amp; 地域の社会課題とは～」 1.講師紹介 / 2.活動報告 / 3.地域の社会課題とは、ソーシャルキャピタルとは、地域コミュニティづくりの事例等の話題提供 4.感想文作成(A4 用紙) 講義④「地域作業療法デザイン～地域包括ケアシステムのなかでの OT の役割とは～」 1.グループワークのルールや流れ、LTP などのフレームワークの活用方法の説明 2.グループワーク / 3.発表・報告 / 4.まとめ</p>		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>&lt;精神&gt; 2 回の講義を踏まえて、地域リハビリテーションの課題についてレポート A4 1 枚程度作成。</p> <p>&lt;訪問&gt; グループワーク中で作成した LTP2 レポートを個別に完成させたものを A4 用紙 1 枚程度作成。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	西尾講師：作業療法士として臨床経験 2 8 年の経験を有する。 伊藤講師：作業療法士として臨床経験 2 2 年の経験を有する。		

科目名 Course title	居住環境整備論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整の為の評価と実際を学び、より豊かな生活と活動範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学習する。		
授業計画 Course Content	(15時間で行う) 1. 「障がい者・高齢者の機能特性と問題点・住環境整備の必要性」 2. 「住環境整備に必要な基礎知識（関連法規や建築に関すること）」 3. 「住環境の評価」 4. 「住環境整備の手順・方法（総論）」 5. 「疾患別住環境整備の手順・方法」 6. 「事例検討（GW・2症例程度）」		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート（50%）、学期末試験（50%）などによる総合評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	授業に興味・関心が持てるように、また学生の自主的な学習意欲を引き出せるように、教材や授業方法の工夫に努めます。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験18年の経験を有する。		

科目名 Course title	社会生活適応論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士は障がいを持つ方の日常生活を営む生活コーディネーターの役割を持つ。それは入院生活同様、社会復帰生活においても障がいを持つ方がどのように生き方を構築していくか、支えるリハビリテーションチームの一員として重要な役割をさす。</p> <p>ここでは障がいを持つ方にどのような医療制度、社会保険制度が支援材料としてあるのか、また、制度の中でいかに作業療法士が対象者を支援していくのかを学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の適応とは</li> <li>2. 人の生活における時間の使い方・障がいを持った方の日常生活上の不安とは</li> <li>3. 対象者と作業療法士をとりまく医療制度</li> <li>4. 医療制度の中での作業療法（ICFから）</li> <li>5. 対象者と作業療法士をとりまく保健福祉制度（ICFから）</li> <li>6. 保健福祉制度の中での作業療法</li> <li>7. 障がいを持つ方の在宅生活への作業療法支援（訪問リハビリ）</li> <li>8. 生活環境的視点                   まとめ</li> </ol> <p>*授業は基本的に、講師作成のプリントを使用します。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記述テスト</li> <li>・ 出席率（遅刻、欠席による減点法）</li> <li>・ 授業への取り組み態度</li> </ul>		
教科書 Textbooks	<p>総務省 統計局 統計データ 「社会生活基本調査」平成13年社会生活基本調査 これからの脳卒中リハビリテーション：浜村明德 監修、青海社</p>		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員3年及び臨床31年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	総合臨床実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。</p> <p>また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。</p> <p>その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。</p>		
授業計画 Course Content	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前半の4週間は学内での演習授業を実施する。5月末ごろの判断により、後半の5週間は、臨地での実習が可能か判断を行う。 (臨地での実習については、各実習施設による)</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。          宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。          木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。          杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。          勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。          宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。          中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	総合臨床実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。</p> <p>また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。</p> <p>その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導き出すことができるようにならなければなりません。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員24年の経験を有する。  宮本教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員12年の経験を有する。  木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員6年の経験を有する。  杉村教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員4年の経験を有する。  勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員3年の経験を有する。  宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員1年の経験を有する。  中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験を有する。</p>		

# 令和2年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：令和2年4月1日

至：令和3年3月31日

評価基準日 令和3年4月1日

学校法人栗岡学園  
阪奈中央リハビリテーション専門学校

理学療法学科

作業療法学科

《 学校関係者評価 評価委員 》  
(敬称略：五十音順)

委員長 米澤 泰司  
委員 大原 敏敬  
委員 川原 勲  
委員 酒井 真紀  
委員 谷川 優香  
委員 前原 園代  
委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：作業療法学科 学科長 理学療法学科 学科長 事務主任

教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

①リハビリ

2 看護

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたって	・動物介在療法、スポーツに関連する科目を開講し、本学の特色を打ち出すとともに多様化する理学、作業療法士へのニーズに対応した。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	協会が提示するコアカリキュラムを基盤に教育内容の見直しを図り、学習の効率化、遠授業を含め、積極的に効果的な教育手法を取り入れる必要がある。	患者様に信頼される専門職となるような指導を心がけて指導にあたること。 ○両科ともに特色ある科目を取り入れており、今後のリハビリ分野拡大のための人材輩出に貢献できていると思います。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、生活行為向上マネジメント、予防リハ、がんリハなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 さらに職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	○時代の変化が急速に進む今日において、今後も見直しを行い、カリキュラム設定を行っていただきたい。 ○働く現場毎に違ってくるニーズを学生が将来像を描けるよう、1年次よりしっかりフィードバックし、勉学に励んでもらうと良いと思います。 ○学修内容のアップデートは、時代の状況やニーズに則して定期的に検討していくことは、非常に大切だと思います。 ○日進月歩する医療技術に対応できるように、最新の教育体制で指導にあたること。

3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新型コロナウイルス感染症の影響で予定したカリキュラムの一部（臨床実習）が翌年度実施することになった。また、講義については、3年生の講義を一部前倒して実施した。	専門性をより高めるため、専門科目にやや比重を置いた設定とした。学年ごとの積み重ねを考えた配置としている。	5 + 分  4 ← つ う 3 2 1 不 十 分	現在のところ大きな問題は生じていないが、状況を常時把握し、問題が生じた際は速やかに対応する。	○コロナ禍において、カリキュラム変更等、臨機応変に不足なく行えるよう、速やかな対応をお願いします。 ○新型コロナウイルスによる実習中止となることが予測される。学校内で十分な教育をする必要がある。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	科目ごとの教授内容を明確化し、幅広い知識と技術が習得できるよう調整している。	科目間の内容のばらつきが減少した。科目間で重複した内容について調整している。	5 + 分  4 ← つ う 3 2 1 不 十 分	担当講師がインターネット等で原稿を直接入力できるシステムなどの構築を検討する。	○シラバスは問題なく作成されている。今後も不備のないように実施すること。 ○シラバスを教員・学生双方が分かるように明示し、内容と実際の講義における教授内容に差異が生じないようにしていく必要があると思います。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	理学療法、作業療法教育ガイドライン、臨床実習ガイドラインなど最新の動向も捉え、定期的に各学科で協議している。	オンラインで開催される教育学会や研修会に出向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	5 + 分  4 ← つ う 3 2 1 不 十 分	各種団体の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。	各種専門職の団体及び国の方針に沿って実施すること。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	最新の教科書の中から、学生の状況や国家試験の出題範囲を考慮し、また出版社営業の方からの意見も参考にして原則、科目担当講師が厳選している。	学生の現状とレベルが合致しない場合は、適宜テキストの変更を提案していく。	5 + 分  4 ← つ う 3 2 1 不 十 分	コアカリキュラムに則った知識が得られるような教科書や教材を精査すると共に、学生の現状を講師に伝え、担当講師に、より適切なテキストの提案をしていく。	○学生にとって難しすぎるのではないよう副教材を上手に活用していくこと。 ○学生の使用頻度もしっかりと把握し、レベルに応じてテキストの変更等を検討していく必要があると思います。

<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<p>原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。</p>	<p>到達目標の設定は各講師に一任してきたが、科目判定会議、進級判定会議を定期的に行い、厳正な評価に努めている。 理学、作業療法養成課程のコアカリキュラムが明示されたため、これに対応する必要がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 不</p> <p>10 +</p> <p>分</p>	<p>コアカリキュラムで示されている学修目標を取り入れた目標に合致しているか評価する。 新たに求められる能力要素があった場合は、成績評価ができるように追加する。</p>	<p>○定期的に情報交換を行い、個々に到達目標が達成できるように指導・評価されている。 ○学修目標と学生の学力レベルに大きな差が生じないように教員間でしっかりと管理が必要であると思います。</p>
<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<p>授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。</p>	<p>学修範囲が広い科目では中間評価を実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 不</p> <p>10 +</p> <p>分</p>	<p>学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っている。</p>	<p>○学生アンケート、小テストを通じて理解度の確認が行えて、場合によっては補習等を行っている。 ○引き続きアンケートを行い、学生の理解度に合わせ講義内容を調整していくと良いと思います。 ○大変すばらしい取り組みだと思いますし、講義内容の調整や改善・改革に取り組む姿勢が重要だと思います。</p>
<p>9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか</p>	<p>1年次よりグループ学習や学力アップ（専門基礎概論など）を取り入れ、専任教員が個々の能力を把握した対応を行っている。</p>	<p>現在課題となっている専門基礎科目の学力不足を補うべく、作業療法学科では「専門基礎演習」科目を新設した。理学療法学科では空きコマを活用し各学年で学力の補填を実施している。ただしカリキュラム外の活動が過剰にならないようにバランスを取りながら進める必要がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 不</p> <p>10 +</p> <p>分</p>	<p>新設科目で学習した内容や特別な補填が、専門科目や臨床実習にどのような効果を与えているか経過を追う。その結果を基に内容を見直していく。</p>	<p>○基礎科目の学力不足を指摘されることが多く、新設された科目に期待する。 ○よい取り組みがされていると思う。 ○全入時代を迎えて、かつ今年度の新生児が87万人ということをもふまえると、ますますこの点が課題になると思われる。奈良リハの先生とも連携して相乗効果をあげる取り組みが必要と思われる。</p>

<p>10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか</p>	<p>全教員が適宜指導している。臨床でのマナー・身だしなみ等については普段の学校生活から適宜指導している。</p>	<p>1年次から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 不 十 分</p>	<p>本校の教育方針の意図を学生、保護者に正しく理解いただけるよう綿密なコミュニケーションをとってゆくとともに、今後も教職員が手本を示し、職業人としてのマナーやルールについて教育していく。</p>	<p>○髪型や色、身だしなみは、医療職として信頼されるように指導されている。 ○教職員のマナーについては、それぞれのグループリーダーの手腕が問われるのかも知れませんが、一丸となって取り組む必要があります。</p>
<p>11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか</p>	<p>以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備</p>	<p>学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかかる時間を確保する。 スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 不 十 分</p>	<p>リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会や研修会に参加し、情報収集していく。また我々の教育効果を検証するためにも学会発表や研究活動を精力的に行い、教職員全体のスキルアップを行っていく。</p>	<p>○教育技術向上に日々取り組んでいるが、学位取得・論文発表にも積極的に取り組んでいく。 ○積極的に教育技術向上に力を入れられていますので、その成果が結実することを願っています。</p>
<p>12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか</p>	<p>講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。</p>	<p>評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>2 ふ</p> <p>1 不 十 分</p>	<p>今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。</p>	<p>○全科目に授業アンケートを実施している。アンケートの意見を精査して、より一層充実した内容になるよう取り組んでいく。 ○非常勤講師にも、学生のアンケート結果をフィードバックし、講義内容の見直しを行っていく必要があると思います。</p>

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。 視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。	5 + 分 4 ふ つ う 3 2 1 不 十 分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR教室でも試験を実施できる対策を検討する。	○教室数は十分に確保できている。コロナ感染防止にも十分予防していく。 ○国家試験様の雰囲気让学生在慣れさせるため、普段の教室とは違う環境で、試験を受けさせると良いと思います。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか (有効に活用されていますか)	基準を満たした蔵書数を保有している。 メディカルオンラインを導入しており、文献検索が容易になった。	同じ建物内に図書室があるため、利便性が向上したことによって利用率が向上した。	5 + 分 5 4 ふ つ う 3 2 1 不 十 分	引き続き配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。	○図書館には十分な蔵書が保有されている。また、オンラインによる文献検索の活用も勧めていく。 ○より多くの生徒が図書室を利用できるように、パソコン等を増やしてネットでの文献検索等を充実させていくことが必要であると思います。 ○図書室の概念も今後変化していき、デジタルラボの様相を呈してくる可能性があります。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。検査機器、研究機器を新規購入し、学習環境が向上した。	今後も新規購入及び更新が必要な備品に関しては年間購入計画を作成し補充・更新していく。	5 + 分 4 ふ つ う 3 2 1 不 十 分	新規購入の必要な機材、修理が必要な機器の管理を徹底し、学修に影響が出ないように努める。	実習室は十分な広さがあり、研究・検査機器も十分用意されている。

<p>4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）</p>	<p>各教室のプロジェクターやマイクについては利用しやすい環境である。</p>	<p>教育環境としては充実している。 学内 Wi-Fi が充実し、利便性が向上した。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>不 十 分</p>	<p>Wi-Fi 品質をさらに向上させ、遠隔授業やオープンキャンパスにも対応した環境を整備していきたい。</p>	<p>○今後、益々必要性が増していくものと思われるため、環境を整備し有効活用していただきたい。 ○今後も講義等オンラインになる可能性を見据えて早急に Wi-Fi 環境を整える必要があると思います。 ○すばらしい環境です。今後も充実して、運用面でも幅広い展開を期待しています。 ○各教室での視聴覚機器は十分に用意されている。</p>
<p>5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>男子寮、女子寮を保有している。 女子寮はキャンパス敷地内にある。</p>	<p>女子寮には住込みの管理者を配置している。 男子寮・女子寮ともにオートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>不 十 分</p>	<p>時間外の女子寮入口はカードキーで安全に管理されている。</p>	<p>男女とも学生寮があり、セキュリティも十分に確保されている。</p>
<p>6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>体育館、運動場ともに保有している。 授業やレクレーション、また例年であれば式典で利用している。</p>	<p>和幸会グループのクラブ活動や、関連病院と連携し競技復帰前のスポーツ選手も活用している。芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4 ←</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 →</p> <p>不 十 分</p>	<p>体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討している。</p>	<p>○今後地域貢献も含めて活用できるよう、感染対策も踏まえて検討していく必要がある。 ○常に地域に開かれた学校であってほしいと思います。 ○学校敷地内に体育館や運動場が確保されており、イベントによって十分活用されている。</p>

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント																				
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティングや会議にて担任だけでなく、全教員で対応を検討している。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	<table border="1"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td></td> <td>ふ</td> <td></td> <td>不</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+		ふ		不		←	つ	→	+	分		う		分	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続する。	クラス担任制をとり、問題のある学生をフォローしている。また、各教員間で情報交換を積極的に行っている。
5	4	3	2	1																					
+		ふ		不																					
	←	つ	→	+																					
分		う		分																					
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しかねる問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	<table border="1"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td></td> <td>ふ</td> <td></td> <td>不</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+		ふ		不		←	つ	→	+	分		う		分	現状では十分な環境が整っていると思われる。	○臨床心理士へカウンセリングできるようにしている。希望者は適宜実施している。 ○今後、学生の心理的ケアの必要性が増加することが予測されますので、さらに積極的に臨床心理士と連携を取る必要があると思います。 ○カウンセリングについては、保護者にも対応できる仕組み作りが必要かもしれません。
5	4	3	2	1																					
+		ふ		不																					
	←	つ	→	+																					
分		う		分																					
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2部屋、また、各所に椅子やソファが設置されており、休憩時間や自習時に学生が有効利用している。	学生用スペースとしては広く、充実している。	<table border="1"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td></td> <td>ふ</td> <td></td> <td>不</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+		ふ		不		←	つ	→	+	分		う		分	照明が暗い傾向にあり、点いていない時間があるなどの部分を改善できるよう、働きかけを続けていきたい。	○敷地内に休憩スペースが複数あり、十分といえる。 ○学習期の若者にとって、照明は視力障害にもつながるので、改善が図られるようにしていただきたいです。
5	4	3	2	1																					
+		ふ		不																					
	←	つ	→	+																					
分		う		分																					

<p>4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか</p>	<p>食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。学内に売店はないが、弁当の注文販売を平日に行っている。</p>	<p>弁当と自動販売機によって購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>←</p> <p>3</p> <p>ふ</p> <p>つ</p> <p>→</p> <p>2</p> <p>う</p> <p>1</p> <p>不</p> <p>十</p> <p>分</p>	<p>食事場所のスペースは十分である。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストアもあり、利便性は向上している。</p>	<p>○コロナ禍においては、食事場面でのソーシャルディスタンスに十分留意し、感染対策をしっかりとっていただきたい。 ○コロナ対策の充実を目指して下さい。 ○食事スペースは十分に確保している。売店はないが、近隣にコンビニエンスストア等があり、問題ない。</p>
<p>5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか</p>	<p>日本学生支援機構の奨学金を中心に案内している。独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。</p>	<p>一般病院から、またその他奨学金の案内をいただいた際は、随時掲示にて学生に連絡を行っている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>←</p> <p>3</p> <p>ふ</p> <p>つ</p> <p>→</p> <p>2</p> <p>う</p> <p>1</p> <p>不</p> <p>十</p> <p>分</p>	<p>日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となっている。</p>	<p>独自の奨学金ではなく、日本学生支援機構を案内している。又、一般病院の奨学金を随時案内している。</p>
<p>6. その他 国家試験について</p>	<p>現役生の国家試験合格率には課題があるが、既卒者については本校独自のフォローアップ制度を利用し、高い合格率を維持している。オンライン学習指導も活用した。</p>	<p>既卒者の受験者に対しては、専属で教員を配置し、綿密な計画のもとアクティブラーニング等も取り入れ、個々の学生の弱点克服に取り組んだ。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>←</p> <p>3</p> <p>ふ</p> <p>つ</p> <p>→</p> <p>2</p> <p>う</p> <p>1</p> <p>不</p> <p>十</p> <p>分</p>	<p>長年にわたり国家試験対策を担当した教員の教育力、分析力が高まっており、これまでの経験を次年度の国家試験対策に活用する。</p>	<p>○オンライン指導も活用されている事で、デメリットもあるかと思われるが、個々の対応等、工夫して取り組んでいただきたい。 ○現役生の合格率向上に向けて、対策をしていく必要があります。1年次より国家試験の意識づけとして3年生と可能な範囲で交流会の場を設け、リアルな勉強の行い方等話し合える場を設けることができると良いと思います。 ○既卒者の対応すばらしいと思います。 ○入学時より国家試験を念頭に置いて指導している。毎年高い合格率で推移している。</p>

## 4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

### ◇遠隔授業に迅速に対応

新型コロナウイルス感染症により対面での授業が困難となることを早期から予測し、令和2年3月から Zoom ミーティングを使用した遠隔授業の実施環境を整備し、4月3日からオンラインでの授業を開始した。その結果、一部の臨床実習科目を除き、ほぼ年度内に配当学年の授業を完了することができた。

### ◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動

①新型コロナウイルスの影響を受けつつ、年度末には従来実施していた奈良県の脳卒中患者会2団体の会員の方々に複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら現場と同等の環境で学習する機会を作得ることを計画した。

### ◇ホースセラピーへの取り組み

①11月に、講師として東京農業大学の川嶋准教授、NPO法人ピスカリ様にお越しいただきホースセラピー特別講義を開催した。

②今後も特別講義を開催する予定である。

### ◇スポーツリハへの取り組み

①新型コロナウイルス感染症により接触する機会が制限される中、企業クラブとの連携を強化した。

②スポーツリハに特化した講義を本年度1年生に実施した。

### ◇出前講座の実施

①四條畷市立田原中学校のキャリア教育講座（2年生）に講師派遣し、作業療法士の職業紹介及び体験指導を実施した。

○学校全体の特色がわかりやすく、実際のカリキュラムにも組み込まれており、今後のリハビリ分野の拡大に向け、新たな人材育成に携われていると思います。入学志願者を増やすために、さらにホームページや SNS を活用し学校のアピールを行っていくことが今後必要になると思います。

○今後の授業もしばらく遠隔授業をまじえて進めていかなければならないと思いますので、今まで以上に Wi-Fi 環境の設備向上。学生の個人情報の管理を徹底することが必要になってきます。また現代の教育の流れとして、ICT 教育等ネット化が普及されていますので、今後そういった教育法の導入等も検討していくと良いと思います。

以上

# 令和2年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：令和2年4月1日

至：令和3年3月31日

評価基準日 令和3年4月1日

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

日本語科

《 学校関係者評価 評価委員 》  
(敬称略：五十音順)

委員長 米澤 泰司  
委員 大原 敏敬  
委員 川原 勲  
委員 酒井 真紀  
委員 谷川 優香  
委員 前原 園代  
委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：日本語科主任 事務主任

# 1 教育

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	将来の医療（主に介護）人材を育成するべく、今年度は学生のニーズに応じたカリキュラムの見直しを行ってきた。日本での生活や資格外活動に差支えないよう、コミュニケーション能力の涵養を主眼とした教育を心掛けている。	概ねコース目標通りの授業が展開できていると考える。 学生の国籍に偏りがあり授業内で母語に頼る学生が存在する。そのことが学生の日本語運用能力の伸長に際して障壁となっている部分がある。	5 十 分  4 3 ふ つ う 2 2 ふ つ う 1 不 十 分	カリキュラムおよびシラバスは現状では問題はないと考えるが、今後、学生数が増加することに伴う新たな課題への対応が必要である。	○まだまだ試行錯誤の状態ですが、非常に重要な取組みが多く、社会的貢献度も高く様々な工夫が必要だと思いますが、健闘して下さい。 ○卒業生からのヒアリングなども取り入れて、ニーズに応じたカリキュラムの検討も必要と考える。 ○入学当初に母国語の使用を学校生活の中では禁止する旨を伝えるなど環境を作ることも必要と思う。
2. カリキュラムに卒業後の職場のニーズをどのように反映していますか	学生の進路ニーズは、介護・ビジネス関連の専門学校、日本の大学進学を目指すための専門学校、特定技能（介護）による就職など多岐に渡っている。それぞれのニーズに応じた日本語能力の獲得を目指した日本語教育を行っている。	今年度から日本で介護人材となることを目指す者に対しては、介護現場で役立つ「介護の日本語」の授業や日本人の国民性や文化的特徴などを学ぶ授業をカリキュラムに取り入れ、学生から高評価を得ている。	5 十 分  4 3 ふ つ う 2 2 ふ つ う 1 不 十 分	学生の多様な進路ニーズを正確に把握し指導するとともに、日本社会で医療（介護）人材として働くことを希望する学生に、「異文化で働く」ということはどういうことかについて言語化して伝えていくことが必要であると考えます。	○進路ニーズに応じた個別指導は今後も多岐に渡って必要になってくると考える。充実させていきたい。 ○介護職に必要な日本語教育が実践できている。 ○実際に働く卒業生に、学生に向けて話をすることで、学生はよりリアルに働くことに対して考えることができると思っています。

<p>3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか</p>	<p>入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラスの状況がある程度確保できている。(1クラス12名まで)</p>	<p>春学期入学2年制の学生については余裕を持ったカリキュラム編成が可能である。 秋学期の入学者については進路の決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成には課題が多い。学習時間と内容の確保には新たな取り組みが必要であると考ええる。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十分</p>	<p>秋学期については、入学時点で相当の日本語運用能力を保持していなければその後の進路指導に支障があることが明確になってきた。学生募集時から学習修了時の計画を明確にし、実現可能な指導が行える体制が必要である。</p>	<p>○日本語レベルのN1～5レベルの取得については、どの程度か。目標達成できているのか？課題達成のための、指導体制を見直していく必要があるのでは。 ○秋入学者に関してはN4～N3能力者に限定した方がよいとのことですね。 ○少人数制であり、個々の学習到達度を把握しており、柔軟に対応できている。 ○提示されているように、入学早々に、どの程度の日本語運用能力があればどの程度の仕事ができるかという大体の目標を明確にしたうえで、進路指導をしていく必要があると思います。</p>
<p>4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）</p>	<p>学生のニーズに応じて、見直しをしながらコース毎のシラバスを作成している。当該シラバスは、各レベルを担当する教員により実際のカリキュラムに反映される。</p>	<p>学生のニーズの変化に応じて柔軟に検討や見直しをすることができている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十分</p>	<p>各教員間でシラバスの内容についての理解を深め、具体的にどのような形で運用していくべきか常に話し合いをし、改善点については随時検討していく必要がある。</p>	<p>○教員間のチームバランスをどう保持するか、重要だと思います。 ○シラバスの内容と実際の講義における教授内容に差異が生じないように、小まめに修正・改善が必要であると思います。</p>

<p>5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか</p>	<p>日々蓄積され全専任教員に公開される授業報告や、アルバイト先である介護施設職員からの声等をもとに、学科運営会議等で随時進度・教材・クラス編成等につき見直しを行っている。</p>	<p>教育実績等から考え、今年度行ったカリキュラムの見直しは教育目標の達成に大きく寄与した。語学教育では入学前のレディネスによりクラス運営が大きく変化するため、広報等との密な情報共有が必要である。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十 分</p>	<p>学生募集や提携海外教育施設との折衝等に教職員が積極的にかかわり、事前に得られる情報を教室に反映させていく必要がある。</p>	<p>○現場の声を反映して見直しをその都度されている。 ○勤務先によってニーズが変化するため、カリキュラムもそのニーズも参考にしていく必要があると思います。</p>
<p>6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか</p>	<p>医療（主に介護）人材を養成する機関への進学や特定技能による就職を目指す場合、日本語能力試験 N3～N4 レベル以上への到達が求められる。学生のレベルやニーズに応じてテキスト等を採用している。</p>	<p>学生個々人のレベルに応じ細分化された教材の提供ができた。JLPT 合格のための取り組みだけでなく、学んだ言語の運用に主眼を置いたアウトプット中心の授業でどのような教材を活用するかが今後の課題である。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十 分</p>	<p>教育方法等も日々新しくなり、効果的に学習が進められる教材も日々新しいものが生まれる。常に教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。</p>	
<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<p>基本的言語能力（読解、文法、文字語彙、聴解）の知識に加え、介護業務場面等における「実際の日本語運用能力」についても「会話」や「介護の日本語」、「作文」等の試験を通して評価している。</p>	<p>インプット授業による言語知識に対する評価と、それらの言語知識をいかに運用できるかについての評価をバランスよく行おうとしている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十 分</p>	<p>現在は日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させており、評価作業が煩雑になっている。今後の学生数の増加を視野に入れた信頼性かつ合理性の高い評価法を検討していく必要がある。</p>	<p>○学生が不公平を感じることがないように評価基準があることが望ましい。 ○教員の負担軽減のため、CBT 等のコンピューター試験や評価を取り入れてみても良いかもしれません。 ○本校でも留学生5名に対して専門的な日本語の授業を週6時間実施していますが、様々な問題を抱えながら展開しています。ご指導いただける機会がありましたらよろしく願います。</p>

<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<p>レベル別クラスによる JLPT 対策授業、アウトプットを主眼に置いた技能別授業等、学生の能力や授業の目的に応じた活動を展開している。</p>	<p>現在の授業運営は学生の能力に応じて細分化された設定がある程度可能となっている。今後学生数が増加することに伴い現状から後退する部分をどう補うかを検討する必要がある。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十 分</p>	<p>学生数の増加に伴い、語学学習環境（クラスサイズ）のあり方を検討する必要がある。</p>	<p>○客観的評価により、学修理解度に応じて個別指導等を行うことが望ましい。 ○教育効果を上げるためにも、少人数クラスを実現させるべきだと思います。 ○クラス分けは習熟度別にする対応はされているのですか？</p>
<p>9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか</p>	<p>学力不足が認められる学生については、課題を与えることで、クラスでの学習に追いつく補助としている。</p>	<p>きめ細やかな授業内外でのフォロー体制をいかに機能的に設定するかが今後の検討課題である。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十 分</p>	<p>教員間での学生情報の共有、学習に困難を抱える学生に対する迅速な対応がその後の学習活動に影響を与えるという意識の共有が肝要である。</p>	<p>学生同士のグループ学習を取り入れたり、講義内での確認テストを増やしていくと良いと思います。</p>
<p>10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか</p>	<p>全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、学生の出身国とは異なる意識（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導をしたり、日本語の授業などを通じて日本人の行動規範や思考様式などを学ぶ授業を行っている。</p>	<p>入学時、また必要に応じて、マナー等についての理解を深める教育を行っている。 全ての事象につき短時間で伝えることは難しいため、思いも寄らない問題が生じる場合があり、何度も繰り返し指導をする必要性を感じている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>3 ふ</p> <p>2 つ</p> <p>1 → 十 分</p>	<p>生活習慣や文化の違いから生じる問題もあるなか、今後も個々の学生に対して対話と指導を行っていく。</p>	<p>○就職先への訪問なども取り入れ、評価していく事もよいのでは。求められる人材となる為、社会人としての在り方を指導する。 ○文化や生活習慣が違うため、根気よく指導する必要がある。 ○丁寧な指導に自己評価を高くしてもよいと思います。今後の健闘を期待いたします。又、学生さんから学ぶ点もあろうかと思うのですが、お教え願えたらと思います。</p>

11. 教育技術（教育方法） の研修・研究を実施 していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、学んだ内容について学科内で共有している。また定期的に外部の日本語教育機関との勉強会も実施している。	教員間で情報を共有したり授業を相互に見学したりしやすい環境が整えられている。	5 十 分	4 ふ う	3 つ う	2 →	1 不 十 分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えられるよう研究発表等による情報発信を行っていききたい。	
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	アンケートや面談等を行い、学習内容や授業、学校生活への評価を母語を用いて聞きとっている。	各教員の評価は行われていないが、授業全体については学生からの聞き取りにより評価を聞き取ることができている。	5 十 分	4 ふ う	3 つ う	2 →	1 不 十 分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことが多い。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。	アンケートを匿名で記入させ、各教員の講義内容についてより積極的に評価してもらい、教育改善に活かしていくと良いと思います。

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価					今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. 教室の数や広さ、 附帯設備は適切ですか	教室の数は十分であるが、施設整備の点から、聴解や保温等について課題がある。	教室の数と広さは十分である。ただ教室前のロビー環境の整備が期待される。	5 十 分	4 ふ う	3 つ う	2 →	1 不 十 分	授業活動に必要な教具や機材、授業研究に必要な機材を充実させる必要がある。また留学生がリラックスして過ごせるような環境整備が必要である。	
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室および書棚を設置し、多読教材等が閲覧できるようにしている。	今年度若干の多読用教材の補充を行ったが、まだ書籍の点数が少ないため、熱心な学生はレベルに応じた書籍をすぐに読破してしまう。	5 十 分	4 ふ う	3 つ う	2 →	1 不 十 分	教材費の充実、不要となった書籍の寄付を募る等の方法により、学生が満足できる内容の蔵書を充実させていきたい。	○学生の興味がある書籍を積極的に購入する必要がある。 ○デジタル教材の充実と運用が、留学生には特に必要ではないですか。 ○図書室で調べ物をしやすいように、インターネット検索をできるように環境設定していく必要があると思います。

3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習等は行わない。									
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	プロジェクター等は利用しやすい環境にある。学生の調べ学習のために Wi-Fi が設置されている。	聴解のためのスピーカーや書画カメラ等、今後追加したい機材もある。Wi-Fi の利用の為に学生は Facebook へのログインが求められ、個人情報保護の観点から利用しない学生もいる。	5 +	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 +	十分	学習時間の短さを補うため、LMS（Learning Management System）等の利用による教室外学習と反転授業の可能性について検討したい。	個人情報管理を徹底しながら、wi-fi 環境を設置できるようにしていくことで、より調べ物等をしやすくなると思います。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	留学生全員に学生寮を安価な価格で提供している。女子寮は講義棟に併設しており、男子寮も徒歩で 5 分程度の場所にある。	施設備品等について不具合の生じたものは、適宜、改善及び改修を行っている。	5 +	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 +	十分	今後も、学生生活の一環として学生寮での生活を、学びの場として捉えていきたい。	○寮生活の中でも、日本語で話す習慣をつけなければ、なかなか上達していかないと感じている。 ○充分確保できている。 ○すばらしいの一言です。本校も百名を超える寮生がいますが、なかなか完全にはいかない面があります。
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館は例年であれば式典等で利用している。関連の阪奈中央病院の患者でスポーツ選手も利用している。広い芝生広場も備えるなど、留学生の学生生活には最適な環境はあるが、有効に活用しているとは言いがたい。	体育館や芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 +	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 +	十分	今後これらの設備を留学生が有効活用できるよう工夫をしていく必要がある。	地域貢献・地域交流を図るためにも、有効活用されたい。

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	各レベルのカリキュラム作成担当教員が成績等の管理を行うとともに担任業務も行っている。また、各教員が相互に他のレベルの担任業務をサポートする体制が整えられている。	学生の学習面、生活面は主として担任が他の教員と連携して把握に努める。 主任は教員からの報告により状況を把握し対応する。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	現状は全教員が全学生の状況にある程度把握できているが、今後学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われる。	生徒の増加に伴い、これまで通り全教員が全生徒を把握することは困難になります。クラス担任制で2名の教員を配置し、生徒への対応が難しい場合は全教員間で情報共有をしていくことが今後必要になると思います。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	母語を用いた面談を随時（入学時、進路指導時、その他必要に応じて）行い、状況の把握を行っている。また関連の医療施設にカウンセラーがおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	これまでのところ大きな問題は起きていないが、今後人数の増加に応じて、現在の運営が難しくなる部分があると考え。語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはないため、事務員が通訳を務めている。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	寮やアルバイトなど、学生の生活全般に関するカウンセリングを含めた「生活指導」担当の人員を充実させる必要がある。	○担当人員を充実させると共に、アルバイト先からの情報収集なども行いながら全般的なサポートをして頂きたい。 ○母国語を話せるカウンセラーの存在が望ましい。 ○アンケートを取ったり定期的に行う必要があるのかも。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブルなど、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内には使用されていない空間も多く、また温かみに欠ける印象である。学生が快適に過ごせるように何らかの改修を含めた利用が望ましい。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	未利用部分の整備を検討する。	広さはあるが殺風景。安全性を確保して、休憩時間も楽しく過ごせる設備の導入を望みます。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	二部制であるため、午前授業の学生が教室前ロビーや祈禱室で昼食を取っている。売店はないが、弁当の注文販売があり、自動販売機も十分設置されている。	二部制であるため、午後授業の学生は寮で昼食を取ってから授業を受けるため、全員が校内で食事をとることはあまり多くない。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	食事場所については十分である。 売店については近所にスーパーやコンビニがあり、出張販売もあるのであまり不自由ではない。（今年度はコロナの影響で飲料の出張販売中止）	

5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	現段階では学校独自の奨学金や特待生制度は行っていません。 独自の支援制度としては、診療費補助制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 十 分	4 ふ う	3 つ	2 不 十 分	1 不 十 分	成績優秀者等への奨学金が設定できれば学習動機の向上につながると考える。	学生のモチベーション向上のため、成績優秀者等へのインセンティブがあることが望ましい。 ○ちょっとしたアワード制の導入で景品も提供するシステムがあれば。(例えば何かのコンテストを実施に伴って)
6. その他	特になし								

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み

- ・日本、日本文化等への理解を深める機会を与える工夫として、お正月文化体験（書き初め、凧作り）や日本のお祭り体験など、各種イベントを年間行事に盛り込んでいる。
- ・学生のアルバイト先である介護施設の職員による出張授業を実施し、介護業務やキャリア形成、日本人職員との仕事上でのコミュニケーション等について考える機会を設けている。
- ・近隣地域との連携の一環として、朝のあいさつ運動や清掃活動に参加している。
- ・近隣自治体主催の外国人スピーチコンテストなどの学外活動にも積極的に参加できるような環境を整え、教員はそのための手厚いサポートも行っている。  
(スピーチコンテストは2年連続入賞)

## 4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

- ・日本文化に多く触れていくと、より日本への関心が高まり、学習意欲向上に繋がると思います。そのため、今行われているような各種イベント行事の実施やあいさつ運動、清掃活動はとて学生にとって有意義な活動になっていると思います。この先、カリキュラムの中でこういった内容の実習等を取り入れると、よりリアルに日本の文化に触れることができ、語彙力の向上にも繋がると思います。